

- 1 ジャパンタイムズ(The Japan Times) 11867(明治30)年創刊。日本で最も古い歴史を持つ英字紙。
- 2 日比谷会館 財団法人通信社史刊行会 現公益財団法人新聞通信調査会が戦後、同盟別館跡地の千代田区内幸町2丁目に建設したビル。その後取り壊され、現在、日比谷パークフロントが立っている。
- 3 スケルトン、エクステンション 海外から入電した簡略化された英文電報をスケルトン(Skeleton 骨組み)、それを通常の英文に仕立てることをエクステンション(Extension 拡張)と称した。
- 4 経済通信 綿花、為替、株式などの相場情報を企業や金融機関などに速報するサービス。経済活動が盛んな大阪で発達した。当初はニューヨークなどの海外相場情報を中心だった。
- 5 横浜正金銀行 11880(明治13)年に設立された貿易金融を専門とする銀行。1946(昭和21)年に解散し、業務は新たに設立された東京銀行に引き継がれた。合併を経て現在は三菱UFJ銀行。
- 6 七十四銀行 11872(明治5)年、第七十四国立銀行として横浜に設立され、その後、七十四銀行に改組。経営不振で休業後、業務は横浜興信銀行(現横浜銀行)に引き継がれた。
- 7 十五銀行 11877(明治10)年、第十五国立銀行として東京に設立され、その後十五銀行に改組。1944(昭和19)年帝国銀行に吸収され、現在は三井住友銀行。
- 8 臨時資金調整法 11937(昭和12)年9月、戦争遂行のため軍需産業に資金を優先的に投入することを目的に制定された法律。戦後廃止された。
- 9 満蒙五鉄道 11913(大正2)年10月、日本と中華民国の間に結ばれた「満蒙鉄道借款修築に関する交換公文」に盛り込まれた鉄道路線。
- 10 督軍 辛亥革命後の中国各省に置かれた軍政長官のこと。当時の山東省の督軍は田中玉。
- 11 御大典 11928(昭和3)年11月10日、京都御所で行われた昭和天皇の即位式。
- 12 東方通信社と合流 11926(大正15)年5月、国際通信と東方通信は合併して日本新聞聯合(その後、新聞聯合)になった。
- 13 大阪倶楽部 大阪市内にある会員制社交クラブ。1912(大正元年)オープンした。倶楽部会館は大阪の近代名建築の一つといわれる。
- 14 時事新報 11882(明治15)年、福沢諭吉が創刊した日刊紙。1936(昭和11)年に休刊。
- 15 国民新聞 11890(明治23)年、徳富蘇峰が創刊した日刊紙。1942(昭和17)年都新聞と合併、東京新聞に。
- 16 中央新聞 11883(明治16)年創刊の絵入朝野新聞が前身。91年に中央新聞に改題。立憲政友会の機関紙になる。
- 17 大北電信ノグレート・ノーザン(The Great Northern Telegraph Co.) デンマークのかつての電気通信会社。現在は電気通信事業から撤退、音響機器メーカーGNとして営業している。1871(明治4)年に上海―長崎間、ウラジオストク―長崎間に海底ケーブルを敷設、日本では大北電信と呼ばれた。
- 18 極東オリンピック(極東選手権大会) 正式には極東選手権競技大会。1913(大正2)年から34(昭和9)年まで計10回開催。日本、中華民国、フィリピンなどが参加。東京では17(大正6)年の第3回と30(昭和5)年の第9回、大阪では23年(大正12)年の第6回が開かれた。
- 19 歩み 証券会社などに電話で株式相場をほぼリアルタイムで通報する

- サービス。聯合や同盟の各支社局には専用の連絡要員がいた。
- 20 中外商業新報Ⅱ日本経済新聞の前身。1876(明治9)年中外物価新報として創刊。89年中外商業新報に改題。1946(昭和21)年日本経済新聞に。
- 21 内信Ⅱ国内ニュースのこと。
- 22 鎮守府Ⅱ日本海軍の機関。各海軍区の軍港警備や所属艦隊の統括を任務とした。
- 23 九州日報Ⅱ1887(明治20)年福陵新報として創刊。98年九州日報に改題。1942(昭和17)年福岡日日新聞と統合し西日本新聞に。
- 24 大公報Ⅱ中国の日刊紙。1902(明治35)年天津で創刊された。
- 25 西原借款Ⅱ1917(天正6)年から翌年にかけて寺内正毅内閣が、中国の袁世凱政権の後を継いだ軍閥出身の段祺瑞政権に供与した巨額の借款。仲介役を務めた寺内首相の腹心、西原亀三の名前から西原借款と呼ばれた。
- 26 北伐Ⅱ国民革命軍が中国北部の軍閥政府を打倒し全国統一を目指した軍事行動。孫文による第1次北伐(1922年)、第2次北伐(24年)、蒋介石が率いた第3次北伐(26〜28年)がある。単に北伐という場合、蒋介石の北伐を指すことが多い。
- 27 臨城事件Ⅱ1923(天正12)年5月、山東省の臨城で急行列車が地元武装集団に襲撃され、乗客の欧米人多数が人質になった事件。
- 28 日本ニュース映画社/日本映画社(日映)Ⅱ1940(昭和15)年、朝日、毎日、読売、同盟の4社ニュース映画部門を統合し日本ニュース映画社として発足。41年、社名を日本映画社に変更し、ニュース以外に文化映画の制作も業務とした。
- 29 ロスタⅡ現在のロシアの通信社、タス通信の前身のロスタ通信社のこと。
- 30 (中華民国)維新政府Ⅱ1938(昭和13)年3月、南京に樹立された日本軍の地方傀儡政権。
- 31 中華聯合通訊社Ⅱ1938(昭和13)年2月、同盟通信が中国の有志と協力して上海に設立した通信社。
- 32 同文書院Ⅱ一般財団法人霞山会の前身の東亜同文会が1900(明治33)年、南京に設立した教育機関。01年に上海に移転し、東亜同文書院と改称。
- 33 紹興Ⅱ中国浙江省の都市。作家魯迅の生地で、紹興酒の産地として知られる。
- 34 前門Ⅱ北京の天安門広場南側にある大通り、前門大街のこと。古くから繁華街として知られる。
- 35 新京Ⅱ1932(昭和7)年から中国吉林省長春市に満州国の首都が置かれたときの名称。45年の終戦とともに長春に戻された。
- 36 「北京に帰れ」Ⅱ座談会の後半で言及される通り、実際にはこう言ったのはケネディではなく、英国人スタップのスイートだった。
- 37 芳沢・カラハン会談交渉Ⅱ1924(天正13)から25年にかけて北京駐在の芳沢謙吉公使とカラハン・ソ連大使の間で行われた日ソ国交回復交渉の会談。25年1月に日ソ基本条約が結ばれ国交は回復した。
- 38 国聞通訊Ⅱ1921(天正10)年、上海で創設された通信社。
- 39 津浦鉄道Ⅱ天津と南京北西部の浦口を結ぶ鉄道。1912(天正元年)に完成。
- 40 柳条溝Ⅱ1931(昭和6)年9月に起きた満州事変の発端となる鉄道爆破事件は当時、柳条溝事件と報じられ、座談会当時も「柳条溝」が一般的だった。しかし柳条溝という地名はなく、最近歴史学者の提案で付近の湖の名から「柳条湖事件」という呼び名が定着している。
- 41 ジャパン・ガゼット(The Japan Gazette)Ⅱ1867(慶応3)年、英国人

- ブラックが横浜で創刊した英字新聞。関東大震災で打撃を受けて廃刊。
赤紙あかがみ＝顧客に配る経済通信は、ピンク色の用紙が使われていたため赤紙と呼ばれた。
- 42 高知新聞1904 (明治37)年9月創刊。41 昭和16年に土陽新聞を合併吸収し、県内唯一の日刊紙になる。
- 43 千代田通信1913 (大正2)年に創設された通信社。内閣や皇室ニュースに強かった。
- 44 電車の切符＝当時の東京市電(現在の都電)の回数乗車券のこと。
- 45 都1884 (明治17)年、夕刊紙の「今日新聞」として創刊。その後、「みやこ新聞」に改題し朝刊紙に。さらに「都新聞」に改題。1942 (昭和17)年国民新聞と合併して東京新聞に。
- 46 報知新聞1872 (明治5)年郵便報知新聞として創刊。1942 (昭和17)年読売新聞と合併して「読売報知」に。戦後、「新報知」として復刊。48年に題字を「報知新聞」に戻したが、経営難で再び読売新聞の傘下に入り、現在はスポーツ紙を発行。
- 47 万朝報1892 (明治25)年、黒岩涙香あらいこうが創刊。大衆紙として発展したが、1940 (昭和15)年廃刊。
- 48 毎々1東京毎々新聞。日本初の夕刊紙として1877 (明治10)年創刊。
- 49 内報＝業界紙のこと。一般的には内部への知らせの意味も。ここでは新聞業界紙と勘違いされたとみられる。
- 50 済南事件1928 (昭和3)年5月、第2次山東出兵で中国に派遣された日本軍が、山東省の省都済南で国民政府軍と衝突した事件。
- 51 ロンドンの戴冠式1937 (昭和12)年5月、ロンドンで行われた英国王ジョージ6世の戴冠式。
- 52 ツェッペリン伯号ドイツの飛行船製作会社ツェッペリン社が製作した当時世界最大の飛行船。1929 (昭和4)年8月、世界一周飛行の

- 途中、日本に立ち寄った。
- 54 ウナ電＝至急電報。今は廃止されている。
- 55 天龍の脱退事件1932 (昭和7)年1月、大相撲の力士32人が角界の改革を求めて集団脱走し、東京・大井町の料理店「春秋園」に立てこもり、大日本相撲協会(当時)に10項目の要求書を提出した事件。
- 56 桜田門事件1932 (昭和7)年1月8日に起きた昭和天皇襲撃事件。
- 57 朝鮮独立を目指す組織のメンバーが、警視庁前で天皇一行の馬車に手投げ弾を投げ、馬車の一部が破損したが、天皇は無事だった。
- 58 相沢事件1935 (昭和10)年8月12日、陸軍中佐相沢三郎が陸軍省で軍務局長永田鉄山を軍刀で斬りつけて殺した事件。
- 59 台湾銀行問題1927 (昭和2)年4月、日本統治下にあった台湾の特殊銀行、台湾銀行が経営難に陥り、田中義一内閣の高橋是清蔵相が救済法案を成立させ再建した。同銀行は商業銀行の業務も営み、日本の敗戦とともに解散した。
- 60 台湾日日新報1898 (明治31)年、日本統治下の台湾で創刊された日本語新聞。
- 61 満州日日新報満州日日新聞。1907 (明治40)年、大連で創刊。満鉄の機関紙的な役割を果たす。27 (昭和2)年から35年までは満州日報と称した。
- 62 新愛知1888 (明治21)年創刊。1942 (昭和17)年に名古屋新聞と統合し、中部日本新聞(現在の中日新聞)になった。
- 63 名古屋新聞1906 (明治39)年創刊。1942 (昭和17)年新愛知と統合し中部日本新聞(現在の中日新聞)に。
- 64 北斗会＝陸軍省にあった記者クラブ。
- 65 福岡日日新聞(福日)1880 (明治13)年創刊。1942 (昭和17)年九州日報と合併し西日本新聞に。

- 65 京都新聞 11879 (明治12)年に京都商事迅報として創刊。97年京都日出新聞に。1942 (昭和17)年京都日日新聞と合併して京都新聞に。
- 66 山陽新報 11879 (明治12)年岡山で創刊。1936 (昭和11)年中国民報と合併して山陽中国合同新聞となり、48年5月、山陽新聞に改題。
- 67 匿名組合 匿名の組合員が出資し、営業で生じる利益の分配を受けることを約束する契約形態をいう。出資する組合員は営業相手に名を知られることがない。
- 68 全国地方新聞連盟 11928 (昭和3)年4月、新聞聯合の要請で、全国の有力地方新聞社29社が結成した組織。聯合とニュース交換協定を結び、全国重要ニュースの取材網を強化した。
- 69 小樽新聞 11894 (明治27)年創刊。1942 (昭和17)年同紙や釧路新聞など道内11紙が統合されて北海道新聞となる。
- 70 神戸新聞 11898 (明治31)年創刊。
- 71 京都日日 11912 (明治45)年、京都夕刊新聞として創刊。その後、関西日日新聞に改題、20 (大正9)年京都日日新聞に改題。42 (昭和17)年京都日出新聞と合併し京都新聞に。
- 72 大阪時事新報 11905 (明治38)年、東京の時事新報が大阪に進出して創刊。
大日本麦酒 大正から昭和にかけての日本最大のビール会社。戦後、朝日麦酒 現アサヒグループホールディングスと日本麦酒 現サッポロホールディングスに分割された。
- 73 柳橋 東京都台東区柳橋にかつてあった花街。
- 74 神兵隊事件 11933 (昭和8)年7月、愛国勤労党の天野辰夫らが中心となって国家改造を計画したクーデター未遂事件。
- 75 中国民報 11892 (明治25)年、岡山で創刊された日刊紙。1936 (昭和11)年山陽新報と合併、山陽中国合同新聞に。戦後、山陽新聞に改題。
- 76 アバス 11835年に設立されたフランスの通信社 (Agence Havas)。
1944年フランス通信 (AFP) に改組された。
- 77 神戸又新 (日報) 11884 (明治17)年、神戸で創刊された日刊紙。1939 (昭和14)年廃刊。
- 78 第1次上海事変 (事件) 11932 (昭和7)年1月、日本軍が上海で起こした軍事行動。米英などの調停で5月に中国軍との停戦協定が成立した。
- 79 ドイツ派遣を後援する会 11929 (昭和4)年、大阪財界を中心に新聞聯合の記者をドイツに派遣し、第1次世界大戦の敗北から復興を遂げるドイツの経済情勢を報告させようという構想が生まれ、同年6月、塚本義隆 (義隆) が大阪から初代ベルリン特派員として派遣された。
- 80 経済通信の東京本社移転 同盟通信は1938 (昭和13)年8月、国際通信時代から大阪にあった外国経済通信の機能を東京本社に移した。
- 81 東奥日報 11888 (明治21)年創刊。1941 (昭和16)年、八戸合同、弘前新聞、青森日報など青森県内の日刊紙を統合。
- 82 津軽選挙 青森県津軽地方で繰り返された贈収賄や買収の金権選挙。
- 83 大鉄傘 戦後は長く日本大学の講堂として使われ、1983 (昭和58)年に解体された旧国技館の大きな屋根は傘の形をしていたため、大鉄傘という愛称がついた。
- 84 バッグ便 同盟時代、本社と支社、支店間で書類をやり取りする場合、布袋に詰めて鉄道などで送り、社内では「バッグ便で送る」と称した。バッグ便は戦後、共同通信、時事通信の両社でも利用された。
- 85 チャプリンのとき 喜劇王チャプリー (チャールズ・チャプリン) (1889~1977) の1932 (昭和7)年5月の初来日を指す。五・一五事件の前日だった。
- 86 モボ 大正時代から昭和初期にかけて欧米のファッションに身を固め

- た若い男性はモダンボーイ(略してモボ)、女性はモダンガール(モガ)と呼ばれた。
- 88 大分新聞Ⅱ1889(明治22年、改進黨の機関紙として創刊。
- 89 アンゴーカーメラⅡドイツのカメラメーカーのゲルツが19世紀末に開発したカメラ。1930年ごろまで製造され、丈夫なため報道用カメラとしてよく使われた。
- 90 やまと新聞Ⅱ1886(明治19年)に創刊された大衆日刊紙。1945(昭和20)年休刊。
- 91 二六新報Ⅱ1893(明治26)年創刊。大衆紙として知られ、激しい政府攻撃で発禁処分を受けた。1940(昭和15)年廃刊。
- 92 便衣隊Ⅱ日中戦争時、一般住民の服装で偽装し敵地に潜入、諜報やゲリラ活動を行った中国人部隊。
- 93 西安事件Ⅱ1936(昭和11)年12月12日、西安を訪れていた蔣介石を東北軍閥の張学良の部隊が拉致監禁し、抗日と内戦中止を要求した事件。
- 94 川越・張群会談Ⅱ1936(昭和11)年9月から川越茂中国大使と張群外交部長の間で開かれた会談。日本は中国の対日政策是正を要求した。
- 95 通電Ⅱ中国で各地に宛てて出す電報。
- 96 南京政府Ⅱ国民党の蔣介石が1927(昭和2)年4月、上海で反共クーデターを起こし、南京に樹立した政府。
- 97 旗人Ⅱ清の時代に朝廷から生活の基盤となる農地(旗地)を支給された支配階層の満州人。
- 98 福建事件Ⅱ1933(昭和8)年11月、福建省福州に反日・反蔣介石を掲げる地方政権が成立したが、翌34年1月、国民政府軍の攻撃で崩壊した。
- 99 白系ロシア人Ⅱ1917年のロシア革命後、革命政権に反対して国外に亡命したロシア人。
- 100 海軍水兵殺傷事件Ⅱ1936(昭和11)年9月23日、上海共同租界で日本海軍の水兵3人が銃撃で殺傷された事件。
- 101 十九路軍Ⅱ北伐による中国統一を目指して組織された国民革命軍。1932(昭和7)年の第1次上海事変では日本軍と戦った。
- 102 サンチⅡフランス語でセンチ(メートル)のこと。
- 103 野戦支局Ⅱ従軍取材の報道チームが、軍駐屯地に臨時に設置する支局。
- 104 ノモンハン事件Ⅱ1939(昭和14)年5月から9月にモンゴルと満州の境界にあるハルハ川沿いのノモンハン周辺で起きた日ソの軍事衝突。
- 105 関東軍がソ連の機械化部隊に大打撃を受けた。
張鼓峰の日ソ衝突(張鼓峰事件)Ⅱ1938(昭和13)年7〜8月、ソ連・満州国境の張鼓峰付近で日本軍とソ連軍が国境線をめぐって武力衝突した事件。
- 106 満蒙通信社論Ⅱ新聞聯合専務理事・岩永裕吉が1931(昭和6)年12月、関東軍の求めに応じて提出した意見書。満州に「強大なる国家的新聞通信機関」の設立を提唱した。
- 107 熱河戦(熱河作戦)Ⅱ1933(昭和8)年2月、日本軍が開始した中国北部熱河省(当時)や河北省への進攻作戦。
- 108 通州事件Ⅱ1937(昭和12)年7月29日、北京近郊の通州(現北京市通州区)で、中国の保安隊が日本軍を攻撃し、女性や子どもを含む在留邦人ら約200人を殺害した事件。
- 109 依蘭事件Ⅱ1934(昭和9)年3月、日本支配下の満州国三江省依蘭県(現在の中国黒竜江省樺南県)で土地買収を進める関東軍に反発する農民が蜂起した事件。
- 110 満映Ⅱ満州映画協会の略称。1937(昭和12)年、映画を通じて日本の政策を宣伝するため新京に設立された国策映画制作会社。

- 111 インパール作戦Ⅱ1944(昭和19)年3月から7月にかけて、日本軍が英領インドのインパール(現ミナマール州)攻略を目指した作戦。英軍の反抗で日本軍は惨敗し、兵士多数が感染症や飢餓で死亡した。
- 112 カンチャズ(乾登子)島事件Ⅱ1937(昭和12)年、黒竜江(アムール川)流域黒河下流のカンチャズ(乾登子)島を中心に起きた日ソ間の国境紛争。満州電電Ⅱ正式名称は満州電信電話会社。1933(昭和8)年に設立され、満州の電気通信事業を独占していた。日本の敗戦により消滅。
- 114 関東庁Ⅱ関東州(遼東半島にあった日本の租借地)を管轄する行政機関として1919(大正8)年に発足。34年に廃止。
- 115 通化省Ⅱ満州国に存在した省で現在は中国吉林省東部。通化は吉林省南西部の都市で、終戦前後の1945(昭和20)年8月9日から18日まで満州国の首都とされた。
- 116 康徳新聞Ⅱ1942(昭和17)年1月、関東軍が満州で中国語紙を統合、新たに康徳新聞社を設立し43年から発行した新聞。
- 117 満州国皇帝Ⅱ愛新覺羅溥儀(1906～1967)。清の最後の皇帝(在位は08～12年)。34年、満州国皇帝に即位し、45年8月18日に退位。
- 118 重慶放送Ⅱ中国国民政府(重慶)の放送。日本語放送もあった。軍票Ⅱ軍用手票の略。政府や軍が占領地で発行する紙幣のことで、軍用手形、軍用切手とも呼ばれる。
- 120 中長鉄路公司Ⅱ中国長春鉄路公司の略。1945(昭和20)年、ソ連と中華民国政府間の協定に基づき、満州の鉄道を受け継ぐために設立された組織。55年に解散した。
- 121 中央(通訊)社Ⅱ中国国民党の通信社、1924(大正13)年、廣州で設立。49年、台湾に拠点を移す。
- 122 八路軍Ⅱ日中戦争時代に華北を中心に活動した中国共産党軍。第2次国共合作で国民党軍の指揮下に入り、国民党革命軍第八路軍となった。
- 123 マルシャンスク収容所Ⅱモスクワ南東の都市マルシャンスクにあった収容所。
- 124 斤Ⅱ尺貫法の単位で、中国では1斤は500g。
- 125 同盟学寮Ⅱ同盟常務理事の古野伊之助が提案し、1939(昭和14)年、働きながら勉学に励む学生のための宿舍として東京・麻布に開設した寮。現在は公益財団法人同盟育成会が都内2カ所で寮を運営している。
- 126 市政会館Ⅱ東京都千代田区の日比谷公園内にあるレンガ色の特徴の建物。1929(昭和4)年竣工。戦前は同盟、戦後は共同と時事が本社を置いた。99(平成11)年、東京都の歴史的建造物に指定された。
- 127 省線Ⅱ東京や大阪の都市圏で運行された鉄道省管理の近距離電車「省線電車」の略。1949(昭和24)年の日本国有鉄道(現JR各社)発足後は国電と呼ばれた。
- 128 冀察政務会Ⅱ1935(昭和10)年から37年まで中国華北に存在した地方政権。正式名称は冀察政務委員会。
- 129 軍長Ⅱ中国の軍司令官のこと。
- 130 南苑飛行場Ⅱ北京市内南部にある中国最古の空港。1910年開港。2019年9月、北京大興国際空港の開業と同時に民間機の発着終了。
- 131 ウナバタ電Ⅱウナ電(至急電報、今は取り扱ひなし)とバタ(社内連絡などを意味する新聞・通信社の業界用語)との掛け合わせ表現。
- 132 天津軍Ⅱ1900(明治33)年の義和団事件(北清事件)後の01年、日本軍が天津に駐留させた部隊。清国駐屯軍と呼ばれ、中華民国が樹立された12年、支那駐屯軍になった。
- 133 廊坊事件Ⅱ1937(昭和12)年7月25日、北京(當時は北平)近郊の廊坊(ろうぼう)駅で起きた日本軍と国民党軍の武力衝突。
- 134 広安門事件Ⅱ1937(昭和12)年7月26日、日本軍部隊が北京(當時は北平)の居留民保護のため市内の広安門を通過しようとしたところ国民党

- 軍部隊の襲撃を受けた事件。
- 135 大山事件Ⅱ1937(昭和12)年8月9日、日本海軍陸戦隊の大山勇夫中尉らが上海で射殺された事件。この事件をきっかけに情勢は緊迫、日中両軍が再び武力衝突した(第2次上海事変)。
- 136 大世界Ⅱ上海の旧フランス租界に1917年オープンした娯楽施設。2017年にリニューアルされた。
- 137 ヒューゲッセン事件Ⅱ1937(昭和12)年8月26日、南京駐在のヒューゲッセン英大使(Hugh Montgomery Knatchbull-Hugessen)が車で上海に向かう途中、日本海軍機の機銃掃射を浴び重傷を負った事件。
- 138 綏遠事件Ⅱ1936(昭和11)年、中国綏遠省(現在の内モンゴル自治区フホト市など)で起きた内モンゴル軍と国民党政府軍の武力衝突。関東軍の支援を受けていた内モンゴル軍は国民党政府軍に撃退された。
- 139 北海事件Ⅱ1936(昭和11)年9月3日、広東省北海(現在広西チワン族自治区)で日本人が中国人に殺害された事件。
- 140 冀東政権／冀東防共自治政府Ⅱ1935(昭和10)年、中国河北省に樹立された日本の傀儡政権。35年11月に成立した冀東防共自治委員会が翌月、冀東防共自治政府と改称された。38年に解消。
- 141 豊台Ⅱ1937(昭和12)年7月、盧溝橋事件が起きた当時、日本軍が駐屯していた地区。現在は北京市。
- 142 塘沽停戦協定Ⅱ1933(昭和8)年5月31日、日本軍と国民党政府軍が河北省塘沽で締結した停戦協定。満州事変が事実上終結した。
- 143 華北の臨時政府Ⅱ1937(昭和12)年12月、日本の傀儡政権として北平(現北京)に樹立された中華民国臨時政府。日本占領下の華北が統治範囲で、行政委員長は王克敏。40年、汪兆銘政権に統合された。
- 144 中華総社Ⅱ同盟は1944(昭和19)年1月、在中総支局を一元的に統括する目的で南京に中華総社を設置し、北支、中支、南支各総局をそれぞれ華北、華中、華南総局と改称した。
- 145 日本コロムビアⅡ1910(明治43)年、日本蓄音機商会として発足した。東京日田Ⅱ1872(明治5)年に創刊された東京で初めての本格的な日刊紙。毎日新聞の前身。
- 146 徐州作戦Ⅱ1938(昭和13)年4月から6月にかけて中国江蘇省徐州付近で中国軍の壊滅を目指した日本軍の作戦。
- 147 古野伊之助さんの一行Ⅱ古野は1942(昭和17)年10月、前線基地に勤務する職員慰問と激励のため南方の支社局を歴訪した。
- 148 情報局Ⅱ1940(昭和15)年12月、内閣情報部を拡大、権限を強化した情報統制機関。世論操作、マスコミ統制、宣伝を行った。
- 149 「腹切り」問答Ⅱ1937(昭和12)年1月21日、浜田国松議員が衆院本会議の演説で軍部を批判。寺内寿一陸相が「軍に対する侮辱」と反論すると浜田議員もやり返した。やりとりの中で「割腹」という言葉も出た。これがきっかけで広田弘毅内閣は総辞職した。
- 150 旗亭Ⅱ飲み屋や旅館のこと。中国で酒樓が「酒旗」を立てていたことに由来する。
- 151 五鬼上法律事務所Ⅱ五鬼上堅磐氏(1897～1971)の事務所。同氏は古野伊之助と同郷の三重県出身で、同盟の顧問弁護士。1961(昭和36)年から66年まで最高裁判事を務めた。
- 152 企画院事件Ⅱ1939(昭和14)年から41年にかけて多くの企画院職員らが治安維持法違反の疑いで摘発された事件。
- 153 九・一八価格停止令Ⅱ1939(昭和14)年10月、国家総動員法に基づき施行された価格等統制令のこと。政府はさまざまな物の価格や料金を同年9月18日の水準に据え置くよう指示した。
- 154 新潟大火Ⅱ1955(昭和30)年10月1日未明、新潟市内で出火。強風にあおられて燃え広がりに約890棟が焼失した。
- 155

- 156 松陽新報Ⅱ1901(明治34)年、島根県で創立。42(昭和17)年山陰新聞と合併し島根新聞になり、73年山陰中央新報に改題。
- 157 プリンス・オブ・ウェールズ(Prince of Wales)Ⅱ英戦艦。太平洋戦争開戦直後の1941(昭和16)年12月10日、マレー沖海戦で日本海軍機に撃沈された。
- 158 坐漁荘Ⅱ1920(大正9)年、静岡県興津町(現静岡市清水区)に建てられた西園寺公望の別邸。70(昭和45)年愛知県犬山市の明治村に移築されたが、2004(平成16)年、興津に復元された。
- 159 婦人矯風会Ⅱキリスト教の女性団体。1886(明治19)年創設。未成年者の禁酒禁煙、女性参政権運動などに取り組む。現在の名称は公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会。
- 160 汪兆銘工作Ⅱ日中戦争のさなか中国国民党の重鎮、汪兆銘に親日政権を樹立させ、日中平和を実現しようとした秘密工作。
- 161 大屋の著書Ⅱ大屋久寿雄は1941(昭和16)年『バルカン近東の戦時外交』、42年『トルコ・政治風土記』を出版している。
- 162 八紘一宇Ⅱ「世界を一つの家に」という意味のスローガン。太平洋戦争中、日本の海外侵略を正当化するために編み出された。
- 163 日露協会Ⅱ日本とロシアの親善促進を目的に1906(明治39)年に設立。20年、中国東北部のハルビンで語学学校「日露協会学校」の運営を開始した。
- 164 ハノイ進駐Ⅱ1940(昭和15)年9月、日本軍は北部仏印(仏領インドシナ)への進駐を開始、ハノイなどを占領した。
- 165 藍衣社Ⅱ1930年代初頭に結成された国民党政権の情報・工作機関。
- 166 日本新聞連盟Ⅱ1941(昭和16)年5月に設立された新聞業界の自主統制団体。新聞用紙の配給調整や共同販売制度などの実施に当たった。
- 167 日本新聞会Ⅱ1941(昭和16)年12月に公布された新聞事業令に基づき、42年2月11日に設置された統制団体。
- 168 新聞事業令Ⅱ1941(昭和16)年12月13日公布。新聞統制が一層強化された。
- 169 バイアス湾上陸作戦Ⅱ1938(昭和13)年10月、中国広東省のバイアス湾(現大亜湾)で日本軍が実施した上陸作戦。
- 170 パネー(Panay)Ⅱ米砲艦。1937(昭和12)年12月12日、揚子江で日本の海軍機に撃沈された。日本が米国に謝罪、補償するなどして外交的に解決した。
- 171 レディーバード(Ladybird)Ⅱ英砲艦。1937(昭和12)年12月12日、揚子江で日本軍の砲撃を受けた。日本は中国船と誤認したとして英国に陳謝した。
- 172 輜重兵Ⅱ日本軍の兵科の一つで、前線への軍需物資輸送を任務とした。
- 173 漢口攻略戦Ⅱ1938(昭和13)年6月から10月にかけて日本軍が漢口(現在は湖北省武漢市の一部)で実施した作戦。武漢攻略作戦とも呼ばれる。
- 174 法幣Ⅱ国民政府が1935(昭和10)年、銀貨の代わりに大量に発行した法定紙幣。その後のハイパーインフレの原因となった。
- 175 南部仏印進駐Ⅱ1941(昭和16)年7月、日本軍が南方進出準備のため仏領インドシナ南部で実施した進駐作戦。
- 176 ABCD包囲陣(網)Ⅱ1930年代後半に米、英、中、オランダが実施した対日経済制裁を日本の軍部は4カ国の頭文字をとってこう呼び、国民の危機意識をおおった。
- 177 東亜同文書院Ⅱ一般財団法人霞山会の前身の東亜同文会が1901(明治34)年、上海に設立した教育機関。前身は南京の同文書院。日中交流に携わる人材の育成を目的とし、39(昭和14)年には大学に認定。
- 178 第2次世界大戦の火ぶたⅡ1939(昭和14)年9月1日のドイツ軍によるポーランド侵略に対し、英仏は9月3日、ドイツに宣戦布告し、

- 第2次世界大戦が始まった。
- バルバロッサ作戦Ⅱ1941(昭和16)年6月、ドイツ軍が開始した対ソ侵攻作戦。
- 179 ステファ二通信社Ⅱ1853年創設のイタリヤの通信社。1940年代前半、ムソリーニ政権の没落とともに解散。
- 180 仏印(インドシナ)に進攻Ⅱ日本軍の仏印進駐は1941(昭和16)年7月に終わり、日米開戦と同時に「マレー作戦」を実行している。当日は海外放送傍受の業務にいつもより力を入れる必要があったため、陸軍が口実として当たり障りのない仏印進攻の話を持ち出した可能性も考えられる。
- 181 お別れの電報Ⅱ1941(昭和16)年12月10日付「同盟通信報」(社報第51号は、開戦に伴い任地を後にする欧米各地の特派員からのメッセージを掲載しており、その中にニューヨーク支局長からの「お別れ電報」の訳文がある(原文は旧字体、旧仮名遣い)。
- 182 「石野社長へ ニューヨーク支局 稲本、安保、寺西、木下、山崎、平島ラエノスアイレス経由12月8日着 われら最後の日の仕事は終わった。今後いかなる事態に立ち至ろうとも、われわれはこれに処する用意を整えている。今までのところ全部員身辺無事にして健康なり。貴下の健康を祈りしばしの別れを告げん」
- 183 特別情報/特殊情報Ⅱ同盟が傍受した海外情報のうち、国民には知らせず機密扱いとし、政府首脳にだけ伝えていたものを指す。「敵性情報」とも呼ばれた。
- 184 ビリビッドⅡ19世紀、マニラ市内に開設された刑務所。1940(昭和15)年、マニラ郊外モンテルパにニュービリビッド刑務所が作られた。新旧刑務所は太平洋戦争中、捕虜収容所として利用された。
- 185 戦争情報局(Office of War Information)Ⅱ1942(昭和17)年6月、米政
- 186 府が謀報や戦争プロパガンダを目的に設立した機関。
東京ローズⅡ太平洋戦争中に対米宣伝放送に従事した日系二世の女性たちの総称。
- 187 2602年Ⅱ神武天皇即位年(西暦紀元前660年を元年とする「皇紀」の表記。2602年は西暦1942(昭和17)年。
- 188 室蘭日報Ⅱ1941(昭和16)年6月、室蘭(毎日新聞と室蘭タイムスが合併して発足。42年の新聞統合で北海道新聞となる)。
- 189 鳥取大地震Ⅱ1943(昭和18)年9月10日、鳥取県で起きたマグニチュード(M)7.2の地震。鳥取市の震度は6。
- 190 海南新聞Ⅱ1877(明治10)年、愛媛新聞(当時)が改題して海南新聞になる。正岡子規の俳句誌「ホトトギス」を印刷した。
- 191 伊予新報Ⅱ1923(大正12)年創刊。
- 192 南予時事(新聞)Ⅱ1902(明治35)年創刊。
- 193 愛媛合同新聞Ⅱ1941(昭和16)年に海南新聞、伊予新報、南予時事の県内3紙が統合して発足。44年愛媛新聞に改題。
- 194 九州日日新聞Ⅱ1882(明治15)年、熊本市で紫溟新報として創刊。1888年九州日日新聞に改題。
- 195 九州新聞Ⅱ1906(明治39)年、熊本市で九州実業新聞として創刊。1910年九州新聞に改題。
- 196 熊本日日新聞Ⅱ1942(昭和17)年、九州日日新聞と九州新聞が統合して発足。
- 197 豊州新報Ⅱ1886(明治19)年大分市で創刊。1942(昭和17)年大分新聞と合併して大分合同新聞に。
- 198 レキシントン(Lexington)Ⅱ米空母。1942(昭和17)年5月、珊瑚海海戦で史上初の空母同士の戦闘に参加。日本側の攻撃で損傷し、自国駆逐艦に魚雷で沈められた。

- 199 運輸通信省⇨1943(昭和18)年11月、通信省と鉄道省を統合して発足。45年5月、外局の通信院を分離し、運輸省に改組された。
- 200 ジットライン⇨英軍がマレー半島北部ジットラに築いた防衛線。インド人部隊が警備したが、1941(昭和16)年12月、マレー作戦で日本軍に破られた。
- 201 ブキティマ⇨シンガポール島の中心部にある丘陵。日本軍占領時代には神社が建てられた。
- 202 同盟職員の死亡⇨1942(昭和17)年2月11日、シンガポール島ブキティマの戦いで鯉江正木連絡員が殉職した。
- 203 レパルス(Repulse)⇨英戦艦。太平洋戦争開戦直後の1941(昭和16)年12月10日、マレー沖で日本軍機に撃沈された。
- 204 クラークフィールド⇨フィリピン・パンパンガ州(ルソン島)にあった米軍飛行場。1942(昭和17)年最初に日本軍が占領したが、45年1月米軍が奪回した。現在はクラーク国際空港。
- 205 赤トンボ⇨日本軍が練習用に使った複葉の航空機。目立つよう赤く塗られていたことからこの名がついた。
- 206 曲げる⇨質に入れること。
- 207 烏目⇨金銭のこと。
- 208 太陽安打⇨太陽光線が目に入り、フライを捕球できずに許した安打のこと。
- 209 報道挺身隊の歌⇨西条八十作詞、古関裕而作曲。1939(昭和14)年6月、同盟がニュース映画開始1周年を記念して前線の兵士を特集した際の主題歌。
- 210 教育召集⇨補充兵の教育目的で行う召集のこと。
- 211 LST(Landing Ship, Tank)⇨戦車揚陸艦。戦後の日本人引き揚げのため米軍から約100隻が貸与された。
- 212 洛陽の紙価⇨本の売れ行きが好調なことの例えとして「洛陽の紙価を高める」という言い方がある。
- 213 ジャーディン・マセソン(Jardine Matheson)⇨香港に拠点を置く英国系複合企業。19世紀に貿易会社として設立されたが、現在は金融から小売業まで幅広い分野の企業を傘下に持つ。
- 214 白乾児⇨コーリヤンを主原料とした中国の蒸留酒。
- 215 ダビット(Daewoo)⇨船の甲板に設置された小型フレーン。救命ボートの上げ下ろしに使う。
- 216 援蔣ルート⇨日中戦争から太平洋戦争にかけて、米英ソなどが仏印(仏領インドシナ)や英領インド、ビルマを経由して蒋介石の国民政府に支援物資を送り届けたルートのこと。
- 217 P K部隊⇨P K(Propaganda Kompanie)はドイツ語で「宣伝中隊」のこと。ナチス・ドイツの国防軍などに設置され、プロパガンダを主要任務としていた。
- 218 中野の学校(中野学校)⇨将兵に諜報、宣伝工作などの教育、訓練を行った陸軍中野学校のこと。
- 219 新体制運動⇨1940(昭和15)年から41年にかけて、近衛文磨首相を中心に進められた政治運動。ドイツのナチスやイタリアのファシスト党のような一党独裁を目指し、大政翼賛会の成立につながった。
- 220 広西作戦⇨1939(昭和14)年11〜12月、援蔣ルート遮断を目指す日本軍が、中国広西省南寧で展開した作戦。一般的には「南寧作戦」で知られる。
- 221 北部仏印進駐⇨1940(昭和15)年9月、日本による仏領インドシナ北部(北部仏印)への進駐。「援蔣ルート」の切断が目的で、41年7月には南部仏印にも進駐。
- 222 居中調停⇨国際紛争の解決を目指し、当事国以外の第三国が調停仲

- 介をすること。
- 223 ジャワ作戦Ⅱ1942(昭和17)年3月、日本軍がオランダ領東インド(現インドネシア)ジャワ島で実施した上陸作戦。連合国軍は同月9日に降伏。
- 224 仏印処理Ⅱ1945(昭和20)年3月9日、仏領インドシナ(仏印)で日本軍がフランス軍に対して実施した作戦。明号作戦とも呼ばれる。
- 225 昭南新聞会Ⅱ1943(昭和18)年1月、陸軍省報道部の通達に基づき、マレー、シンガポール、北ボルネオ、スマトラで邦字紙を発行するため同盟通信と地方紙など13社で結成された組織。本部はシンガポール、東京に支部。
- 226 阿波丸Ⅱ日本の貨客船。1945(昭和20)年4月1日、シンガポールから日本に向けて台湾海峡を航行中、米潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没、2千人余りの乗客乗員が死亡した。連合国捕虜に物資を届けた後の帰国途中で、米軍からは安全航行を保證されていた。
- 227 モロタイ失陥Ⅱインドネシア・モルッカ諸島のモロタイ島を日本軍は1942(昭和17)年に占領したが、44年9月、連合軍に奪い返された。
- 228 リバティール(船)Ⅱ第2次世界大戦中、米国で大量に建造された輸送船。戦後、日本人引き揚げのために約100隻が米国から貸与された。
- 229 特警 特別警察隊 Ⅱ太平洋戦争中に日本海軍が設置した憲兵隊。任務は占領地での警察活動。
- 230 民政部Ⅱ日本海軍が占領地運営のため各地に置いた行政機関。1942(昭和17)年3月、セレベス(スラウェシ)、ボルネオ、セラムの各島に置かれた。
- 231 海軍落下傘部隊Ⅱ1942(昭和17)年1月のメナド進攻作戦で日本海軍空挺部隊の落下傘兵300人余りがランゴアン飛行場に降下した。
- 232 レイテ戦Ⅱ1944(昭和19)年10月から終戦までフィリピン中部レイテ島で繰り広げられた日米の戦い。米軍は同島に上陸。沖合の海戦では、日本の連合艦隊が戦艦「武蔵」などの主力艦を失った。
- 233 ヒトラー独総統戦死Ⅱヒトラーは1945(昭和20)年4月30日にベルリンで自殺。56歳だった。ドイツは5月7日に無条件降伏。
- 234 内南洋Ⅱ第1次世界大戦後、日本が国際連盟に託されて委任統治した赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島のこと。
- 235 表南洋Ⅱ内南洋に対しフィリピン、スマトラ、ボルネオ、ニューギニアなどの地域を指す言葉。
- 236 南拓Ⅱ南洋拓殖株式会社(通称)。1936(昭和11)年に設立された南洋開発のための国策特殊会社で、コロール島に本社があった。
- 237 嚮導艦Ⅱ艦隊の先頭で案内役となる軍艦のこと。
- 238 DNBⅡナチス・ドイツ時代の国営通信社。ドイツ敗戦後、解体された。
- 239 クイブイシエフⅡロシア西部のボルガ川流域にある都市サマラの旧称。ソ連時代の1935年から90年までこう呼ばれた。クイブイシエフはロシアの革命家の名前からとった。
- 240 武漢三鎮Ⅱ武昌、漢口、漢陽3市の総称。鎮とは中心都市を意味する。
- 241 一億総決戦起 Ⅱ太平洋戦争末期、戦局が不利になると、日本政府は全国民に本土決戦の覚悟を迫った。そのスローガンは「一億玉碎」「一億特攻」など。
- 242 大東亜会議Ⅱ1943(昭和18)年11月、東条英機首相が日本の勢力圏にあるアジア各国首脳を東京に集めて開いた会議。大東亜の建設などを盛り込んだ共同宣言を採択した。
- 243 蓼科湖Ⅱ長野県茅野市にある人造湖。1952(昭和27)年完成。
- 244 例のニュースⅡ1945(昭和20)年8月9日深夜から10日未明にかけて開かれた御前会議は天皇制存続を条件にポツダム宣言の受諾を決めた。同盟は10日午後8時からの米州向けニュースにこの決定を入れた。

ところ、AP通信などが伝え、全世界に流れた。

245 挙国一致内閣Ⅱ1932(昭和7)年の五・一五事件の後、元老西園寺公望は政党内閣の継続を断念し、海軍大将齋藤実を次期首相に推薦。5月26日齋藤を首班とする挙国一致内閣が発足した。

246 飛び石作戦Ⅱ太平洋戦争で日本攻略を目指す連合国軍が展開した島間の進攻作戦。

247 ヒーストルⅡ仏領インドシナで使われた通貨の単位。

248 マッカーサーの敗走Ⅱ在フィリピン米極東陸軍のマッカーサー司令官は1942(昭和17)年3月、日本軍の攻撃を受け、マニラ湾のコレヒドール島からオーストラリアに脱出。「アイ・シャル・リターン(私は必ず戻ると宣言)した。

249 バタワン死の行進Ⅱ1942(昭和17)年4月9日、フィリピン・ルソン島のバタワン半島で、日本軍に降伏した米、フィリピン兵士が炎天下を100*以上離れた収容所まで歩かされ、多数が死亡した。

250 フィリピン独立Ⅱ日本の軍政下にあったフィリピンで1943(昭和18)年10月14日、親日家のホセ・ラウレルを大統領とする「フィリピン共和国」が発足。同年11月には独立国家として、東京で開かれた大東亜会議に参加。「フィリピン第2共和国」とも呼ばれるが、日本の敗戦とともに消滅した。

251 バレテ峠Ⅱフィリピン・ルソン島中部の山間部にある標高約1000mの峠。ルソン島をめぐる攻防で日米の部隊が激戦を展開した。

252 東方電機Ⅱ同盟の技術研究所は戦後、同盟電機製作所として独立。その後、社名を東方電機に改称。同社はその後、ファクスメーカーとして松下電器産業(現パナソニック)の傘下に入った。

253 キアンガンⅡフィリピン北部イフガオ州の町。終戦後の1945(昭和20)年9月1日、山中から出てきた山下奉文フィリピン方面軍司令官が

降伏した場所。

254 C-IC(Counter Intelligence Corps)Ⅱ米軍の防諜部隊。C-ICの第44支隊はフィリピンで日米の戦いに参加した。

255 引用されている一節は実際には次の通り(From the moment of surrender) the authority of the Emperor and the Japanese Government to rule the state shall be subject to the Supreme Commander of the Allied Powers who will take such steps as he deems proper to effectuate the surrender terms.

256 『あの日のナガサキー40年目の証言』Ⅱ1985(昭和60)年に出版。百目ろつそくⅡ重さ1000匁(約375g)の大型ろつそく。

257 ベトナムⅡベトナムの独立運動組織。指導者ホー・チ・ミンは1945(昭和20)年8月の戦争終結を受け、9月、ベトナム民主共和国(北ベトナム)樹立を宣言。

258 兵補Ⅱ太平洋戦争中、日本軍がインドネシアなどで採用した現地人の補助兵。

260 南方派遣(南遣)艦隊Ⅱ日本海軍の部隊。第1南遣艦隊から第4南遣艦隊まであり、東南アジア海域の警備を任務とした。

261 「堅」集団Ⅱ日本陸軍の第19軍。1942(昭和17)年に編成され、43年からはアンボンの守備に当たった。

262 「南の風、晴れ」Ⅱ外務省は1941(昭和16)年11月、在外公館に対し開戦が不可避の情勢になったら、日本語放送の中で天気予報として伝えるので、聞いたら暗号書を処分するよう指示した。外交文書などには「東の風 雨」、「北の風 曇り」、「西の風 晴れ」の表現は記録されているが、「南の風」は見当たらない。

263 S SⅡナチス親衛隊(Schutzstaffel)の略称。1925年に創設された。関東州Ⅱ中国の遼東半島南西部にあった日本の租借地。日露戦争後の

- 1905(明治38)年のポーツマス条約で日本に租借権が移り、45(昭和20)年8月の敗戦まで日本の統治が続いた。
- 265 天津事変Ⅱ1931(昭和6)年11月、天津で日中両軍が衝突した事件。
- 266 京包線Ⅱ中国の北京と内モンゴル自治区包頭市を結ぶ鉄道路線。
- 267 湘桂線Ⅱ中国湖南省衡陽市と広西チワン族自治区憑祥市を結ぶ鉄道路線。
- 268 デリンジャー現象Ⅱ電離層に生じた異常によって短波通信が妨げられる現象。
- 269 無線時事Ⅱ無線時事通信社。1929(昭和4)年、船舶にニュースを送る事業のため設立された。37年、同盟が買収。社長の伊藤正徳氏は同盟参与に。
- 270 錦州攻略(作戦)Ⅱ関東軍は1931(昭和6)年12月から遼寧省錦州への攻撃を開始、張学良軍を後退させ、32年1月に錦州を占領した。
- 271 和登商行Ⅱ1929(昭和4)年、奉天に設立された無線や電気製品の輸入販売会社。
- 272 探訪力Ⅱ取材力のこと。
- 273 天皇の人間宣言Ⅱ1946(昭和21)年1月1日に発布された昭和天皇の詔書。天皇の神格を否定。新聞各紙は1日付朝刊で報じた。
- 274 横浜事件(泊事件)Ⅱ1942(昭和17)年に起きた神奈川県高警察による言論弾圧事件。富山県泊町(現朝日町)で行われた出版記念行事を共産党再結成の準備会合とみなしたことから、泊事件とも言われる。
- 275 警察予備隊Ⅱ1950(昭和25)年8月の警察予備隊令で発足。52年、保安隊に改編され、54年の自衛隊発足に道を付けた。
- 276 戦犯容疑者逮捕指令Ⅱ1945(昭和20)年9月11日、GHQは東条英機、東郷茂徳ら戦争犯罪容疑者39人の逮捕命令を出した。

人物紹介

編集者注

略歴の執筆に当たっては、808～809
頁に掲げた書籍などを参照した。大半を占
める同盟通信社の在籍経験者については、
新聞通信調査会が保存している資料などで
職歴その他を確認した。対象者の著作の奥
付なども参考にした。氏名の読み方が資料
で裏付けられなかった場合は、編集者の責
任で適当と思われる読みを記し、その末尾
に*印を付けた。西暦は原則、初出を4桁、
その後は下2桁で記載し、適宜和暦を補っ
た。

通信社名は以下の略称で記載した。

帝国通信社Ⅱ帝通
国際通信社Ⅱ国際
東方通信社Ⅱ東方
日本新聞聯合社、新聞聯合社Ⅱ聯合
日本電報通信社、大阪電報通信社、戦後の
電通Ⅱ電通
満州国通信社Ⅱ国通
日本商業通信社Ⅱ商通
共同通信社Ⅱ共同
時事通信社Ⅱ時事

メディア関係者(五十音順)

【あ行】

相島勘次郎(あいじま・かんじろう)Ⅱ1868～
1935 茨城県出身。政治家、俳人。東京日
日新聞副主幹を経て政界に転じ、12(明治45)年
立憲国民党の衆院議員。

秋山静子(あきやま・しずこ、旧姓中村)Ⅱ1918
～96 奈良県出身。高女卒。37(昭和12)年から
40年、同盟で庶務部、人事部。時事で大阪支社、
出版局販売部。

秋山操(あきやま・みさお)Ⅱ1901～92 大阪
出身。20(大正9)年大阪英語学校卒。国際でロ
ンドン特派員。聯合を経て同盟でラングーン
(現ヤンゴン)支社長、サイゴン(現ホーチミン)支
社長。時事で外信部長、編集局長、監査役。

秋山如水(あきやま・よしみ)Ⅱ1912～72 東
京出身。文化学院卒。聯合に入社。同盟で編集
局体育部長、アンボン支局長、メダン支局長。
共同で運動部長、解説委員。メルボルン五輪首
席特派員、東京五輪組織委総務委幹事として五

輪報道に関与。退社後の70(昭和45)年、札幌五
輪冬季大会組織委の広報部外国報道参事に就い
たが開会直前に死去。

阿久津力ウ(あくつ・こう)Ⅱ1920～2003
埼玉県出身。高女卒。43(昭和18)年同盟入社。
整理部、人事部。時事で総務部、人事部。

朝井春子(あさい・はるこ、旧姓小林)Ⅱ聯合、同
盟の顧問弁護士を務めた五鬼上堅磐^{ごきじょうかきわ}氏の事務
所に勤務。1937(昭和12)年同盟入社。総務
局庶務部タイプ係。

浅野豊(あさの・ゆたか)Ⅱ1895～1975
茨城県出身。早稲田大専門部中退。国民新聞、
やまと新聞などを経て28(昭和3)年聯合入社。
同盟で京城(現ソウル)支社長、地方部長、人事
部長、庶務部長、総務局次長、社長秘書。時事
で取締役総務局長、監査役。

芦川選太郎(あしかわ・せんたろう*)Ⅱ1906～
88 静岡県出身。東京通信講習所高等科卒。29
(昭和4)年聯合入社。同盟で経理部、電務部。
共同で外電部次長、野田受信所長。

我妻繁夫(あづま・しげお)Ⅱ1908～89 九州

大法卒。高橋亀吉主宰の高橋経済研究所を経て35(昭和10)年同盟創立事務所入所。同盟でタイムン支社長、昭南新聞会マレー総局次長。時事で地方部長、札幌支社長、地方行財政調査会事務局長。

阿部孫一(あべ・まごいち*) 11907~75 宮城県出身。無線電信講習所卒。船舶の無電技士を経て31(昭和6)年聯合入社、天津、北京。同盟で北支総局連絡部次長、同通信部長、中華総社通信部長。戦後は67年創刊の「月刊新聞ダイジェスト」で編集・発行人。

阿部行雄(あべ・ゆきお) 11925~2011 宮城県出身。同盟講習所卒。42(昭和17)年同盟入社。電務部、ボルネオ支局、シンガラジャ支局。共同で山形支局長、福島支局長。

荒井勝三郎(あらい・しょうざぶろう*) 11904~77 長野県出身。私塾卒後、電通長野支局、北越新報、大阪時事新報などで速記者。電通に戻り長野支局、本社、甲府支局。同盟で甲府支局長、平壤支局長。45(昭和20)年応召。共同で甲府支局長。

新井正義(あらい・まさよし) 11905~200

2 埼玉県出身。東京大文卒。33(昭和8)年聯合入社。同盟で政経部長。共同で政治部長、編集局長、常務理事。その後NHK解説委員、電通取締役などを務めた。

荒尾達雄(あらお・たつお) 11916~2001 富山県出身。慶応大文卒。39(昭和14)年同盟入社。社会部。44年応召。共同で社会部長、福岡支社長、編集副主幹、常務理事。

荒尾弘(あらお・ひろし*) 11906~95 石川県出身。工業学校中退。富山日報、帝通を経て28(昭和3)年聯合入社。同盟で青森支局、地方部などを経て豊原(現ユジノサハリンスク)支局長。共同で青森支局長。

安藤利男(あんど・としお) 11905~91 新潟県出身。東京商大商専卒。31(昭和6)年電通入社、北平(現北京)支局。同盟に移り北平支局、バタビヤ(現ジャカルタ)支局長、東亜部次長。戦後は産経新聞論説委員。

池上幹徳(いけがみ・もとのり) 11909~2004 徳島県出身。京都大経卒。聯合を経て同盟で上海支社、亜経部。40(昭和15)年ベルリン支局。ドイツ敗戦でチューリヒに移り48年帰国。

共同で外信部。

石川宏(いしかわ・ひろし*) 11918~95 北海道出身。無線電信講習所卒。38(昭和13)年同盟入社。北支総局、中南支総局、昭南(現シンガポール)支局。共同で科学部長、京都支局長。

石津英司(いしづ・えいじ*) 11929(昭和4)年創立の広告聯合社に関与。同社の聯合への吸収合併に伴い聯合の業務局広告部助役。

石部幸弑(いしべ・こういち*) 11895~1956 東京出身。早稲田大商卒。20(大正9)年国際入社。聯合で会計部長、同盟で経理部長、総務局次長、経済局長。関東印刷社長。戦後は電通映画社監査役、電通監査役。

石光真人(いしみつ・まひと) 11904~75 東京出身。早稲田大文卒。31(昭和6)年東京日日新聞入社。日本新聞会、日本新聞連盟などに勤務。戦後は日本新聞協会を経て日本ABC協会事務局長、専務理事。

石山重雄(いしやま・しげお) 11925年生まれ 新潟県出身。高小卒。40(昭和15)年同盟入社。新潟支局。45年入営、同年解除。共同で新潟支

局、小倉支局。48年退社。

井関納(いせき・おさむ) 1911〜84 京都府

出身。関西大専門部卒。28(昭和3)年電通入社。同盟に移り北支総局、大阪支社発送部長、舞鶴支局長。共同で岡山支社編集部長、松山支局長。

板垣武男(いたがき・たけお) 1903〜72 秋

田県出身。小樽高商中退。31(昭和6)年聯合入社。同盟で内経部長、経済局次長、経済局長。時事発足時に取締役。太平印刷社社長、日比谷会館取締役。

井出新六(いで・しんろく) 1918〜97 長野

県出身。旧制中卒。39(昭和14)年同盟入社。漢口支局、中支総局、亜経部。43年応召。復員後、北海日日新聞。48年共同入社、校閲部、社会部。

伊藤勝司(いとう・しょうじ) 1902〜88 横

浜市出身。中央大専門部卒。16(大正5)年国際入社。聯合を経て同盟で横浜支局長、文書部長。44(昭和19)年昭南新聞会へ転出。戦後は時事で人事部長。

伊藤正徳(いとう・まさのり) 1889〜1996

茨城県出身。慶応大卒。時事新報に入り28

(昭和3)年編集局長。37年同盟参与、42年中部日本新聞主筆。共同発足時の理事長、日本新聞協会の初代理事長も務めた。軍事評論家として多くの著作を残した。

稲葉重太郎(いなば・しげたろう*) 1914年生

まれ 静岡県出身。旧制中卒。日本郵船などを経て41(昭和16)年同盟入社、中支総局。43年退社し、上海日本領事館勤務。44年同盟に戻り中華総局総務部。

稲本國雄(いなもと・くにお) 1901〜96 兵

庫県出身。関西学院高商卒。23(大正12)年国際入社。聯合を経て同盟で外経部長、中南支総局経済部長、ニューヨーク支局長、経済局次長、大阪支社長。共同で大阪支社長、論説委員。

井上勇(いのうえ・いさむ) 1901〜85 広島

県出身。東京外語卒。桑港日米新聞、羅府日米新聞、外務省嘱託を経て36(昭和11)年同盟入社。パリ支局長、サイゴン(現ホーチミン)支局情報主任、欧米部長、社会部長。時事発足時の取締役。編集局長、出版局長、監査役を歴任。エー

リヒ・レマルクの『凱旋門』を翻訳。

井上肇(いのうえ・はじめ) 1912〜94 岡山

県出身。実業専修学校卒。28(昭和3)年聯合入社。同盟で岡山支局、松江通信部。共同で高松支局通信主任、岡山支社総務主任、高松支局長。

猪股芳雄(いのまた・よしお*) 1907〜73

新潟県出身。無線電信講習所卒。26(大正15)年聯合入社。同盟で天津支局通信部長、北支総局華文部長、華北総局総務部長、天津支局長。時事で新潟支局長、校閲部長。

伊庭英雄(いば・ひでお、旧姓紀川) 1919

10年生まれ 京都府出身。旧制中卒。宮崎新聞、台湾日報などを経て40(昭和15)年同盟入社、台南支局。44年応召。共同で京都支局通信主任、大津支局長。

猪伏清(いぶし・きよし) 1904〜63 大阪出

身。早稲田大専門部卒。京華日報を経て29(昭和4)年聯合入社。同盟で政経部次長、マカッサル支社長。共同で文化部長、企画部長、有限会社共同通信社出版部代表取締役。

入江啓四郎(いりえ・けいしろう) 1903〜78

鳥取県出身。早稲田大卒。同盟パリ、ジュネーブ両支局長。戦後は時事の外信部長、時事研究所長。国際法学者として愛知大、成蹊大、早稲

田大、創価大で教える。

岩永信吉(いわなが・しんきち) 1911~82

岩永裕吉・初代同盟社長の長男。東京大法卒。

37(昭和12)年同盟入社。社会部、南方総社昭南(現シンガポール)支社編集部長。共同で外信部長、編集局次長、総務局長、常務理事。アジア通信社連盟(OANA)事務局長、電通取締役も務めた。

岩永裕吉(いわなが・ゆうきち) 1883~19

39 東京出身。医師で初代の内務省衛生局長などを務めた長与専斎の四男として生まれ、日本郵船専務取締役岩永省一の養子になる。京都大卒。南滿州鉄道、鉄道院を経て欧米に遊学後「岩永通信」を発行。21(大正10)年国際取締役。同社専務を経て聯合専務理事。同盟初代社長。貴族院議員。

岩本清(いわもと・きよし) 1904~76 兵庫

県出身。26(大正15)年東京大法卒、国際入社。聯合でニューヨーク支局長、同盟で外信部長、中支総局長、マニラ支社長。共同で編集局総務、渉外部長、編集局長、常務理事、専務理事。

上田碩三(うへだ・せきぞう) 1886~194

9 熊本県出身。東京高商卒。電通入社、27(昭和2)年常務。同盟に移り常務理事、編集局長。

45年7月、電通に復帰し社長。47年公職追放。49年1月、UP通信副社長兼極東総支配人マイルズ・ボーンと東京湾でカモ猟中に遭難死。

上野伊三郎(うえの・いさぶろう) 1899~1995 大阪出身。通信生養成所卒。海運会社を経て27(昭和2)年聯合入社。同盟で大阪支社連絡部次長、通信局技術研究所、連絡局電務第2部長。共同発足時の外電部長。

宇佐美猪之松(うさみ・いのまつ) 1924~2007 東京出身。同盟講習所卒。42(昭和17)年同盟入社。電務部、マニラ支社。共同で経済部次長、大阪支社経済部長、業務局次長。

潮田三代治(うしおだ・みよじ) 1917年生まれ 東京出身。旧制中卒後、映音研究所で撮影を学び38(昭和13)年同盟入社。各地の戦線取材。戦後は日本映画社で帝銀事件、松川事件、京都大学学士山岳会のヒマラヤ遠征、東京五輪、札幌冬季五輪を撮影。

内田啓明(うちだ・けいめい) 1922~2001 2 東京出身。日本大専門部卒。43(昭和18)年

同盟入社。東亜部、マカッサル支社、バリックパン支局。共同で経済部次長、解説部次長、出版局次長。

内海裕士(うちみ・ひろとし) 1916~2005 広島県出身。日本大卒。38(昭和13)年同盟入社。大阪支社、南方総局、クチン支局。共同で商況部長、編集局次長。共同文化事業社代表取締役。

海路昌臣(うみじ・まさおみ) 1975年死去 聯合、同盟でハルビン支局長、国通で政経部長、昭南新聞会で新聞局長。

浦岡偉太郎(うらおか・いたろう) 1909~96 東京出身。早稲田大卒。41(昭和16)年同盟入社。体育部、内信部、中支総局、社会部。共同で運動部。退社後再入社し運動部。同部次長、同部長。

江尻進(えじり・すすむ) 1908~96 福島県出身。東京大法卒。32(昭和7)年電通入社。同盟に移り39年からドイツ敗戦までベルリン支局長。共同で論説委員。日本新聞協会に出向し編集部長、事務局次長、事務局長、専務理事。

榎本ふく(えのもと・ふく、旧姓沢口) 同盟の総務局庶務部勤務。

大鋸時生(おおが・ときお) 1905〜84 大阪出身。関西学院高商卒。神戸新聞、神戸又新日報を経て33(昭和8)年聯合入社。同盟で大阪支社、国通出向を経て華北総局編集部長。共同で大阪支社編集部長、名古屋支社長、大阪支社長。退社後、電通大阪支社開発局次長。

大川幸之助(おおかわ・こうのすけ) 1898〜1975 東京出身。慶応大中退。21(大正10)年東方入社。聯合を経て同盟で庶務部長、北支総局長の後、東亜新報、華北新報に出向。戦後は電通ラジオ・テレビ局次長、神戸放送副社長、太平印刷社社長。

大沢正作(おおさわ・しょうさく) 1917〜2009 埼玉県出身。高小卒。43(昭和18)年同盟入社、航空部。共同で編集庶務主任、編集庶務部長。

大高義孝(おおたか・よしたか) 1924年生まれ 北海道出身。同盟講習所卒。41(昭和16)年同盟入社。中支総局、札幌支社。共同で札幌支社、釧路支局、同支局長、(株)共同通信社札幌駐

在業務部長。

大西秀治(おおにし・しゅうじ) 1901〜74年(大正13)年電通入社。北京支局、満州里特派員の後、国通に転じる。戦後は抑留を経て電通大阪支社国際広告局アジア部。

大沼太(おおぬま・ふとし) 1919〜2000 山口県出身。34(昭和9)年電通入社。同盟に移り石門支局、天津支局。時事で北九州支局長。

大橋博(おおはし・ひろし) 1914〜2010 愛知県出身。関西大専門部卒。35(昭和10)年聯合入社。同盟で大阪支社、本社外経部、大阪支社外経主任。43年応召。終戦までダバオで陸軍報道班員。戦後は大阪で大手自動車メーカー系列の販売会社社長を務めた。

大平安孝(おおひら・やすたか) 1894〜1979 福島県出身。日本大法卒。27(昭和2)年聯合入社。政治部長を経て同盟で北支総局通信部長、南京支局長、編集局長。戦後は52年から4年間、伊勢新聞社長。岸信介内閣の広報参与。

大星石松(おおばし・いしまつ) 1907〜96 新潟県出身。東京外語卒。31(昭和6)年聯合入社。

同盟で東亜部、杭州支局長。南京支局、華文部長。共同で庶務部長、人事部長、福岡支社長、人事局長。退社後、太平印刷社社長。

大森吉五郎(おおもり・きちごろう) 1904〜88 東京出身。早稲田大政経卒。27(昭和2)年聯合入社、外信局、経済部。同盟で経済部長、政経部長、編集局次長、企画局次長。戦後は62年東方電機(現パナソニック)会長、松下電送(同)会長。

大屋久寿雄(おおや・くすお) 1909〜51 福岡県出身。30(昭和5)年旧制成城高卒、仏リヨン大留学。33年帰国し聯合入社。同盟で社会部、北支総局、ハノイ特派員、パリ支局、ウィーン特派員、社会部次長、日本放送協会出向など。時事で内信部長、事業局長。

大宅壮一(おおや・そういち) 1900〜70 大阪出身。東京大中退。評論家。没年に設けられた「大宅壮一ノンフィクション賞」は、ノンフィクションライターの登竜門。

岡崎亀市(おかざき・きいち) 1910〜98 島根県出身。高小卒。因伯時報社を経て33(昭和8)年電通入社。同盟に移り整理部、社会部、

南方総局、タラカン支局長。戦後は日本海新聞。

洋大理事長などを歴任。詩人として詩集『人間経』『告別』などの作品がある。

岡田政史(おかだ・まさし) 1924～2004

岡山県出身。高小卒。38(昭和13)年同盟入社、

岡山支社。44年入宮。共同で神戸支局、大阪支

社通信部、同経済部。

岡本輝磨(おかもと・てるま) 1913～2000

8 広島県出身。商業専修学校卒。商通などを

経て40(昭和15)年同盟入社。南方総局、ハノイ

支局。共同で関門支局長、福岡支社総務部長。

緒方竹虎(おがた・たけとら) 1888～1956

6 山形県出身。早稲田大専門部卒。朝日新聞

主筆、副社長を経て44(昭和19)年、小磯国昭内

閣の国務相兼情報局総裁。戦後は第4次吉田茂

内閣の副総理兼官房長官、自由党総裁など歴任。

小川隆康(おがわ・たかやす) 1917～2000

4 兵庫県出身。旧制中中退。33(昭和8)年聯

合入社。同盟で経済局、神戸支局。時事で神戸

支局。

岡野忠一(おかの・ただかず) 1919～97

奈良県出身。日本大専門学校卒。34(昭和9)年電

通入社。同盟に移り大阪支社。43年応召。共同

で大阪支社経済部次長、名古屋支社経済部長。

小川優(おがわ・まさる) 1915～90

ミロサ

ンゼルス生まれ。コロンビア大院修了、東京大

院修了。41(昭和16)年同盟入社。外信部、海外部、

マニラ支局。戦後は共同を経て48年ジャパンタ

ムズに入社し編集局長、論説委員長、主幹。

86年度ポーン・上田記念国際記者賞受賞。

小椋留吉(おぐら・とめきち) 1903～79

愛

媛県出身。高小卒。報知新聞写真班を経て24(大

正13)年電通入社。同盟に移り北支総局写真部長、

サイゴン(現ホーチミン)支社総務部長。時事で

小栗周三郎(おぐり・しゅうざぶろう) 1906

86 新潟県出身。中央大専門部卒。やまと新

聞を経て29(昭和4)年聯合入社。同盟で政治部、

甲府支局長、メナド支局長。

尾崎秀実(おさき・ほつみ) 1901～44

東京

出身。東京大法卒。26(大正15)年、朝日新聞入社。

上海支局を経て38(昭和13)年退社、第1次近衛

文磨内閣囑託。41年リヒャルト・ゾルゲとともに

に治安維持法違反などで逮捕され、44年処刑。

小沢俊則(おざわ・としのり) 1913～97

山

梨県出身。旧制中中退。山梨民報、全国神職会

などを経て39(昭和14)年同盟入社、仙台支局。

共同で仙台支社総務主任。

鴛尾武治(おしお・たけはる) 1926～95

東

京出身。旧制中卒。39(昭和14)年同盟入社、運

動部。共同で富山支局長、整理部長、編集庶務

部長。

小田善一(おだ・ぜんいち) 1913～76

東京

出身。早稲田大文卒。35(昭和10)年聯合入社。

同盟で社会部、イスタンブール支局長。同盟解

散後、共同に入社し社会部次長を務めたが、退

社し東京タイムズ入社。編集局長、社長。

小野敏夫(おの・としお) 1893～1972
石川県出身。慶応大卒。報知新聞、朝日新聞を経て時事新報政治部時代に大正天皇死去の際、新元号「昭和」をスクープ。国通編集局長、昭南新聞会理事長。共同で総務局長。

折橋慶治(おりはし・けいじ) 1886～1964
富山県出身。中央大中退。東方ハルビン支社長などを経て26(大正15)年聯合入社、営業課長。いったん退社し31(昭和6)年再入社。同盟で事業部長、業務部長。

【か行】

皆藤幸蔵(かいどう・こうぞう) 1904～83
東京出身。東京外語卒。30(昭和5)年電通入社。同盟に移りサンフランシスコ支局長、ロンドン支局長、マニラ支社長。時事で外信部長。52年、『光ほのかに—アンネ・フランクの日記』を翻訳出版。

梶川昭(かじかわ・あきら) 1920～2005
広島県出身。青年学校卒。34(昭和9)年聯合入社、広島支局。同盟で同支局、関門支社、通信局地方部。42年応召。46年共同入社、広島支局。同年退社。

片岡誠一(かたおか・せいいち) 1907～2000
京都府出身。慶応大経卒。36(昭和11)年電通入社。同盟に移りクアラルンプール支局長、パレンバン支局長。時事で京都支局長、大阪支社総務部長、広島支社長。

加藤静絵(かとう・しずえ) 旧姓名・三輪とめ 1909年生まれ
愛知県出身。高女卒。27(昭和2)年タイピストとして聯合入社、タイプ部。同盟で同部主任。43年退社。

加藤万寿男(かとう・ますお) 1898～1998
6 愛知県出身。米シカゴ大卒。国際を経て聯合で上海支局長。同盟でワシントン支局長。45(同2)年9月、米戦艦ミズーリ上の降伏文書調印を取材。共同で外信局長、常務理事。その後、共同テレビジョンニュース常務、名古屋放送常務。

加藤松(かとう・まつ) 1908～88
愛知県出身。九州大卒。35(昭和10)年聯合入社。同盟でマニラ支局、ダバオ支局長。共同で校閲部長、秋田支局長、記事審査室委員。

樺山愛輔(かばやま・あいすけ) 1865～1953
鹿児島県出身。米アムハースト大卒。独

ボン大留学。14(大正3)年創設の国際の代表社員、社長。日本製鋼所会長、日米協会会長、国際文化会館初代理事長などを務めた。

神坂鶴太(かみさか・つるた) 1904～95
岡山県出身。九州大卒。神戸新聞を経て32(昭和7)年聯合入社。同盟で内経部海運主任、中支総局経済部長、漢口支局長。戦後は51年、海運タイムス社社主。

上村藤吉(かみむら・とうきち) 1908～2000
国際、聯合を経て同盟で経理部会計主任、同次長、同部長。時事で取締役総務局長。

亀谷利一(かめたに・りいち) 1900～66
岐阜県出身。20(大正9)年国際入社。聯合で天津、南京、北平(現北京)各支局長。満州映画協会を経て39(昭和14)年、華北での対中宣伝工作を担った武徳報社長。

川上十郎(かわかみ・じゅうろう) 1913～86
東京出身。明治学院高商部卒。42(昭和17)年同盟入社、地方部、整理部。共同でラジオ・テレビ局報道部次長。

川崎正雄(かわさき・まさお) 1908～99

広島県出身。天理外語卒。31(昭和6)年聯合入社。同盟で中支総局華文部長、海外局華文部長、東亜部次長。共同でバンコク支局長、人事部長、名古屋支社長。

川島信太郎(かわしま・しんたろう*) || 1895 ~ 1979 大阪出身。通信官吏練習所卒。22(大正11)年国際入社。聯合を経て同盟で天津支局長、神戸支局長、庶務部長、総務局次長。戦後は松下電送(現パナソニック)で外国部長。

菊江栄一(きくえ・えいいち) || 1910 ~ 93 東京出身。九州大卒。34(昭和9)年電通入社。同盟に移り広東支局、中支総局。45年国通に出向。戦後は中日新聞論説委員、中部日本放送論説委員。

菊地久太郎(きくち・きゅうたろう) || 1909 ~ 91 宮城県出身。無線電信講習所卒。28(昭和3)年聯合入社。同盟で中南支総局通信部次長、連絡局電務第一部次長。共同で技術部長、秋田支局長。

菊地四郎(きくち・しろう*) || 1917 ~ 2000 山形県出身。東京第一高等無線工科学校卒。41(昭和16)年同盟入社、北支総局、中華総社。

時事でロサンゼルス特派員、シンガポール特派員、社会部長。

岸田繁(きしだ・しげる) || 1922 ~ 2002 千葉県出身。同盟講習所卒。43(昭和18)年同盟に入社し、電務部、マカツサル支社、バンジェアルマシン支局。共同で名古屋支社通信部次長、連絡局通信部次長。

木島重治(きじま・しげはる*) || 国通入社。編集局。ハルビン支局。戦後は埼玉県で高校教諭。

喜多原星朗(きたはら・ほしろう) || 1919 ~ 95 東京出身。33(昭和8)年電通入社、写真部。同盟に移り写真部。40年応召、43年召集解除。戦後は日刊スポーツ写真部長、大阪日刊スポーツ編集局長。

木原喜一(きはら・きいち) || 1913年生まれ 新潟県出身。高小卒。特務機関員などを経て41(昭和16)年国通入社。43年同盟に出向し技術研究所。同年応召。47年復員して共同外電部。49年退社し日本電送機、東方電機(現パナソニック)の取締役を務めた。

木村哲造(きむら・てつぞう*) || 1968年死去

秋田県出身。32(昭和7)年聯合入社、その後電通に移る。戦後は電通監査役、取締役。

木村嘉宏(きむら・よしひろ*) || 1902 ~ 95 滋賀県出身。旧制中卒。24(大正13)年帝通入社。聯合を経て同盟で保定支局長、徐州支局長。共同で鳥取支局長、整理部次長。定年退社後は印刷業の共同センター代表取締役。

木村良一(きむら・りょういち*) || 1907年生まれ 北海道出身。中央大卒。日刊工業新聞などを経て43(昭和18)年同盟入社。経済局内経部などをを経て応召。時事の経済部に短期間在籍。週刊経済紙を発行する経済時事新聞社で編集長。

清河政雄(きよかわ・まさお*) || 1909年生まれ 長崎県出身。明治大政経卒。読売新聞、大新京日報、国民新聞、都新聞を経て39(昭和14)年同盟入社。政治部、ジャカルタ支社編集主任。共同で政経部。48年退社。

久我豊雄(くが・とよお) || 1909 ~ 92 東京出身。東京商大卒。31(昭和6)年聯合入社。同盟でモスクワ支局長、南方総社海外部長。共同で外信部長、編集局長、大阪支社長。

葛生林之助(くずお・りんのすけ) 1919 19 2
016 栃木県出身。商業学校卒。40(昭和15)
年同盟入社。地方部、高知支局。共同で高知支
局通信主任。

葛野信太郎(くずの・しんたろう) 1909 9 2
神奈川県出身。日本大法卒。国民新聞を経て37
(昭和12)年同盟入社。社会部、横浜支局、マカッ
サル支社。時事で横浜支局、地方部。

葛山照夫(くずやま・てるお) 1996 年死去
同盟でニュース映画要員として中国各戦線に従
軍。時事で富山支局長、長野支局長、松山支社
長。

久保田久男(くぼた・ひさお) 1918 2 00
1 東京出身。旧制中中退。35(昭和10)年聯合
入社。同盟で発送部。共同で発送部次長、同部
長、厚生部長。

熊谷正男(くまがや・まさお) 1908 76 北
海道出身。旧制中中退。旭川新聞、小樽新聞を
経て29(昭和4)年聯合入社。同盟で名古屋支社、
青森支局、連絡局通信部。44年応召。時事で青
森支局長。

栗林農夫(くりばやし・たみお) 1894 19
61 長野県出身。高小卒。少年時代から俳句
に親しむ。俳号は一石路。27(昭和2)年、聯合
入社。同盟で社会部長。プロレタリア俳句運動
にも力を入れる。41年2月、治安維持法違反容
疑で逮捕され43年保釈。終戦時は同盟蓼科農場
責任者。

黒沢英二(くろさわ・えいじ) 1908 93 東
京出身。ニュージールランド・オークランド大卒。
42(昭和17)年同盟入社、通信局海外部、華中総
局英文部。時事で英文部次長。

黒沢俊雄(くろさわ・としお) 1911 45
東京出身。旧制東京高中退。同盟入社。社会部、
南方総社、マニラ支社。マニラ支社編集部次長
のとき、米軍のルソン島攻略による日本軍敗走
を受けて支社を撤収、45(昭和20)年6月、マニ
ラ東方山中で自決。

結束武二郎(けつそく・たけじろう) 1890 19
56 通信官吏練習所卒。16(大正5)年国
際大阪支社入社。聯合を経て同盟で人事部長、
企画局長。戦後は東方電機(現パナソニック)監査
役。

ジョン・ラッセル・ケネディ(John Russell Ken-
edy) 1861 1928 アイルランド生
まれ。米ワシントン・ポストを経て、01(明治
34)年AP入社。07年AP東京支局長。国際の
創立に参画し、総支配人を務めた。

マルコム・ダンカン・ケネディ(Malcolm Dun-
can Kennedy) 1895 1984 英軍人、
ジャーナリスト。スコットランド出身。17(大
正6)年から20年まで英軍の日本語研修生とし
て東京に滞在。25年から34(昭和9)年までロイ
ター東京特派員。

源関正寿(げんせき・まさとし) 1915 93
長野県出身。旧制中中退。写真店勤務を経て40
(昭和15)年同盟入社。写真部、中支総局。共同
で写真部長、編集委員。

小泉辰雄(こいずみ・たつお) 1916 20
04 東京出身。東京商大卒。40(昭和15)年同
盟入社、名古屋支社。41年入営。46年復員し、
西日本新聞東京支社で編集委員。

小糸忠吾(こいと・ちゅうご) 1911 200
1 東京出身。旧制中卒後、渡米。ワシントン
州立大卒。ミネソタ州立大院修了。米国で記者

となり、39(昭和14)年同盟入社。ニューヨーク支局、海外部。42年応召。共同で海外部長、ニューヨーク支局長、国際局長。66年の退職後上智大教授、同大学院教授、新聞学科長。

洪孔煒(こうこうい) 1923年生まれ 台南出身。台南中卒。42(昭和17)年同盟入社。台南支局。

小寺巖(こでら・いわお) 1905〜87 兵庫県出身。神戸高商卒。27(昭和2)年聯合入社。同盟でロンドン支局、外経部長、神戸支局長。共同の神戸支局長を経て神港新聞編集局長兼主筆、神戸商工会議所専務理事、神戸国際会館常務。

小林修三(こばやし・しゅうぞう) 1912〜2006 東京出身。工芸学校卒。報知新聞写真部を経て38(昭和13)年同盟入社。写真部、マニラ支社、南方総社、サイゴン(現ホーチミン)支社。共同で写真部長、共同通信フォトサービス取締役。

小林隆資(こばやし・たかし) 1916〜88 兵庫県出身。中野無線卒。40(昭和15)年同盟入社。南京支局、電務第一部。時事で政治部、特信部、岐阜支局長。

小林徳宝(こばやし・よしとみ) 1898〜1945 山梨県出身。通信伝習生養成所卒。国際大阪支社、同本社を経て26(大正15)年聯合入社。

同盟で大阪支社、国通大阪支社出向を経て43(昭和18)年広島支局長。45年、組織改正で広島支社長。同年8月6日の原爆投下により死去。

小山武夫(こやま・たけお) 1909〜2003 長野県出身。法政大経卒。33(昭和8)年国通入社。東京支社。同盟に出向、転籍して中南支、北支、中支各総局、政経部次長。44年応召。戦後は中日新聞で論説委員長、中日球団オーナー。52年度のポーン国際記者賞(現ポーン・上田記念国際記者賞)受賞。

小山正美(こやま・まさみ) 1913〜2010 長野県出身。明治大専門部卒。電話局を経て43(昭和18)年同盟入社。南方総社、ラングーン(現ヤンゴン)支社。共同で文化部、外国特信部。

胡霖(こりん) 1883〜1949 中国のジャーナリスト、四川省出身。「大公報」記者。21(大正10)年に国聞通訊社を創設。

【各行】

齊藤桂助(さいとう・けいすけ) 1949年死去 早稲田大卒。電通入社。同盟に移り社会部。セブ支局長在任時に報道班員としてレイテ島の戦闘に従軍。著書に『最後の報道班員』。

齋藤龍雄(さいとう・たつお) 1910〜87 福島県出身。日本医大中退。新愛知新聞などを経て44(昭和19)年同盟入社、総務局、経済局。時事で千葉支局長、札幌支社業務部長。

齋藤正躬(さいとう・まさみ) 1911〜67 千葉県出身。旧制水戸高中退。34(昭和9)年聯合入社。同盟でロンドン支局、ベルリン支局、ストックホルム支局長。共同で社会部長、ワルシャワ支局長、編集局次長、特信局総務。

坂下健一(さかした・けんいち) 1909〜98 大阪出身。日本大専門学校卒。32(昭和7)年国通入社。ハルビン支社次長兼編集部長、チチハル支社長。終戦後、一時現地新聞社に勤務後、共同で大阪支社、整理部、政治部。

坂田寛蔵(さかた・かんぞう*) 1901〜90 福岡県出身。東洋大卒。上海毎日新聞社会部長

などを経て33（昭和8）年電通入社。同盟に移り
漢口支局長、南支総局編集部長。上海で陸軍報
道班。時事で熊本支局長。

坂田二郎（さかた・じろう）1909～91 米サ
ンフランシスコ生まれ。7歳で両親の郷里青森
県に。東京大文卒。33（昭和8）年聯合入社。同
盟で政治部、上海支社、南京支社、モスクワ支
局長。共同で社会部長、欧州移動特派員、編集
局次長、連絡局長、特信局長。52年、戦後ソ連
（現ロシア）に日本人記者として一番乗りを果た
した。共同在職時よりNHK解説委員を務めた。

坂田東助（さかた・とうすけ）1906～96
岩手県出身。旧制中卒。京城（現ソウル）で商社
勤務の後、31（昭和6）年電通入社、京城支局。
同盟に移り京城支社通信部長。45年全州支局長、
応召。同盟解散で退社。戦後は鹿児島市議事
務局勤務。

崎谷三郎（さきたに・さぶろう） 関西大卒。国通
入社。応召。召集解除後は、整理部を経て終戦
時はハイラル支局。戦後は電信電話タイムス。

桜田ユキ（さくらだ・ゆき）旧姓名は高尾ユキ子 11
1919年生まれ 東京出身。職業女学校卒。

37（昭和12）年同盟に入社し総務局。41年退社。

佐々木健児（ささき・けんじ）1904～78 兵
庫県出身。東亜同文書院中退。東方を経て26（大
正15）年聯合入社。南京支局長、奉天（現瀋陽）支
局長。32（昭和7）年国通・通信部長。37年同盟
北平（現北京）支局長、中華総社長。戦後は商通
社長、防長新聞社長。

佐々木凜一（ささき・りんいち）1911～96
大阪出身。東京大文卒。33（昭和8）年電通入社。
同盟に移り上海支社、香港支局、外信部、ロー
マ支局、ロンドン支局、ベルリン支局。戦後は
産経新聞で外信部長、編集局次長、中部日本放
送で論説委員長、常務。

笹森三郎（ささもり・さぶろう）1918～98
宮城県出身。法政大専門部卒。39（昭和14）年同
盟入社、中南支総局、香港支局。共同で室蘭支
局長、函館支局長。

佐藤一郎（さとう・いちろう）1912～96 福
島県出身。商業学校卒。損保会社などを経て43
（昭和18）年同盟入社、経済局。時事で福島支局長、
仙台支社長。

佐藤啓之（さとう・けいし）1916～2006
岩手県出身。中央大卒。39（昭和14）年同盟入社、
連絡部、内信部。共同で整理部長、地方部長、
編集総局総務、社長室幹事。退社後味の素広報
室。

佐藤俊司（さとう・しゅんじ）1921～90 新
潟県出身。北京興亜学院卒。42（昭和17）年同盟
入社。華北総局、保定支局。時事で新潟支局、
経済部、校閲部。

佐藤長蔵（さとう・ちやうぞう）1912年生ま
れ 青森県出身。農学校中退。2度の応召の後、
43（昭和18）年同盟に入社し終戦までマカッサル
支社。

佐藤文三郎（さとう・ふみさぶろう）1907～
93 新潟県出身。旧制中中退。34（昭和9）年電
通入社。同盟に移り、室蘭支局長、札幌支社編
集主任。共同で編集庶務部長、富山支局長。

佐藤顕理（さとう・けんり）1859～1925
江戸の生まれ。本名は重道。外国人教師から英
語を学び、東洋英和学校、学習院で教師をした
後、ジャーナリストに転じ東京日日新聞記者や
ライター東京支局長。14（大正3）年、国際創立

と同時に入社、編集長。自伝など英文の著書多数。

里見甫(さとみ・はじめ) 1896～1965

ジャーナリスト。福岡県出身。東亜同文書院を卒業後、記者を経て28(昭和3)年、南満州鉄道の嘱託になる。32年、新京(現長春)に設立された国通の初代主幹(事実上のトップ)に就任。

座間勝平(ざま・しょうへい) 1884～197

3 千葉県出身。報知新聞調査部長などを経て20(大正9)年東方正入社、通信部長、主幹。聯合で総務局長。聯合退社後、国民新聞編集局長。戦後は報知新聞社長。

鮫島志芽太(さめじま・しめた) 1914～20

07 鹿児島県出身。早稲田大政経卒。国通入社。本社取材部。51(昭和26)年南日本新聞入社、編集局長、論説委員長、専務。

三仙交二(さんぜん・こうじ) 1900～99 福

井県出身。実業補習学校卒。銀行などを経て34(昭和9)年聯合入社。同盟で一時商通に転籍後、同盟に戻り福井支局、内経部、大阪支社編集部次長。時事で大阪支局報道部長。

椎野豊(しいの・ゆたか) 1894年生まれ 徳

島県出身。旧制中卒後、ブラジルに渡り36(昭和11)年同盟リオデジャネイロ通信員。42年帰国、戦時調査室、調査局資料部。共同で調査部に嘱託として勤務したが46年退社。ブラジル新聞の編集・発行人を務めた。

篠原滋(しのはら・しげる) 1909～79 山

口県出身。旧制姫路高中退。九州日報、防長新聞などを経て35(昭和10)年聯合入社。同盟で中南支総局、サイゴン(現ホーチミン)支局、静岡支局長。共同で記事審査室長、編集局総務。

柴山正男(しばやま・まさお) 1914～89

34(昭和9)年聯合入社、大阪支社。同盟から39(同14)年国通に出向。45年応召、47年引き揚げ。

島田君子(しまだ・きみこ、旧姓熊沢) 1925

(大正14)年国際入社。タイピストとして聯合でも勤務。

下村宏(しもむら・ひろし) 1875～1957

和歌山県出身。東京大法卒。通信省郵便貯金局長などを経て台湾総督府民政長官。43(昭和18)年、日本放送協会会長。45年鈴木貫太郎内閣の国務相・情報局長。

小路春美(しょうじ・はるみ) 1914～201

3 広島県出身。実業補習学校中退。日刊工業新聞を経て40(昭和15)年同盟入社。南支総局、昭南(現シンガポール)支局。共同で大阪支社、写真部次長、共同通信フォトサービス大阪出張所次長。

正力松太郎(しょうりき・まつたろう) 1885

～1969 富山県出身。東京大法卒。内務官僚から読売新聞経営に転じ、54(昭和29)年社主。日本テレビ放送網社長も務めた。

白尾干城(しらお・かんじょう) 1986年死去

26(大正15)年国際入社。聯合で外信部、上海支局。同盟で南京支局長。

白仁進(しらに・すすむ) 1901～91 東京出

身。早稲田大中退。月刊誌編集、兵役、九州日報専務などを経て41(昭和16)年同盟入社。社長秘書。45(同20)年応召。戦後は松下電送(現パナソニック)取締役、太平印刷社監査役。長く同盟学寮の寮長を務めた。

進藤陽吉郎(しんどう・ようきちろう) 1908

～89 東京出身。大倉高商専修科卒。国際を経て聯合へ。いったん退社後30(昭和5)年再入社。

同盟で経理部用度主任、事業部発送主任。同盟解散後はたばこ、燃料などの小売店を経営。

W・E・L・スウィート(W. E. L. Sweet) 英国人。1901(明治34)年来日。21(大正10)年まで熊本や東京で英語教師を務めた後、国際に入社、総監督。

杉田栄三(すぎた・えいぞう) 1912〜90 東京出身。横浜高商卒。34(昭和9)年聯合入社。同盟で外経部、北支総局、華北総局経済部長。共同で外信部長、経理局長、モスクワ支局長、共同経済通信社専務。

杉田才一(すぎた・さいいち) 1894〜1970 神奈川県出身。高小卒。15(大正4)年国際入社、横浜支局長。聯合を経て同盟で庶務部長、浦和支局長。

メルビル・ストーン(Melville E. Stone) 1848〜1929 米イリノイ州出身。1876(明治9)年、シカゴ・デリー・ニュースを創刊。93年AP総支配人。1911年に夫人とともに来日。

住谷金吉(すみや・きんきち) 1897〜196

8 東京出身。中央大卒。国際を経て26(大正15)年聯合入社、内信局で陸軍省を担当。同盟で航空部長、中華総社次長。時事で横浜支局長。

住谷晋一郎(すみや・しんいちろう) 1914〜2004 群馬県出身。旧制中卒。聯合、商通を経て40(昭和15)年同盟入社。釜山支局、天津支局などの後応召。時事で札幌支社長、資材部長。

関口寿一(せきぐち・ひさかず) 1909〜92 東京出身。明治学院高商卒。時事新報を経て34(昭和9)年国通入社、政経部長、取材部長。49年共同入社。翌年退社。その後、神戸新聞編集局長。

勢多左武郎(せた・さぶろう) 1888〜1981 福島県出身。東北学院卒。やまと新聞などを経て18(大正7)年国際入社。外信局の後、上海のライターに向向。国際に戻り聯合を経て同盟で国際写真新聞編集主任、出版部編集主任。44(昭和19)年退社。

瀬谷崎孝(せやざき・たかし) 1913〜95 大阪出身。実業学校卒。31(昭和6)年聯合入社。いったん退社し43年同盟入社、広島支社通信主

任。共同で広島支局、徳島支局長。

【た行】

高石真五郎(たかいし・しんごろう) 1878〜1967 千葉県出身。慶応大法卒。45(昭和20)年、毎日新聞社長。公職追放の後、61年最高顧問に復帰。

高雄辰馬(たかお・たつま) 1904〜80 長崎県出身。中日懇親学堂卒。京城日報などを経て33(昭和8)年聯合入社。同盟で社会部次長、ラングーン(現ヤンゴン)支局長、漢口支局長。戦後は東京タイムズ専務。

高木益三郎(たかぎ・ますさぶろう) 1911〜93 東京出身。電信協会無線講習所卒。32(昭和7)年聯合入社。国通、満州電信電話を経て49年共同入社。技術研究室長、技術主査。

高倉正夫(たかくら・まさお) 1914〜2001 兵庫県出身。大阪外語卒。35(昭和10)年聯合入社。同盟で外経部、バンクク支局、ブキチンギ支局編集主任。時事でジャカルタ特派員、大阪支社編集部長、京都支局長。

高田秀二(たかだ・ひでじ) 1913-92 福島県出身。東京大文卒。38(昭和13)年同盟入社、ハノイ支局、サイゴン(現ホーチミン)支社取材主任。共同で社会部長、パリ支局長、編集局長、常務理事。日本記者クラブ理事長。

高野太一郎(たかの・たいちろう*) 1901-85 石川県出身。衆院速記練習所卒。時事新報を経て34(昭和9)年聯合入社。同盟で通信局地方部、連絡局通信部、南方総社通信主任。

高橋勇(たかはし・いさむ) 1892-1979 大阪出身。大阪外語別科卒。18(大正7)年国際入社、大阪支社。聯合で連絡局連絡部長、同盟で神戸支局長。時事で取締役大阪支社長。

鷹嘴寿(たかはし・ひさし) 1890-1962 通信省通信生養成所卒。大阪中央電信局を経て19(大正8)年国際入社。聯合で連絡局長、同盟で通信局長兼技術研究所長、常務理事。同盟解散後は同盟電機製作所(現パナソニック)代表取締役、東方電機(同)社長。

高橋秀男(たかはし・ひでお*) 1998年死去 タクシー会社から同盟編集局編集庶務運転手として入社。

高橋義樹(たかはし・よしき) 1917-79 島根県出身。日本大専門部卒。台湾総督府を経て39(昭和14)年同盟入社、社会部。44(同19)年、海軍報道班員として赴いたグアムで米軍捕虜となる。帰還後46年共同入社、解説部次長、企画委員。

高柳淳雄(たかやなぎ・あつお) 1923-93 石川県出身。同盟講習所卒。42(昭和17)年同盟入社。電務部、華南総局、香港支局。共同を経て時事で秋田、金沢、奈良各支局長。

滝口義敏(たきぐち・よしとし) 1904-92 香川県出身。京都大経卒。29(昭和4)年聯合入社。同盟で亜経部長、東亜部長、調査部長。共同で連絡局長、常務理事。

竹中三郎(たけなか・さぶろう*) 1901-74 東京出身。目黒無線電信講習所卒。電信局などを経て26(大正15)年電通入社。青島支局。同盟に移り技術部次長、電務部長。共同で広島支局長、放送部長。

田崎与喜衛(たさき・よきえ) 1909-97 新潟県出身。東京大経卒。34(昭和9)年聯合入社。同盟で週報部、経済部、富山支局長。共同で富

山支局長。厚生資材部長、ラジオ・テレビ局次長。

多田貞三郎(ただ・ていさぶろう) 1907-88 長野県出身。実業補習学校卒。北越新報を経て35(昭和10)年電通入社。同盟に移り長野支局、連絡局通信部、パラオ支局長。共同で通信部長、連絡局次長、岡山支社長。

伊達源一郎(だて・げんいちろう) 1874-1961 島根県出身。同志社卒。国民新聞編集局長、国際報道部長、読売新聞主幹。20(大正9)年東方正主幹。聯合の理事兼顧問。戦後は島根新聞社長、参院議員。

田中理(たなか・おさむ) 1930-2007 京都府出身。京都大法卒。52(同27)年共同入社。政治部次長、内政部長、論説副委員長。

田中一雄(たなか・かずお) 1917-99 千葉県出身。早稲田大専門部中退。32(昭和7)年聯合入社。同盟で北支総局。時事で経済部次長、商況部長。

田中正太郎(たなか・しょうたろう) 1900-90 長野県出身。旧制中卒。万朝報を経て27(昭

和2)年聯合入社。同盟で編集局次長、連絡局長。共同で連絡局長、常務理事。太平印刷社社長。

内信局長、連絡局長、常務理事。退任後テレビ西日本専務。

シア)に抑留。引き揚げ後、共同囑託を経て電通監査役。

田中都吉(たなか・ときち) 11877~1961
京都府出身。東京高商卒。外務省通商局長、情報部次長、外務次官。ジャパントイムス社長を経て初代駐ソ大使。中外商業新報社長も務め、同盟の設立に尽力。

千田真清(ちだ・ますみ) 11915年生まれ 岩手県出身。早稲田大専門学校卒。中外商業新報を経て39(昭和14)年同盟入社、政経部、マカッサル支社、バンジエルマシシ支局。共同で経済部。

津田章(つだ・あきら) 11919~2009 熊本県出身。東京第一高等無線工科学学校卒。37(昭和12)年同盟入社、技術部、北支総局。時事でブエノスアイレス特派員、京都支局長、横浜支局長。

田中盛文(たなか・もりふみ) 11913年生まれ 青森県出身。目黒無線電信講習所卒。参謀本部、在上海日本大使館を経て37(昭和12)年同盟入社。技術部、電務部、マカッサル支社電務部長。戦後は同盟電機製作所(現パナソニック)を経て青森県で中学教師。

千葉亀雄(ちば・かめお) 11878~1935
山形県出身。早稲田大高等師範部中退。時事新報、読売新聞、東京日日新聞などで社会部長、学芸部長、編集局長を歴任。文芸評論家としても知られる。

津田正夫(つだ・まさお) 11897~1988
東京出身。京都大経卒。在ジュネーブ国際労働機関(ILO)日本政府事務所書記、ILO職員を経て39(昭和14)年同盟入社。ブエノスアイレス支局長。戦後は駐アルゼンチン大使、国家公安委員。

頼母木桂吉(たのもぎ・けいきち) 11867~1940 政治家、実業家。広島県出身。旧制一高卒。帝通社長から政治家に転身。広田弘毅内閣の通信相を務める。38(昭和13)年、報知新聞社長、翌年、東京市長になるが在職中に死亡。

塚原俊郎(つかはら・としお) 11910~75 茨城県出身。東京大卒。35(昭和10)年聯合入社。入営・除隊後、同盟に復職、政治部、政経部。戦後は内閣世論調査課長を経て49年衆院議員。総理府総務長官、労相(現厚労相)。

角田匡(つのだ・ただし) 11916~97 鳥取県出身。東京写真専門学校卒。42(昭和17)年同盟入社。写真部、昭南(現シンガポール)支局、サイゴン(現ホーチミン)支社、ジャカルタ支社。共同で写真部次長、写真サーピス部長。

田村源治(たむら・げんじ) 11895~1988
福岡県出身。早稲田大卒。万朝報、東京日日新聞などを経て25(大正14)年電通入社。同盟に移り地方部長、通信局次長、福岡支社長。共同で

塚本義隆(つかもと・ぎりゅう) 11894~1981 大阪府出身。通信官吏練習所卒。電信局を経て20(大正9)年国際入社。聯合で上海支局、ベルリン支局、大阪支社長。同盟で経済局長、総務局長。45(昭和20)年国通理事長、ソ連(現ロ

円谷文夫(つぶらや・ふみお) 11921~2002 東京出身。東京大文卒。43(昭和18)年同盟入社、外信部、華中総局。時事で外信部長、ワシントン支局長。

寺西五郎(てらにしごろう) 1910〜81 兵庫出身。大阪外語卒。31(昭和6)年聯合入社。同盟で外経部長、外信部長。共同でロンドン支局長、編集局長、常務理事。50年、ポーン国際記者賞(現ポーン・上田記念国際記者賞)の第1回受賞者。

土肥常温(どいつねあつ) 1886年生まれ 東京出身。1906(明治39)年、ロイターおよびA.P.東京支局員、14(大正3)年、国際創立とともに入社。

土肥良造(どいりょうぞう) 1917〜87 和歌山県出身。慶応大文卒。41(昭和16)年同盟入社、翌年応召。共同でソウル特派員、整理部次長、シンガポール支局長。

東谷潤吉(とうたにじゅんきち) 1944(昭和19)年同盟入社。編集局地方部、海外局企画部を経て南方総社、サイゴン(現ホーチミン)支社。戦後は伊勢新聞。

戸国清太(とくにきよた) 1916年生まれ 岡山県出身。法政大高等師範部中退。39(昭和14)年同盟入社。広東支局、東亜部、大陸部。共同で政経部。48年退社し印刷業を営む。

得能益忠(とくのうますただ) 1908〜99 愛媛県出身。旧制中卒。衆院速記者を経て41(昭和16)年同盟入社、松山支局。共同で同支局通信主任。

徳光衣城(とくみついじょう) 1884〜1953 早稲田大卒。報知新聞、大正日日を経て東京毎夕編集局長。東方北京支社長を経て聯合内信局長。聯合から大阪毎日に移り社会部長を務める。

殿木圭一(とのきけいち) 1909〜94 東京出身。東京大院修了。34(昭和9)年聯合入社。同盟で東亜部次長、南方総社編集部長。共同で大阪支社次長、ラジオ・テレビ局長。60年退社し東京大教授。同新聞研究所(当時)所長。日本大、文教大などでも教鞭を執り、日本エッセイスト・クラブ会長も務めた。

友松敏夫(ともまつとしお) 1910〜2000 福岡県出身。青山学院高等学部卒。32(昭和7)年国通入社、本社編集局取材部。37年同盟に移り天津支局、サンフランシスコ支局、華中総局編集部長。戦後は「月刊新聞ダイジェスト」創刊に加わり発行元の主幹、代表取締役を務めた。

豊田治助(とよたじすけ) 1905〜94 大阪出身。京都大経卒。31(昭和6)年聯合入社、大阪支社庶務会計部。同盟でシドニー支局長、中南支総局業務部長、中支総局総務部長を経て43年上海で海軍に出向。共同で大阪支社次長、岡山支社長。共同退社後は国際文化会館常務理事。

【な行】

中川正和(なかがわまさかず) 1918〜2001 京都府出身。ロシア語専修学院卒。電通、同盟を経て38(昭和13)年国通入社。ハルビン支社、奉天(現・瀋陽)支社。45年応召。戦後は共同で熊本支局長。

長沢千代造(ながさわちよぞう) 1893〜1972 中国・大連市の遼東新報を経て30(昭和5)年聯合入社。台北支局長、京城(現ソウル)支局長。同盟で横浜支局長。37(同12)年国通に出向し総務局長、大連支社長。42年中部日本新聞に出向し、取締役業務局長。戦後は日本広告会(現東京広告協会)事務局長、全日本広告連盟業務理事。

長島又男(ながしままたお) 1904〜92 埼玉出身。早稲田大中退。29(昭和4)年聯合入社、

政治部。同盟で政治部長、論説委員。戦後、民報創刊に参画し主筆。同紙廃刊後は政治評論家。

中田義次(なかだ・よしつぐ) 1908〜95 山梨県出身。帝通を経て31(昭和6)年聯合入社。同盟で写真部長。共同で写真部長、浦和支局長、共同通信フォトサービス代表取締役。

長林密蔵(ながばやし・みつぞう) 1888〜1979 新潟県出身。二松学舎卒。千代田通信社を経て27(昭和2)年聯合入社。同盟で経済局参事、総務局参事。44年退社。戦後、引揚職員世話人会の世話人、太平印刷社社長。

中村敏(なかむら・さとし) 1908〜81 宮崎県出身。日本大専門部卒。32(昭和7)年国通入社。同盟に転籍。45年6月広島支社編集部長。共同で福岡支社長、編集局総務、共同文化事業社代表取締役。

中村俊一(なかむら・しゅんいち) 1912〜91 福岡県出身。旧制中卒。久留米市書記などを経て41(昭和16)年同盟入社、大分支局。共同で同支局通信主任。

中村正(なかむら・ただし) 映画撮影所を経て

1937(昭和12)年同盟入社、映画部。

中村信(なかむら・まこと) 1908〜98 東京出身。彦根高商卒。29(昭和4)年聯合入社。30年入営のため退社。32年聯合に戻り同盟で経済局。共同で調査部長、ラジオ部長、ラジオ・テレビ局長代理。

中山ち多(なかやま・ちえ、旧姓黒沢) 1945(昭和20)年6月、マニラ東方の山中で自決した同盟マニラ支社編集部次長黒沢俊雄の妹。

永由君人(ながよし・きみと) 1907〜97 長野県出身。第一外語中退。33(昭和8)年聯合入社。同盟で南方総社編集部長、配給会、連絡局通信部長。共同で仙台支社長、連絡局総務、ラジオ・テレビ局長。

永由武秋(ながよし・たけあき) 1914〜92 長野県出身。大同義塾卒。南信日日新聞を経て33(昭和8)年聯合入社。同盟で商通出向、経済局、神戸支局、華南総局。時事で大阪支社次長兼業務部長、取締役営業局長。

西井武好(にしい・たけよし) 1915〜2010 高知県出身。大阪通信局通信講習所中退。

32(昭和7)年電通入社。聯合を経て同盟で編集局写真部、華北総局写真部。共同で写真部次長、千葉支局長、(株)共同取締役企画副本部長。

西村清俊(にしむら・きよとし) 1908〜98 島根県出身。京都大法卒。35(昭和10)年国通入社。ハルビン支社、厚和(現フフホト)支局長、編集局整理部長。42年満州国政府に出向し、報道班長。戦後は参院調査員、全国水産業協同組合共済会専務理事。

西村二郎(にしむら・じろう) 1903〜99 東京出身。東京商大卒。28(昭和3)年電通入社。同盟に移り調査部長、戦時調査室内国部長。44年新潟日報に移り編集局長、社長。

野間正二(のま・しょうじ) 1916〜2000 大阪出身。30(昭和5)年聯合入社。同盟で大阪支社写真部、ラングーン(現ヤンゴン)支局、パシフィック支局。共同で大阪支社写真部撮影主任、本社写真部長。

〔は行〕

萩野伊八(はぎの・いはち) 1903〜49 秋田県出身。24(大正13)年、ハルビンの日露協会学

校卒。同年、国際入社。聯合でジュネーブ特派員。同盟でモスクワ支局長、編集局長などをを経て45(昭和20)年、日本印刷産業総合統制組合に出向。

萩原忠三(はぎはら・ちゅうぞう*) 119011~85
栃木県出身。東京商大卒。27(昭和2)年電通入社。同盟でニューヨーク支局長。共同で特信局長。

橋本正邦(はしもと・まさくに) 119151~2002
東京出身。東京大文卒。40(昭和15)年同盟入社、社会部。同年入営。共同で外信部長、ワシントン支局長、編集局長、常務理事。

長谷川才次(はせがわ・さいじ) 119031~78
青森県出身。東京大法卒。29(昭和4)年聯合入社。同盟で外信部長、ロンドン支局長、海外局長。報道局長。時事発足時に社長。71年7月会長、同年9月退任。

長谷川峻(はせがわ・たかし) 119121~92
宮城県出身。早稲田大専門部卒。32(昭和7)年聯合入社。外信部、大阪支社、福岡支局。九州日報に転じ編集局長。戦後は東久邇内閣で緒方竹虎國務相の秘書官。53年衆院議員に初当選。労相(現厚労相)、運輸相(現国交相)などを務めた。

秦巖夫(はた・いわお) 119091~84
東京大文卒。32(昭和7)年電通入社。同盟に移り政治部、中南支総局、外信部を経て40年退社、鉱山統制会に。戦後は北海道経営者協会専務理事、札幌テレビ監査役、北海道空港社長。

波多尚(はた・ひさし) 119041~83
佐賀県出身。東京大法卒。28(昭和3)年電通入社。同盟に移り企画部長、出版部長、ハノイ支局長、華北新報副社長。戦後は産経新聞編集局長、論説委員長、日本エッセイスト・クラブ理事長、電通監査役。

波多博(はた・ひろし) 118851~
大分県出身。東亜同文書院卒。支那研究所を経て14(大正3)年、主幹として東方入社。聯合で上海支局長。38(昭和13)年、大陸新報を設立。戦後は東邦研究会常務理事。

花田為次郎(はなだ・ためじろう*) 119081~79
福岡県出身。高小卒。23(大正12)年帝通入社。聯合、九州日報、大阪毎日新聞を経て37(昭和12)年同盟入社、札幌支社通信主任。共同で札幌支社、福岡支社通信部。

馬場書生(ばば・しよせい*) 119041~92
27

(昭和2)年聯合入社、大連支局。32年国通入社、大連支社長、人事部長。51年電通入社、大阪支社。

早川仁三(はやかわ・じんぞう) 119171~2004
埼玉県出身。旧制中卒。38(昭和13)年同盟入社、昭南(現シンガポール)支局、タイピン支局。時事で貿易産業版、厚生環境版などの主任。
林豊八(はやし・とよはち) 119121~98
大阪出身。旧制中卒。42(昭和17)年同盟入社。関門支社、小倉支局。44年応召。共同で京都支局通信主任、連絡局通信部次長。

原奎一郎(はら・けいいちろう、本名貢) 119021~83
大阪出身。慶応大予科中退。英国留学、フアッション評論活動の後40(昭和15)年同盟入社、特信部、地方部。戦後は養父の元首相、原敬が残した『原敬日記』を編さん・出版。『ぶだん着の原敬』などを著した。

半谷高雄(はんや・たかお) 119061~92
福島県出身。東京大経卒。29(昭和4)年電通入社。同盟に移り調査部次長、東亜部次長、戦時調査室(上海駐在)。戦後は産経新聞論説委員。

東川嘉一(ひがしかわ・かいち) 11888~19

31 神奈川県出身。中央商業学校卒。AP東京支局に英文速記者兼タイピストとして入社。

14(大正3)年国際入社。17年大阪支局を開設し、国際経済通信を始めた。聯合大阪支社長時代に病死。

東信夫(ひがし・しのぶ) 11915~92 鹿児島

出身。幼少期にカナダに渡りブリティッシュコロンビア大でジャーナリズムを学ぶ。カナダ紙を経て大連のマンチュリアン・デイリーニュース紙論説記者から国通信部へ。ソ連

(現ロシア)抑留後48(昭和23)年帰国。共同を経てAP東京支局次長、AP・DJ東京駐在特別顧問。

平田泰吉(ひらた・やすきち) 11885~19

49 青森県出身。早稲田大文卒。東京日日新聞を経て東方の北京支社から国際の北京支局に移る。聯合外信部を経て36(昭和11)年同盟へ。同年6月退社し12月に嘱託として再入社。共同で東亜部。妻は秀子。

平野正一(ひらの・まさかず) 11913~201

1 兵庫県出身。旧制中卒。41(昭和16)年同盟入社、台南支局。44年応召。共同で連絡局通信

部主任、札幌支社通信部長。

平野義信(ひらの・よしのぶ) 11帝通勤務後、独立し広告代理店「全国新聞通信社」設立。聯合に入社し業務局助役。聯合の広告部門とともに電通に移籍。

平柳常雄(ひらやなぎ・つねお) 11908~90

東京出身。慶応大経卒。32(昭和7)年聯合入社。同盟で中南支総局、南京支局編集主任。共同で福岡支社長、総務局長、常務理事。

平山庫四郎(ひらやま・こしろう) 11919~90

山梨県出身。実業学校卒。43(昭和18)年同盟入社、経理部、バンクック支局。時事で業務局集計部長、経理局財務部長。

福井輝三(ふくい・てるぞう) 11896~1997

6 愛知県出身。11(明治44)年電通入社。同盟に移り京都支局長、連絡局次長。共同で名古屋支社長。共同退社後、伊勢新聞編集局長、神戸放送報道部長。

福岡誠一(ふくおか・せいいち) 11897~19

75 高知県出身。東京大法卒。24(大正13)年国際入社。聯合を経て同盟でロンドン支局長、

大阪支社長、南方総社長。戦後はリーダーズダイジェスト編集長、電通取締役。

福田一(ふくだ・はじめ) 11902~97 福井県

出身。東京大法卒。27(昭和2)年聯合入社。同盟で政治部長、南方総社次長。同盟解散後は政界に転じ49年衆院議員に初当選。通産相(現経産相)、自治相(現総務相)、衆院議長を歴任。

藤井信次郎(ふじい・しんじろう) 11904~80

東京出身。錦城予備校卒。千代田通信、帝通を経て29(昭和4)年聯合入社、社会部。同盟で写真部長、文化部長、地方部長。共同で仙台支社長、特信局次長。共同退社後、共同テレビジョンニュースの映画部長、東方電機(現パナソニック)常務。

藤川佐吉(ふじかわ・さきち) 11897~1997

3 徳島県出身。旧制中卒。京都日出新聞などを経て29(昭和4)年聯合入社。同盟で大阪支社社会部長、国通出向、華南総局長。時事で京都支局長、高松支社長、校閲部長。東方電機(現パナソニック)専務。

藤川清次(ふじかわ・せいじ) 11914~20

04 大阪出身。商業学校中退。43(昭和18)年

同盟入社、南方総局、サイゴン（現ホーチミン）支社、プノンペン支局。時事で外経部。

藤田秀雄（ふじた・ひでお）11908年生まれ

福岡県出身。法政大卒。九州大、大蔵省（現財務省）、出版社、上海毎日新聞政治部長、中華聯合通社を経て39（昭和14）年同盟入社。中南支総局、南京支局。

藤田芳雄（ふじた・よしお）11917年生まれ

愛知県出身。高小卒。愛知県庁を経て38（昭和13）年同盟入社、天津支局。太原支局。戦後は名古屋市の会社勤務。

藤本松子（ふじもと・まつこ、旧姓名は山本まつこ）

タイピストとして国際に入社。聯合で連絡局タイプ部長。同盟に移る。

不動健治（ふどう・けんじ）11898～1985

大阪出身。関西大商卒。帝通を経て30（昭和5）年聯合入社、写真部長。同盟で写真部長、北支総局写真部長、資材部長。戦後は国際文化画報編集長。

船木重光（ふなき・しげみつ）11903～92

富山県出身。山口高商卒。21（大正10）年国際入社。

聯合を経て同盟で人事部長、経理部長、総務局長。同盟解散後は清算人を務めた。公認会計士。

船越武十（ふなこし・ぶじゅう）11907～92

東京出身。早稲田第一高等学院中退。35（昭和10）年国通入社、奉天（現瀋陽）支社通信部長、整理部長、ハルビン支社長、東京支社長。戦後は信濃毎日新聞編集局長。

古野伊之助（ふるの・いのすけ）11891～19

66 三重県出身。早稲田大専門部中退。09明治42年、AP東京支局長ケネディとロイター東京支局長佐藤顕理の共同事務所に給士として入所。病氣療養後の14（大正3）年国際入社、北京、ロンドン各支局主任（支局長）。帰任後、聯合で総支配人、総務局長。同盟発足時は専務理事。

39（昭和14）年岩永裕吉初代社長の急死を受け社長就任。同盟解散後の45年12月、A級戦犯容疑で巣鴨プリズンに収容。46年8月出所、公職追放。追放解除後東京タイムズ取締役、時事取締役、共同理事、日本電信電話公社（現NTT）経営委員長、新聞通信調査会会長、同盟育成会会長。

長。

古野改造（ふるの・かいぞう）11921～92 古

野伊之助氏長男。ホテル・ピラ蓼科社長。

不破欣一郎（ふわ・きんいちろう）1984年死去
聯合業務局から電通に移り、営業局局長待遇。

不破磋磨太（ふわ・さまた）11887～1947

佐賀県出身。東京郵便電信学校卒。ジャパインタムス副社長。14（大正3）年国際創立とともに入社。東方で総務部長。広告聯合社長を経て電通常務、専務。

マイルズ・ボーン（Miles Walter Vaughn）118

92～1949 米ネブラスカ州出身。カンザス大卒。16年（大正5）年UP入社。24年から33（昭和8）年まで東京特派員。戦後、再び来日し副社長兼極東総支配人。49年1月、上田碩三と東京湾でカモ猟中に遭難死。50年ボーン国際記者賞（現ボーン・上田記念国際記者賞）創設。

堀内軍平（ほりうち・ぐんぺい）11918～91

和歌山県出身。彦根高商卒。42（昭和17）年同盟入社。南方総局、バンジエルマシンの、タラカン、バリックパパン各支局。共同で整理部長、新潟支局長、編集連絡部長。

堀川武夫（ほりかわ・たけお）11911～88 広

島県出身。東京大法卒。34（昭和9）年聯合入社。同盟で政治部、高知支局、整理部次長。共同で

政経部。47年退社。広島大学教授。

堀口瑞典(ほりぐち・よしのり) 11909~91

外交官堀口九萬一とベルギー人母の子としてスウェーデンで出生。米ミズーリ大院修了。33(昭和8)年聯合入社。同盟で上海支社英文部長、

ビシー支局長、チューリヒ支局長。48年帰国後共同入社。その後、米通信社INSロンドン特派員、パリ特派員、産経新聞パリ支局長、日本

IBM広報部長。詩人堀口大学の異母弟。

堀義責(ほり・よしたか) 11885~1978

鹿児島県出身。東京高商卒。外務省に入省、駐メキシコ公使。36(昭和11)年同盟常務理事。

本間文吉(ほんま・ぶんきち) 11909~2000

5 新潟県出身。東京高等工芸卒。時事新報を経て37(昭和12)年同盟入社。出版部、昭南新聞会。

共同で神戸支局長、総務局次長、岡山支社長。

【ま行】

前川春吉(まえかわ・はるきち) 11912~98

熊本県出身。高小卒。27(昭和2)年電通入社、熊本支局。同盟へ移る。共同で熊本支局、同支局通信主任。

前田廉(まえだ・すなお) 11907~89 鹿児島県出身。明治大法卒。33(昭和8)年電通入社。

同盟に移り社会部、北支総局、漢口支局長。時事で仙台支社長、出版局長、連絡局長、監査役。

前田盛蔵(まえだ・せいぞう*) 外務省の支援で1919(大正8)年北京に創刊された日刊紙、順天時報記者。

前田雄二(まえだ・ゆうじ) 11911~84 山梨県出身。東京大文卒。35(昭和10)年電通入社。

同盟に移りハノイ支局長。同盟解散後は世界日報、日本新聞協会編集部長、同事務局次長、日本記者クラブ事務局長、日本プレスセンター専務。

牧内正男(まきうち・まさお) 11901~92 神奈川県出身。東京大法卒。国際連盟事務局、外務省を経て32(昭和7)年聯合入社。同盟に移り上海支社、英文部、マニラ支局長、バンコク支社長。共同で特信文化部長、外国特信部長。

牧島貞一(まきしま・ていいち) 11905~86

長野県出身。旧制中卒。映画スタジオ勤務の後、37(昭和12)年同盟入社。40年日本映画社に移り報道班員としてミッドウェー、ソロモンなどの

海戦に従軍。戦後はテレビニュース制作会社勤務。

升井芳平(ますい・よしへい) 11889~1963 鳥取県出身。通信官吏練習所卒。21(大正10)年国際入社。聯合を経て32(昭和7)年国通。

連絡部長、常務理事編集局長の後、退社し同盟に移り技術研究所長兼連絡局次長。

松尾節子(まつお・せつこ*) 旧姓上田 12007年死去 聯合のタイピスト。同盟で庶務部、北支総局。時事で厚生部。

松方三郎(まつかた・さぶろう、本名は義三郎) 11899~1973 東京都大経卒。南満州鉄道を経て34(昭和9)年聯合入社。同盟に移り北支総局長、中南支総局長。

国通理事長に転出し復帰後、調査局長。共同で編集局長、専務理事。学生時代からアルピニストとして知られ、戦後日本山岳会会長を務めた。父は元首相松方正義。

松崎新一(まつざき・しんいち) 11916年生まれ 36(昭和11)年映画会社KSTオーキー入社。

同盟による同社吸収により同盟映画部へ。40年、日本ニュース映画社(翌年日本映画社と改称)設立

により同社に移籍。報道班員としてインパール作戦などに従軍。戦後はTBS報道部、TBS映画社。

松田悟(まつだ・さとる*) || 1910 ~ 83 山口県出身。九州大法文卒。36(昭和11)年国通入社。同盟に出向し厚和(現フフホト)支局長。39年、張家口に本社を置く蒙疆新聞社に出向し編集局長。44年国通に復帰。帰国後はメーカーに勤務。

松永喜雄(まつなが・よしお*) || 松竹蒲田撮影所を経て1938(昭和13)年同盟入社、映画部。40年、報道各社のニュース映画部門統合により発足した日本ニュース映画社(翌年日本映画社と改称)に移籍。

松野秀雄(まつの・ひでお) || 1917 ~ 2000 長崎県出身。41(昭和16)年同盟入社、南京支局、中華総社。長崎支局で被ばく。共同で福岡支社、鹿児島支局長、長崎支局長。

松本重治(まつもと・しげはる) || 1899 ~ 1989 兵庫県出身。東京大法卒。米エール大などに留学後、東京大助手。32(昭和7)年聯合入社、上海支局長。同盟で編集局長、常務理事。同盟解散後は45年創刊の民報社長兼主筆。その後国

際文化会館の専務理事、理事長を務め文化交流に尽力した。

松本昇(まつもと・のぼる*)、旧姓不動 || 1908年生まれ 大阪出身。東京大文卒。32(昭和7)年聯合入社、写真部。同盟写真部。37年同盟を離れ内閣情報部嘱託、写真協会常務理事、日本写真公社常務理事を務める。45年同盟再入社。戦後は日本貿易振興会(現日本貿易振興機構)勤務。不動健治の実弟。

万喜久太郎(まん・きくたろう) || 1910 ~ 93 京都府出身。大阪外語卒。33(昭和8)年聯合入社。同盟で外経部、ジャカルタ支社マレー文主任。共同でモスクワ支局長、調査部長。

水野政直(みずの・まさなお) || 1906 ~ 76 東京出身。東北大法文卒。東亜経済調査局を経て36(昭和11)年同盟入社、バンコク支局長、東亜部次長。共同で東亜部長、ロンドン特派員、特信局長。退職後、共同国際映画社、高輪スタジオ。

溝口五郎(みぞぐち・ごろう*) 国通記者。1938(昭和13)年から42年まで吉林支局長。

御手洗辰雄(みたらい・たつお) || 1895 ~ 1975 大分県出身。慶応大中退。報知新聞社会部長などを経て42(昭和17)年東京新聞論説委員長。戦後は政治評論家として活動。

光永星郎(みつなが・ほしお) || 1866 ~ 1945 熊本県出身。大阪公論、大阪朝日新聞の記者を経て01(明治34)年日本広告株式会社と電報通信社設立。06年日本電報通信社を設立し専務、23(大正12)年社長。貴族院議員に勅選。40(昭和15)年社長を辞任し顧問。

宮城春生(みやぎ・はるお) || 1908 ~ 88 熊本県出身。青山学院高等学部卒。32(昭和7)年電通入社。同盟に移り外経部、北支総局、済南支局、青島支局長。時事で外経部などに勤務後退社、日刊海事通信社。

三宅敬(みやけ・けい) || 1919 ~ 2007 東京出身。同盟講習所卒。27(昭和2)年聯合入社。同盟で電務部、マニラ支社。共同で電務部、伝送部、放送部次長。

宮沢貞男(みやざわ・さだお*) || 1908 ~ 99 長野県出身。無線電信講習所卒。南洋庁パラオ電信局、聯合を経て32(昭和7)年国通入社。39

年から同盟の技術部に出向、41年国通復帰。戦後は松下電送(現パナソニック)。

三輪啓(みわ・あきら) 1920～2002 愛

知県出身。旧制成城高専科卒。43(昭和18)年同盟入社、内経部。時事で出版局営業部次長、人事部次長。

陸奥陽之助(むつ・ようのすけ) 1907～20

02 英国生まれ。39(昭和14)年同盟に入り、海外部長の後、43年欧米部英文主任。戦後はUP記者を経てインタナショナル映画社を創業、ドキュメンタリー映画を製作した。元外相陸奥宗光の孫。

宗方小太郎(むなかた・こたろう) 1864～1

923 熊本県出身。1884(明治17)年、上海に渡る。98年東亜同文会を創立。1911年支那研究所設立。14(大正3)年東方を創立し社長に。貴族院議員に勅選。

宗沢万寿夫(むねさわ・ますお) 1906～94

岡山県出身。早稲田大高等師範部卒。30(昭和5)年聯合入社、岡谷支局長。同盟で大阪支社業務部長。時事で総務局庶務部長。

村井茂(むらい・しげる) 1916～2009 東京出身。早稲田大専門部卒。39(昭和14)年同盟入社、内経部。時事で水産部長、証券部長、ソウル特派員。

村上清弘(むらかみ・きよひろ) 1910～2000 大分県出身。旧制中卒。大分新聞を経て41(昭和16)年同盟入社、福岡支社、佐賀支局。共同で佐賀支局長、大分支局長。

村川武躬(むらかわ・たけみ) 1907～74 長崎県出身。陸士予科中退。長崎日日新聞を経て38(昭和13)年同盟入社。東亜部、南方総社、バリック・パン支局長。共同で広島支局長、社会部長。退社後、長崎新聞東京支社長。

村田為五郎(むらた・ためごろう) 1903～92 三重県出身。東京大経卒。29(昭和4)年電通入社。同盟に移り経済局解説部長、同週報部長。時事でニューヨーク特派員、編集局長、主筆。NHK解説委員も務めた。放送文化賞受賞。

毛利八十太郎(もうり・やそたろう) 1882～1959 東京出身。17歳で渡米、皿洗いなどをしながら英語を学び、13(大正2)年帰国。英語教師となり、18年夏目漱石の『坊っちゃん』

を英訳・出版。ジャーナリストに転じ、国際を経て英文毎日編集長。戦後は兵庫県知事の顧問を務めた。

望月七郎(もちつき・しちろう) 1914～87 山梨県出身。旧制中卒。33(昭和8)年聯合入社。同盟で京城(現ソウル)支社、政経部、内経部。共同で山形支局長、共同経済通信社取締役。

桃井幸吉(もい・こうきち) 1908～95 岩手県出身。旧制中卒。29(昭和4)年電通入社。同盟に移り青森支局、仙台支局。共同で仙台支社、前橋支局長。

森元治郎(もり・もとじろう) 1907～99 茨城県出身。青山学院卒。30(昭和5)年聯合入社。同盟でワルシヤワ支局長、マカッサル支社長、航空部長。共同で論説委員。56年から参院議員を3期務めた。

森井忠之(もりい・ただゆき) 1939(昭和14)年国通に入社、調査部。41年退社、満州新聞。

森田久(もりた・ひさし) 1890～1971 福岡県出身。早稲田大専門部卒。福岡日日新聞、朝日新聞を経て時事新報編集局長、九州日报社

長。37(昭和12)年国通理事長。戦後は夕刊フクニチ新聞会長。

森山朝男(もりやま・ともお) 1910〜88 滋賀県出身。神戸商大専門部卒。32(昭和7)年聯合入社、神戸支局経済部。同盟で神戸支局。39年応召。復員後、共同で和歌山支局長、神戸支局長。

【や行】

矢野まみか(やの・まみか*) 1935(昭和10)年聯合入社、大阪支社商況部。同盟で同支社連絡部。

山口巖(やまぐち・いわお) 1898〜1979 東京出身。20(大正9)年国際入社。聯合を経て同盟総務局長。聯合、同盟在籍中に九州日報編集局長、高知新聞常務、中部日本新聞編集局長を務めた。同盟解散後は電通で監査役、常務、副社長。

山口孝(やまぐち・たかし) 1916〜93 長崎県出身。旧制中退。31(昭和6)年聯合入社。同盟に移った後、一時佐世保軍港新聞に。同盟再入社後、札幌支局、長崎支局。共同で大阪支

社通信部長、高知支局長。

山田一郎(やまだ・いちろう) 1919〜2010 高知県出身。明治大専門部中退。40(昭和15)年国通入社。大連支社編集部、牡丹江支社編集部、本社取材部。引き揚げ後共同に入り文化部長、科学部長、大阪支社長、常務理事。退任後は文芸評論活動。高知新聞客員。

山田清一郎(やまだ・せいいちろう*) 1908〜2000 東京出身。法政大卒。18(大正7)年国際入社。聯合を経て同盟で九江支局長。共同で横浜支局長、京都支局長、調査部長。

山田実(やまだ・みのる) 1914〜83 埼玉県出身。東京通信講習所卒。東京通信局を経て35(昭和10)年電通入社。同盟に移り青島支局、北支総局、中支総局、ハノイ支局。共同で電務部、校閲部、浦和支局。52年、産経新聞に移り青森支局長。

山主敏子(やまぬし・としこ) 1907〜2000 東京出身。青山女学院卒。婦人毎日新聞、婦人倶楽部を経て36(昭和11)年同盟入社、特信部、地方部、甲府支局。共同で文化部、論説委員。

山根英夫(やまね・ひでお) 1919〜2011 京都府出身。関西学院大卒。42(昭和17)年同盟入社、大阪支社、南方総局臨時在勤、サイゴン(現ホーチミン)支社臨時在勤。共同で大阪支社編集部。

山本定治(やまもと・さだじ) 1917〜95 静岡県出身。35(昭和10)年聯合入社、浜松支局。商通への転籍を経て同盟入社、豊橋支局、名古屋支社。共同で岐阜支局通信主任。

横田実(よこた・みのる) 1894〜1975 栃木県出身。日本大卒。中国での新聞社勤務を経て24(大正13)年電通入社。北平(現北京)勤務3回。同盟に移り北支総局長、東亜部長、南支総局長。

横山兼光(よこやま・かねみつ) 1911〜2005 宮崎県出身。高小卒。25(大正14)年電通入社。同盟に移り長崎支局。共同で同支局通信主任。

横山英志(よこやま・ひでし) 1912年生まれ 北海道出身。農学校卒。旭川新聞を経て42(昭和17)年北海道新聞入社。43年から交換社員として同盟へ。地方部を経て44年支那前線従軍特

派員。

吉田松治(よしだ・まつじ) 1903~92 東京出身。長崎電信学校卒。25(大正14)年東方入社。聯合を経て同盟で電務部長、昭南(現シンガポール)支社長。共同で技術部長、連絡局次長。

吉田義隆(よしだ・よしたか) 欧亜通信社社員。同社が解散したため44(昭和19)年同盟入社、経済局業務部。

【ら行】

蠟山芳郎(ろうやま・よしろう) 1907~99 群馬県出身。旧制一高中退。36(昭和11)年同盟入社、ムンバイ支局長、ラングーン(現ヤンゴン)支局編集主任、ビルマ(現ミャンマー)支社長心得。戦後は共同で欧米部次長、東亜部長。

【わ行】

渡辺孟次(わたなべ・たけじ) 1913~2000 5 東京出身。日本大外語学校中退。26(大正15)年聯合入社。同盟で中支総局、マニラ支局。共同で編集局長、専務理事、社長。

メディア以外(五十音順)

【あ行】

愛新覚羅溥儀(あいしんかくら・ふぎ) 1906~1967 中国清朝最後の皇帝(宣統帝)。34(昭和9)年満州国皇帝に即位。日本敗戦直後の45年8月18日退位。

青野季吉(あおの・すえきち) 1890~1996 1 文芸評論家。新潟県出身。中学の頃から社会思想に関心を持ち、読売新聞、国際などに勤める。プロレタリア文学の評論家として活動し、戦後は日本ペンクラブ副会長を務めた。

エミリオ・アギナルド(Emitio Aguinaldo) 1869~1964 フィリピンの独立運動指導者。1899(明治32)年1月フィリピン共和国(第1共和国)を樹立、初代大統領に就任。

浅沼稻次郎(あさぬま・いねじろう) 1898~1960 政治家。東京出身。日本社会党書記長を経て60(昭和35)年委員長就任。同年10月日比谷公会堂で演説中に17歳の少年に刺され死亡。

芦田均(あしだ・ひとし) 1887~1959 外交官、政治家。京都府出身。外務省に入り、フランスやトルコなどに駐在後、政界に転身。32(昭和7)年衆院議員。リベラル派として知られ、48年3月首相。

阿南惟幾(あなみ・これちか) 1887~1945 陸軍軍人。大分県出身。陸軍次官、中国駐留の第11軍司令官などを経て、45(昭和20)年、鈴木貫太郎内閣の陸相となり、本土決戦を主張。敗戦の日の8月15日自決。

有田八郎(ありた・はちろう) 1884~1965 外交官、政治家。新潟県出身。36(昭和11)年広田弘毅内閣の外相に就任し、日独防共協定を締結。第1次近衛文麿内閣の外相として東亜新秩序の建設を推進。戦後は衆院議員。

有吉明(ありよし・あきら) 1876~1937 外交官。京都府出身。上海総領事時代の14(大正3)年ドイツの宣伝戦に対抗するため、支那研究所の宗方小太郎と協議し東方通信社を創設。その後、駐ブラジル大使、駐中華民国初代大使などを歴任。

安藤輝三(あんどう・てるぞう) 1905~36

陸軍軍人。石川県出身。皇道派青年将校のリーダー格として36(昭和11)年の二・二六事件に關与。軍法会議で死刑判決を受け、同年7月に処刑。

飯田信夫(いいた・のお) || 1903 ~ 91 大阪出身の作曲家。作品に映画音楽「異国の丘」など。

井口貞夫(いぐち・さだお) || 1899 ~ 1980 外交官。和歌山県出身。戦前、駐米日本大使館参事官として日米交渉に携わる。情報局第3部長などを経て戦後は外務次官、駐米大使。

石川達三(いしかわ・たつぞう) || 1905 ~ 85 小説家。秋田県出身。35(昭和10)年ブラジル移民の体験を基に著した『蒼氓(そうぼう)』で第1回芥川賞受賞。社会派として知られる。

石坂洋二郎(いしがき・ようじろう) || 1900 ~ 86 小説家。青森県出身。代表作の『青い山脈』は何度も映画化された。

石原莞爾(いしはら・かんじ) || 1889 ~ 1949 陸軍軍人。山形県出身。28(昭和3)年満州事変を起こした首謀者の一人。東条英機と対立

し41年退役。

板垣征四郎(いたがき・せいしろう) || 1885 ~ 1948 陸軍軍人。岩手県出身。関東軍主任参謀として満州事変を計画。38(昭和13)年第1次近衛文磨内閣の陸相。極東国際軍事裁判で死刑判決を受け処刑。

市川正一(いちかわ・しょういち) || 1892 ~ 1945 社会運動家。山口県出身。読売新聞、国際などに勤務後、23(大正12)年に共産党入党。29(昭和4)年に検挙され、無期懲役に。終戦前の45年3月に宮城刑務所で獄死した。

犬養健(いぬかい・たけこ) || 1896 ~ 1960 政治家。東京出身。32(昭和7)年の五・一五事件で暗殺された犬養毅首相の息子。吉田茂内閣の法相を務めていた54年4月造船疑獄事件捜査で指揮権を発動し辞任。

井上準之助(いのうえ・じゅんすけ) || 1869 ~ 1932 政治家。大分県出身。日銀総裁などを経て23(大正12)年山本権兵衛内閣の蔵相。29(昭和4)年浜口雄幸内閣の蔵相として金解禁と緊縮財政を実施。32年血盟団メンバーに暗殺される。

岩波茂雄(いわなみ・しげお) || 1881 ~ 1946 出版人。長野県出身。13(大正2)年東京・神田で古書専門の岩波書店を開業。翌年、出版業に進出。

内田康哉(うちだ・やすや、こうさい) || 1865 ~ 1936 外交官、政治家。熊本県出身。満州事変後、外相として国会で「国を焦土にしても満州国の権益を譲らない」と答弁、強硬姿勢は「焦土外交」と呼ばれた。

王克敏(おう・くくびん) || 1873 ~ 1945 中国の政治家。37(昭和12)年12月北平(現・北京)に樹立された親日政権の中華民国臨時政府の行政委員長。

汪兆銘(おう・ちようめい) || 1883 ~ 1944 中国の政治家。王精衛(せいゑい)とも呼ばれた。孫文の革命運動に参加。国民党幹部を務めたが蒋介石と対立、日本に接近し、40(昭和15)年南京政府を樹立。44年名古屋で病死。

岡本一平(おかもと・いつぺい) || 1886 ~ 1948 漫画家。北海道出身。東京美術学校卒業後、舞台芸術に従事。12(大正元)年東京朝日新聞に入社、漫画を担当した。

尾崎士郎(おさき・しろう) 1898~1964
小説家。愛知県出身。代表作はベストセラーになった『人生劇場』。関ヶ原の戦いをテーマにした『篝火』など歴史小説も手掛けた。

小原国芳(おばら・くによし) 1887~1977
7 教育者。鹿児島県出身。京都大哲学科で西田幾多郎に師事。26(昭和元)年旧制成城高校長に就任。29年玉川学園を創設した。

【か行】

賀川豊彦(かがわ・とよひこ) 1888~1996
0 牧師、社会運動家。兵庫県出身。キリスト教の伝道を通じ、貧しい人々の救済活動、労働組合運動にも参画。著書の『死線を越えて』(20 11年)はベストセラーに。

郭松齢(かく・しょうれい) 1883~1925
中国の軍人。張作霖の部下だったが、25(大正14)年反乱を起こして敗れ、銃殺された。

影佐禎昭(かげさ・さだあき) 1893~1994
8 陸軍軍人。広島県出身。39(昭和14)年秘密工作組織「梅機関(影佐機関)」を設置し、汪兆銘工作を推進した。

レフ・カラハン(Lev Mikhailovich Karakhan) 1889~1937
ソ連の外交官。18(大正7)年から外務人民委員(外相代理)。中国に対する不平等条約を破棄するとの宣言を行った。23(大正12)年から26(昭和元)年まで駐中国大使。スターリンの粛清で37年逮捕、処刑。

河相達夫(かわい・たつお) 1889~1966
外交官。広島県出身。駐オーストラリア公使、情報局総裁を務めた。

川上貞奴(かわかみ・さだやつこ) 1871~1946
俳優。東京出身。本名は川上貞。日本の女優の草分け。自由民権運動の活動家、川上音二郎と結婚後、川上一座の米国公演に同行し人気を博す。

川越茂(かわごえ・しげる) 1881~1969
外交官。宮城県出身。広東総領事、天津総領事などを経て36(昭和11)年駐中華民国大使。

串田万蔵(くしだ・まんぞう) 1867~1939
9 銀行家。東京出身。米ペンシルベニア大卒。三菱銀行の前身の第百十九銀行入行。21(大正10)年三菱銀行会長就任。三菱財閥の中心人物として活躍。

久米正雄(くめ・まさお) 1891~1952
小説家、劇作家。長野県出身。夏目漱石の長女との失恋を描いた小説『破船』(22 11年)が有名。

小暮美千代(こくれ・みちよ) 1918~90
俳優。山口県出身。38(昭和13)年、松竹に入り、『愛染かつら』でデビュー。『青い山脈』(今井正監督)などに出演。ボランティア活動にも熱心で中国人留学生や中国残留孤児を支援した。

胡適(こてき) 1891~1962
中国の思想家。米国の留学し、哲学者のジョン・デューイからプラグマティズムを学ぶ。38(昭和13)年から駐米大使。戦後は米国の亡命し、後に台湾に住む。

後藤新平(ごとう・しんぺい) 1857~1929
9 政治家。岩手県出身。06(明治39)年南満州鉄道初代総裁。20(大正9)年東京市長。日ソ友好親善にも尽くした。

今日出海(こん・ひでみ) 1903~84
小説家、評論家。北海道出身。太平洋戦争中、陸軍報道班員として従軍。50(昭和25)年『天皇の帽子』で直木賞受賞。68年初代文化庁長官。

【ぶ行】

西園寺公望(さいおんじ・きんもち) 11849 ~ 1940 政治家。京都府出身。06(明治39)年と11年の2回、首相に就任。19(大正8) ~ 20年のパリ講和会議で首席全権を務める。歴代首相の選出にあたり影響力を発揮した。

エリス・ザカライアス(Ellis Mark Zacharias) 1890 ~ 1961 米海軍軍人。戦前、駐日大使館に勤務。45(昭和20)年4月戦争情報局勤務となり、ラジオを通じた対日心理作戦に従事。「ザカライアス放送」として知られた。

迫水久常(さこみず・ひさつね) 11902 ~ 77 大蔵官僚、政治家。鹿児島県出身。36(昭和11)年の二・二六事件当時、義父に当たる岡田啓介首相の秘書官を務め、45年鈴木貫太郎内閣の書記官長。戦後は経済企画庁長官などを歴任。

里村欣三(さとむら・きんぞう) 11902 ~ 45 小説家。岡山県出身。本名は前川二章(にまう)兵役を逃れ、満州を放浪。太平洋戦争中は陸軍報道班員として従軍、フィリピンで死亡。作品に『苦力頭の表情』など。

重光葵(しげみつ・まもる) 11887 ~ 1957 外交官、政治家。大分県出身。駐ソ、駐英大使などを歴任し、東条英機、小磯国昭内閣の外相を務める。45(昭和20)年9月ミズーリ艦上で行われた降伏文書の調印式で日本全権として署名。下田歌子(しもだ・うたこ) 11854 ~ 1936 教育者、歌人。岐阜県出身。1899(明治32)年実践女子学園の前身である実践女学校および女子工芸学校を東京・麹町に設立。

バーナード・ショー(George Bernard Shaw) 1856 ~ 1950 アイルランドの文学者、劇作家、評論家。25(大正14)年ノーベル文学賞受賞。代表作はミュージカル「マイ・フェア・レディ」の原作にもなった戯曲『ピグマリオン』。

蒋介石(しょう・かいせき) 11887 ~ 1975 中国の政治家。07(明治40)年日本に留学。帰国後、辛亥革命に参加し、28(昭和3)年に国民政府(南京)主席。反共政策を推進したが抗日のため国共合作に合意。48年初代中華民国総統になったが、49年中華人民共和国が成立、内戦に敗れ、台湾に逃れた。

曾仲鳴(そう・ちゅうめい) 11901 ~ 1939

中国の政治家。仏リヨン大に留学。帰国後、汪兆銘の側近となる。39(昭和14)年3月20日ハノイで暗殺団に銃撃され翌日死亡。

宋哲元(そう・てつげん) 11885 ~ 1940 中国の軍人。35(昭和10)年華北の地方政権「冀察政務委員会」の委員長。

【た行】

田中隆吉(たなか・りゅうきち) 11893 ~ 1972 陸軍軍人。鳥根県出身。32(昭和7)年1月上海で中国人に日本人僧侶を襲撃、死傷させた事件を主導したとされる。これを機に日中は険悪化し、第1次上海事変につながった。

段祺瑞(だん・きずい) 11865 ~ 1936 中国安徽省出身の軍閥。17(大正6) ~ 18年、寺内正毅内閣から西原借款の援助を受けた。

チャールズ・チャプリン(Charles Chaplin) 11889 ~ 1977 映画俳優、監督。英国出身。「喜劇王」として知られる。笑いとユーモアを通じて社会を鋭く批判し、庶民の哀愁を描いた。代表作は『モダン・タイムス』『独裁者』『ライムライト』など。

張学良(ちよう・がくりよう) 11901~2001
1 中国の軍人、政治家。張作霖の長男。父の死後、東北部の実権を掌握。36(昭和11)年西安で蒋介石を監禁して内戦終結と抗日を要求。戦後は台湾に連行され、90(平成2)年まで軟禁下に置かれた。

張作霖(ちよう・さくりん) 11875~1928
満州(現中国東北部)の軍閥。満州での権益拡大を図る日本に非協力的だったため、28(昭和3)年に関東軍の仕組んだ列車爆破で殺害された。

辻政信(つじまさのぶ) 11902~68 陸軍軍人、政治家。石川県出身。ノモンハン事件やマレー上陸作戦、ガダルカナル島攻防戦などに参画。戦後、華僑虐殺の容疑がかかったため僧に変装して東南アジアや中国に潜伏。潜伏中の記録を『潜行三千里』として出版。その後国会議員になったが61(昭和36)年、ラオスで失跡。

土橋勇逸(つちはしゆういつ) 11891~1971 陸軍軍人。佐賀県出身。37(昭和12)年在仏日本大使館付武官。その後フィリピン攻略作戦に参画、リンガエン湾に上陸した。第38軍司令官としてハノイ駐屯中に終戦を迎えた。

鄭孝胥(ていこうしよ) 11860~1938
中国の外交官、政治家、書家。福建省出身。辛亥革命で退位した宣統帝(愛新覺羅溥儀)の教育係、32(昭和7)年、満州国國務總理。

寺内寿一(てらうちひさいち) 11879~1946 陸軍軍人。東京出身。寺内正毅元首相の長男。36(昭和11)年、広田弘毅内閣の陸相。衆院での「腹切り」問答で、同内閣の総辞職を招く。41年11月南方軍総司令官。敗戦後、抑留先のマレーシアで病死。

東郷茂徳(とうこうしげのり) 11882~1955 外交官、政治家。鹿児島県出身。駐独、駐ソ大使を経て太平洋戦争開戦時は東条英機内閣の外相、敗戦時は鈴木貫太郎内閣の外相。極東国際軍事裁判でA級戦犯として20年の禁固刑を受けた。

東条英機(とうじょうひでき) 11884~1948 陸軍軍人、政治家。東京出身。40(昭和15)年、第2次近衛文麿内閣の陸相。41年10月近衛内閣の総辞職を受けて首相に就任。極東国際軍事裁判でA級戦犯に問われ死刑判決を受け処刑。

富沢有為男(とみさわういお) 11902~70
小説家。大分県出身。37(昭和12)年仏留学時代を描いた『地中海』で芥川賞受賞。戦中は陸軍報道班員として南方に従軍取材。

中島弥団次(なかじまやだんじ) 11886~1962 政治家。高知県出身。24(天正13)年内務官僚から浜口雄幸蔵相の秘書官へ。28(昭和3)年衆院議員。翌年浜口首相秘書官。

丹生誠忠(にうまさただ) 11908~36 陸軍中尉。鹿児島県出身。36(昭和11)年の二・二六事件に参加し、陸相官邸を占拠。同年7月に処刑。岡田啓介首相とは姻戚関係にあった。

【は行】

バー・モー(Ba Maw) 11893~1977
ビルマ(現ミャンマー)の政治家。33(昭和8)年貧民党を結成。43年日本軍政下で国家主席に就任した。

バオダイ(Bao Dai) 11913~97 1802年から1945年まで存在したベトナム阮(げ

ん)朝最後の皇帝。第2次世界大戦中は日本軍に協力。戦後はベトナムに接近したが、55(昭和30)年失脚、フランスに亡命。

橋本群(はしもと・ぐん) 11886~1963

陸軍軍人。広島県出身。支那駐屯軍参謀長を務めていた37(昭和12)年7月に起きた盧溝橋事件処理で停戦に努める。

長谷川伸(はせがわ・しん) 11884~1963

小説家、劇作家。神奈川県出身。母と生き別れた経験をテーマにした戯曲『暎の母』が代表作。

浜口雄幸(はまぐち・おさち) 11870~193

1 政治家。高知県出身。立憲民政党の初代総裁。29(昭和4)年7月浜口内閣を発足させ、緊縮財政、金解禁を推進。30年11月東京駅で右翼に狙撃され重傷を負い、翌年4月に総辞職した。

クライド・パングボーン(Clyde Edward Pang-born) 11894~1958

米国の飛行家。31(昭和6)年10月ヒュー・ハーンドン(Hugh Hendon)とともに単発機「ミス・ビードル号」で初の太平洋無着陸飛行に成功。

東久邇稔彦(ひがしくに・なるひこ) 11887~

1990 皇族、軍人。45(昭和20)年8月敗戦による鈴木貫太郎内閣の総辞職を受けて東久邇内閣を組閣。連合国軍総司令部(GHQ)に治安維持法の廃止などを迫られ同年10月総辞職。

火野葦平(ひの・あしへい) 11907~60 小説家。福岡県出身。38(昭和13)年『糞尿譚』で芥川賞受賞。『麦と兵隊』『土と兵隊』『花と兵隊』の兵隊三部作で知られる。

平沼騏一郎(ひらぬま・きいちろう) 11867~

1952 法務官僚、政治家。岡山県出身。検事総長などを経て39(昭和14)年首相。枢密院議長としてポツダム宣言の無条件降伏に反対し、極東国際軍事裁判ではA級戦犯として終身刑を受けた。

平林初之輔(ひらばやし・はつすけ) 11892

1931 評論家。京都府出身。やまと新聞を経て20(大正9)年に国際入社。外電翻訳作業に従事する傍ら、社会主義の研究を進める。パリ留学中に客死。

広田弘毅(ひろた・こうき) 11878~1948

外交官、政治家。福岡県出身。駐ソ大使を経て33(昭和8)年に外相。二・二六事件後に首相。

37年再び外相に就任、ソ連を介した和平工作に失敗。極東国際軍事裁判ではA級戦犯として死刑判決を受け処刑。

ウィリアム・フリードマン(William W. Friedman) 11891~1969

米陸軍の暗号専門家。暗号解読部門の「シグナル・インテリジェンス・サービス(SIS)」を率い、40(昭和15)年日本軍の「紫暗号」の解読に成功した。

スベン・ヘディン(Sven Anders Hedrin) 1186

5~1952 スウェーデンの地理学者、探検家。1893(明治26)年から08年にかけて中央アジアを实地踏査し、古代都市楼蘭の遺跡などを発掘。

方振武(ほう・しんぶ) 11885(82年説も)~1

941 中国の軍人。安徽省出身。28(昭和3)年の済南事件で日本軍と戦い、その後、反蔣介石・反日の立場を維持した。

スバス・チャンドラ・ボース(Subhas Chandra Bose) 11897~1945

インドの独立運動家。44(昭和19)年1月ボース率いる自由インド仮政府はシンガポールからビルマに進出。日本敗戦で独立計画は消滅、台湾での飛行機事故

で死亡。

堀田善衛(ほった・よしえ) 1918～98 小説家、評論家。富山県出身。52(昭和27)年『広場の孤独』で芥川賞受賞。55年南京事件をテーマにした『時間』を発表。

本間雅晴(ほんま・まさはる) 1887～1946 陸軍軍人。新潟県出身。太平洋戦争開始とともにルソン島に上陸。多くの犠牲者を出した「バターン死の行進」の責任を問われ、戦後マニラ軍事裁判で死刑判決を受け処刑。

【ま行】

牧野伸顕(まきの・のぶあき) 1861～1949 政治家。鹿児島県出身。第一次西園寺公望内閣で文相、第一次山本権兵衛内閣で外相。36(昭和11)年の二・二六事件で襲撃されたが難を免れた。昭和天皇の信頼が厚かった。

松井石根(まつい・いわね) 1878～1948 陸軍軍人。愛知県出身。37(昭和12)年8月の第2次上海事変の際に上海派遣軍司令官。極東国際軍事裁判で南京大虐殺の責任を問われ死刑判決を受け処刑。

松井翠声(まつい・すいせい) 1900～73 本名五百井清栄。無声映画、特に外国映画の弁士として活躍。後に漫談家、司会者、映画俳優。

松井太一郎(まつい・たくろう) 1887～1969 陸軍軍人。福岡県出身。関東軍参謀などを経て36(昭和11)年北平(現北京)特務機関長。

松岡洋右(まつおか・ようすけ) 1880～1946 政治家。山口県出身。満州事変後の32(昭和7)年政府全権として国際連盟総会に派遣され、満州からの日本軍撤退勧告案が可決されると総会を退場。40年第2次近衛文麿内閣の外相として日独伊三国同盟の締結を推進。極東国際軍事裁判でA級戦犯に問われたが、判決前に病死。

松平慶民(まつだいら・よしたみ) 1882～1948 政治家。英国留学後、宮内省(当時)に入り、34(昭和9)年式部長官。46年最後の宮内相。47年初代宮内府長官。

松村秀逸(まつむら・しゅういつ) 1900～62 陸軍軍人。熊本県出身。大本営陸軍部報道部長、情報局第一部長などを務め戦中の報道統制に関与。戦後は参院議員。

三木清(みき・きよし) 1897～1945 哲学者。兵庫県出身。ドイツに留学。帰国後、法政大教授を務める。治安維持法違反容疑で摘発され、45(昭和20)年9月獄中死。死後刊行された『人生論ノート』はロングセラーに。

ミスタンゲット(Mistinguett) 1875～1956 本名ジャンヌマリー・ブルジョワ。仏シャンソン歌手、女優。95(明治28)年にデビュー。華麗な舞台で「レビューの女王」などと称された。

【や行】

矢部貞治(やべ・ていじ) 1902～67 政治家。評論家。鳥取県出身。戦中は近衛文麿内閣のブレーンとして「新体制運動」の推進に貢献。戦後は拓殖大総長。

山崎巖(やまざき・いわお) 1894～1968 内務官僚、政治家。福岡県出身。警視總監などを経て終戦直後の東久邇内閣で内相。共産主義者に対する弾圧的発言のため罷免される。

山下奉文(やました・ともゆき) 1885～1946 陸軍軍人。高知県出身。41(昭和16)年12

月のマレー作戦を指揮し、シンガポールで英パーシバル將軍に降伏を迫った。その後フィリピン戦線司令官。戦後、住民殺害など戦争犯罪に問われ、マニラ軍事裁判で死刑判決を受け処刑。

横山隆一（よこやま・りゅういち）18909～2001 漫画家。高知市出身。戦前から戦後にかけて新聞連載された『フクちゃん』が代表作。

芳沢謙吉（よしざわ・けんきち）1874～1965 外交官。新潟県出身。23（大正12）年、駐中国公使。ソ連のカラハン大使と日ソ国交回復を交渉し、日ソ基本条約に調印。32（昭和7）年犬養毅内閣の外相。

吉田茂（よしだ・しげる）1878～1967 政治家。東京出身。外務次官を経て36（昭和11）年駐英大使。太平洋戦争に反対して憲兵に拘束された。戦後は外相を務めた後46年首相。51年、サンフランシスコで講和条約と日米安全保障条約に調印。「ワンマン宰相」として知られた。

吉積正雄（よしつみ・まさお）1893～1998 5 陸軍軍人。広島県出身。40（昭和15）年情報局第2部長に就任、新聞統合を主導した。

アドルフ・ヨツフエ（Adolf Abramovich Joffe）1883～1927 ソ連外交官。22（大正11）年から駐中国大使。東京で後藤新平らと日ソ国交回復を交渉。27（昭和2）年スターリンによるトロツキー派粛正に抗議して自殺。

米内光政（よない・みつまさ）1880～1994 8 海軍軍人。岩手県出身。連合艦隊司令長官や海相を経て40（昭和15）年1月首相。日独伊三国同盟の締結に反対し陸軍と対立、同年7月総辞職。その後海相として戦争終結を目指す。

【ら行】

ホセ・ラウレル（Jose Laurel）1891～1959 フィリピンの政治家。43（昭和18）年10月日本軍政下で大統領（第2共和国）に就任。一時日本に亡命し戦後、政界に復帰。

バートランド・ラッセル（Bertrand Russell）1872～1970 英国の哲学者、数学者、平和活動家。50（昭和25）年ノーベル文学賞受賞。著書に『西洋哲学史』『数学の原理』共著など。

李香蘭（り・こうらん）1920～2014 俳優、歌手、政治家。旧満州生まれ。本名は大鷹

淑子。38（昭和13）年満州映画協会から李香蘭の名でデビュー。46年に帰国し「山口淑子」の名で芸能活動に復帰。74年参院議員。

チャールズ・リンドバーグ（Charles Lindbergh）1902～74 米国の飛行家。27（昭和2）年「スピリット・オブ・セントルイス号」で大西洋の単独無着陸横断飛行に初めて成功。31年夫妻で北太平洋を飛行し日本を訪れた。

魯迅（ろじん）1881～1936 中国の文学者。浙江省紹興出身。02（明治35）年日本留学。医学から文学の道へ進む。作品に『狂人日記』『阿Q正伝』など。

マニユエル・ロハス（Manuel Roxas）1892～1948 フィリピンの政治家。46（昭和21）年7月米国の統治から独立したフィリピン共和国（第3共和国）の初代大統領。在任中に死去。

【わ行】

和知鷹二（わち・たかじ）1893～1978

陸軍軍人。広島県出身。関東軍参謀、南方軍総参謀副長、中国憲兵隊司令官などを歴任。戦後、戦犯として巣鴨拘留所に拘留。

▽「報道報国の旗の下に」(新聞通信調査会記録集)

- 〈談話〉国際経済通信の初期〔第1章第1節〕
- 〈座談会〉大阪で活躍した人々〔第1章第1節〕
- 大震災で大阪は非常態勢へ座談会補足〔第1章第1節〕
- 〈座談会〉東方時代の思い出〔第1章第2節〕
- 〈座談会〉北京時代の平田さんの思い出〔第1章第2節〕
- 〈座談会〉国際から聯合へ〔第2章第1節〕
- 〈座談会〉聯合と内信(第1部)〔第2章第1節〕
- 〈座談会〉聯合と内信(第2部)〔第2章第1節〕
- 〈座談会〉広告聯合の思い出〔第2章第1節〕
- 聯合の内信開始と10年間の活躍〔第2章第1節〕
- 諸先達の教訓〔第2章第1節〕
- 決定的な1/15秒へ浜口首相狙撃の瞬間〔第2章第2節〕
- 〈座談会〉満州国の最後〔第3章第2節〕
- 〈座談会〉日中事変下の同盟〔第4章第2節〕
- 刑場から奇跡の生還へ通州事件〔第4章第2節〕
- 同盟の影武者へ柳町精氏〔第4章第2節〕
- 〈座談会〉大屋、萩野両君をしのいで〔第4章第3節〕
- 〈座談会〉新聞統制について〔第4章第3節〕
- 米飛行機の写真をスクープ〔第5章第2節〕
- 〈座談会〉太平洋戦争と南方(第1部)〔第5章第3節〕
- 仏印進出からシンガポールまで〔第5章第3節〕
- 短命だったタラカン支局〔第5章第3節〕

陸海軍の板狭みで苦しんだメナド支局〔第5章第3節〕
2カ月の命だったパラオ支局〔第5章第3節〕

〈座談会〉空襲下の同盟本社へ戦争末期から終戦まで〔第6章第1節〕

〈座談会〉太平洋戦争と南方(第2部)〔第6章第3節〕

〈座談会〉終戦前後の比島〔第6章第3節〕

ついに巴港の灯を見たへ樺太からの引き揚げ〔第6章第6節〕

終戦で孤立、死闘重ね騒乱の平壤脱出〔第6章第6節〕

集中営からコレラ船へへハノイからの引き揚げ〔第6章第6節〕

ゴム林での降伏式〔第6章第6節〕

敗戦、抑留、ニュース戦へマカツサルからの引き揚げ〔第6章第6節〕

空襲のアンボンから極楽島のメダンへ〔第6章第6節〕

アルプス山麓で終戦、米国経由で帰国〔第6章第6節〕

列車でベルリン脱出、最後の電報はヒトラー自殺〔第6章第6節〕

〈座談会〉無線の活躍〔第7章第1節〕

奉天時代の無電〔第7章第1節〕

〈座談会〉敗戦と同盟へ終戦から解散まで〔第8章第1節〕

▽「新聞通信調査会報」「メディア展望」

〈座談会〉葵町事務所のケネディ〔第1章第1節〕

社を「お店」といった時代〔第1章第1節〕

無料だった国際経済週報〔第1章第1節〕

満鉄の未承認鉄道敷設を特報〔第1章第1節〕

打っても打っても原稿の山〔第1章第1節〕

御大典報道にてんてこ舞い〔第1章第1節〕

岩永さんの合服〔第1章第1節〕

商業通信と聯合は相互共助〔第2章第1節〕

五・五事件首謀者の留守宅取材〔第2章第1節〕

経済通信20年と思い出の人々〔第2章第1節〕

一日の仕事は外電受信から〔第2章第1節〕

聯合・大連で経済通信〔第2章第1節〕

太平洋無着陸横断飛行の報道合戦〔第2章第1節〕

社会部1年生で大相撲取材〔第2章第1節〕

北満鉄道の買収交渉取材〔第2章第1節〕

〔聯絡操典〕と新米速記者〔第2章第1節〕

バッグ便の中身は写真と原稿〔第2章第1節〕

プラットホームを走り抜け〔第2章第1節〕

居残り仕事も度々〔第2章第1節〕

合併契約書案文をタイプ〔第2章第1節〕

ご機嫌な青春―新聞聯合〔第2章第1節〕

帝国通信から新聞聯合へ〔第2章第1節〕

同報電話方式を開発〔第2章第1節〕

アングーからスピグラへ〔第2章第2節〕

私の上海特急〔第2章第2節〕

写真送稿で電通に勝つ―マニラの極東オリンピック〔第2章第2節〕

魯迅も危うく拷問に〔第2章第3節〕

直通電話開通で青森へ〔第2章第4節〕

カメラマンは「ボンタキ3年」〔第2章第4節〕

上田碩三さんのこと〔第2章第4節〕

満州事変発生の一報を受ける〔第2章第4節〕

満州里で中国軍に捕まる〔第2章第4節〕

岩永意見書が国通誕生の発端〔第3章第1節〕

新米オペレーターのところ〔第3章第1節〕

編集局の日曜昼下がり〔第3章第1節〕

視察経済人の案内役も〔第3章第1節〕

最後の関東軍報道班員に〔第3章第1節〕

日満回線北端の速記者〔第3章第1節〕

のんびりしたハルビン時代〔第3章第1節〕

酷寒の大興安嶺を搜索飛行〔第3章第1節〕

東条の一声でぶち込まれる〔第3章第1節〕

ノモンハンで爆撃機に同乗取材〔第3章第1節〕

振り回された関特演〔第3章第1節〕

日満直通専用電話の威力〔第3章第1節〕

ハイラル支局始末記〔第3章第1節〕

馬占山戦死の誤認―身代わり残してソ連に脱出〔第3章第1節〕

満州崩壊と国通の終焉に立ち会う〔第3章第2節〕

岡田首相生存の速報に成功〔第4章第1節〕

小料理屋で見かけた首謀者の安藤大尉〔第4章第1節〕

自宅金庫から株券を〔第4章第2節〕

広安門事件で撃ち合いの現場に〔第4章第2節〕

嫌だった戦死者の留守宅回り〔第4章第2節〕

盧溝橋事件が「同盟ニュース映画」第1号〔第4章第2節〕

忘れられない朝日・緒方氏の発言〔第4章第3節〕

中支戦線の古野・板垣会談〔第4章第3節〕

南方出張で古野さんと合流〔第4章第3節〕

カメラマンはネクタイを〔第4章第3節〕

戦時下で古野さんと歌舞伎論議〔第4章第3節〕

電話で社長に「バカヤロー」〔第4章第3節〕

「二六六百年記念式」を代表撮影〔第4章第3節〕

初仕事は杭州湾上陸のニュース映画〔第4章第3節〕
電力国家管理計画をスクープ〔第4章第3節〕
消えてなくなった学芸欄〔第4章第3節〕
聯合、電通の人事カードを整理〔第4章第3節〕
五鬼上事務所から同盟へ〔第4章第3節〕
職場旅行は半ば強制〔第4章第3節〕
外信原稿もタイプ〔第4章第3節〕
株相場を伝える「歩み」係〔第4章第3節〕
調査部作りで大激論〔第4章第3節〕
内経部の第1号部員〔第4章第3節〕
電聯合併で編集スタッフ大幅増〔第4章第3節〕
人海戦術で相場速報〔第4章第3節〕
写真のバッグ便通信〔第4章第3節〕
電聯合併直後の政治部〔第4章第3節〕
入社後8カ月で入営〔第4章第3節〕
入社当時の同僚〔第4章第3節〕
速記者の入社試験〔第4章第3節〕
千葉空襲で稲毛海岸に逃げる〔第4章第3節〕
札幌支局を開設〔第4章第3節〕
開設当時の新潟支局〔第4章第3節〕
特高が毎日、支局に〔第4章第3節〕
電聯合併後の岡山支局〔第4章第3節〕
記事は自転車で配達〔第4章第3節〕
中国人名は頭痛の種〔第4章第3節〕
佐賀支局を開設し定年まで〔第4章第3節〕
デスクに怒鳴られる日々〔第4章第3節〕

組閣テント村から大火取材へ直行〔第4章第3節〕
通称やニックネームで呼び合い〔第4章第3節〕
秘書業務の合間に公園で教練〔第4章第3節〕
大屋久寿雄の大虚報く国益のため目をつぶって〔第4章第3節〕
憲兵隊で取り調べ受け罰金刑〔第4章第3節〕
豪華バッテリーの親善野球〔第4章第4節〕
商都天津で商品市況を取材〔第4章第4節〕
命懸けた青春の同盟時代〔第4章第4節〕
上海陥落を最前線で〔第4章第4節〕
米英の資産凍結措置で香港支局閉鎖〔第4章第4節〕
独ソ秘密協定をスクープ〔第4章第5節〕
ロンドン大空襲で被爆〔第4章第5節〕
ファシスト党員の支局助手〔第4章第5節〕
戦争直前のニューヨーク支局〔第4章第5節〕
シドニー支局開設と経済通信開始〔第4章第5節〕
真珠湾攻撃の外国ラジオ放送を傍受〔第5章第1節〕
日米開戦時のニューヨーク支局〔第5章第1節〕
眼前で開戦の火ぶた〔第5章第1節〕
緒戦のマニラで抑留〔第5章第1節〕
乏しかったアメリカ情報〔第5章第1節〕
戦時下、対外英文放送の記事執筆〔第5章第1節〕
収入不足分は政府が負担く戦時下の同盟経理〔第5章第2節〕
社長指示で市政会館に会議室設営〔第5章第2節〕
室蘭支局の開設から撤収まで〔第5章第2節〕
鉄道電話で仙台大空襲の一報〔第5章第2節〕
無線機持ち鳥取大地震現場に〔第5章第2節〕

無線機は日銀支店の地下室に〔第5章第2節〕

開戦当日は終日勤務〔第5章第2節〕

早めに配信終え、釣りに〔第5章第2節〕

業種別通信の発想は大阪内信部〔第5章第2節〕

同盟航空部始末記〔第5章第2節〕

幻の東南海大地震の津波目撃〔第5章第2節〕

古野さんに晒巻く〔第5章第2節〕

死を覚悟の後、突然の帰国命令〔第5章第2節〕

松本編集局長の言葉〔第5章第2節〕

わずか2カ月の勤務〔第5章第2節〕

日比谷公園で銃剣術の訓練〔第5章第2節〕

長谷川さんの口述筆記〔第5章第2節〕

多摩川寮の寮長、隣組長に〔第5章第2節〕

同盟時代に応召、復員後共同へ〔第5章第2節〕

軍事訓練、もんべ代わりにパジャマ姿〔第5章第2節〕

重要書類は多摩川べりの家屋に疎開〔第5章第2節〕

天皇の東京大空襲被災地視察を代表撮影〔第5章第2節〕

空襲で同盟別館全焼〔第5章第2節〕

中之島の渡辺橋下で活動再開〔第5章第2節〕

平穏破る重大発表予告、鈴木内閣誕生の夜〔第5章第2節〕

「敵性情報」または「特情」のこと〔第5章第2節〕

カメラで追った戦時下の南方〔第5章第2節〕

数々の歴史的瞬間を撮影〔第5章第2節〕

それは地獄だった、激戦地歩んだ報道班員〔第5章第2節〕

反戦分子と勘違いされ拘引〔第5章第2節〕

従軍記者に破格の餞別〔第5章第2節〕

鉛筆に銀文字で「同盟」の刻印〔第5章第2節〕

今も口ずさむ「報道戦士の歌」〔第5章第2節〕

北千島従軍記〔第5章第3節〕

従軍で強行軍の厳しさ味わう〔第5章第3節〕

内蒙古・包頭で迎えた正月〔第5章第3節〕

敗戦後、青島市の寛大な措置〔第5章第3節〕

石門で経済通信発行〔第5章第3節〕

「神戸丸」の沈没、二百数十人死亡も間に〔第5章第3節〕

南方特派員団を高雄港に案内〔第5章第3節〕

チャンドラ・ボースの死に遭遇〔第5章第3節〕

インパール作戦の前線支局へ〔第5章第3節〕

混乱もなく収容地カンエンへ〔第5章第3節〕

サイゴンで「同盟ニュース」発行〔第5章第3節〕

「陣中西貢新聞」を発行〔第5章第3節〕

仏主権下で軍機関紙装う〔第5章第3節〕

終戦近づき支局にぎやかに〔第5章第3節〕

タイピン支局開設から終戦まで〔第5章第3節〕

シンガポールで新聞発行〔第5章第3節〕

貨物船雇い、コメの買い出し〔第5章第3節〕

昭南の、陽気な娘たち〔第5章第3節〕

同盟だけに事務所設置許可〔第5章第3節〕

飢えと熱病の北ボルネオ戦線〔第5章第3節〕

バリックパン支局始末記〔第5章第3節〕

軍が日本人の身辺調査、マカッサル支社〔第5章第3節〕

石油の島タラカンに支局開設〔第5章第3節〕

米軍上陸で山に逃げる〔第5章第3節〕

飛行機で連続3度の命拾い〔第5章第3節〕
心強かった同盟の海外総支局〔第5章第3節〕
グアム島玉砕戦従軍記〜ジャングル彷徨の未捕虜に〔第5章第3節〕
ミッドウェー敗戦の衝撃〔第5章第3節〕
ソロモン海戦の敗因は陸海軍の抗争〔第5章第3節〕
狭まる包囲網から脱出〜敗戦直前のベルリン〔第5章第3節〕
シベリア鉄道沿線に敗色漂う〔第5章第3節〕
外交断絶後に独房へ〜アルゼンチン〔第5章第3節〕
開戦でリオ通信員から戦時調査室へ〔第5章第3節〕
エンピツ一本の重さ〔第5章第3節〕
ニュース映像で悪戦苦闘〜伝え切れなかった戦争の悲惨〔第5章第3節〕
同盟中枢の松代移転計画〔第6章第1節〕
蓼科高原に農場を建設〔第6章第1節〕
河川敷開墾し、ジャガイモ畑〔第6章第1節〕
本土決戦に備える〔第6章第1節〕
米スポークスマン、ザカライアスとの対話〔第6章第1節〕
終戦で単身者は日本料理屋跡に収容〔第6章第2節〕
一晩で上海の街は一変〔第6章第2節〕
華南総局の仕事納め〔第6章第2節〕
ミンダナオ山中をさまよう〔第6章第3節〕
兄・黒沢俊雄の思い出〔第6章第3節〕
原爆投下48時間の恐怖〜そのとき私は広島に〔第6章第4節〕
支社長以下5名が犠牲に〔第6章第4節〕
支社長の柩は筆筒の引き出し〔第6章第4節〕
支局の屋根割れ、窓吹き飛ぶ〔第6章第4節〕
敗軍の将、ポツダム宣言受諾に涙〔第6章第5節〕

長谷川局長の夜中の電話〔第6章第5節〕
日比谷公園で写真を焼却〔第6章第5節〕
「筆剣一如」の日の丸肩に入隊〔第6章第5節〕
深夜に終戦詔書を受信〔第6章第5節〕
ポツダム宣言受諾電を受信〔第6章第5節〕
「玉音放送」を反訳する〔第6章第5節〕
不発に終わった暗号解読〔第6章第5節〕
戦時下同盟の対外放送〔第6章第5節〕
終戦第1号は10万部が即日売り切れ〜世界週報〔第6章第5節〕
軍報道部から情報取りに同盟へ〔第6章第5節〕
シベリア・チタ監獄の浴場〔第6章第6節〕
サイゴン終戦記〜生涯忘れ得ない現地人の好意〔第6章第6節〕
最後の西貢通信は総選挙結果〔第6章第6節〕
暗号表、肌身離さず解読作業〔第6章第6節〕
ニュース翻訳の報酬はたばこ2箱〔第6章第6節〕
PRビラを執筆、ボルネオ全土に散布〔第6章第6節〕
金の延べ棒腹に巻き収容所へ〔第6章第6節〕
遭難前夜のチャンドラ・ボース〔第6章第6節〕
ポータブル無線機秘話〔第7章第1節〕
昭和史と歩んだ数奇な経験〔第7章第1節〕
同盟式文字電送機〔第7章第2節〕
自殺未遂の東条邸へ〜最後の同盟記者〔第8章第2節〕

▽「同盟通信社報」

議会取材の楽屋裏〔第4章第3節〕
8日間の監禁生活〜開戦当時のブラジル〔第4章第5節〕

▽「南船北馬」

- 覆面部隊で中国に無線連絡網構築〔第1章第2節〕
西安事件スクープの経緯〔第2章第3節〕
学卒浪人から聯合北京支局入社〔第2章第3節〕
束の間だった上海支局長〔第2章第3節〕
上海でロイター電を転送〔第2章第3節〕
国際通信入社1カ月で聯合発足〔第2章第3節〕
汪政権の成立から崩壊まで見届け〔第2章第3節〕
聯合、同盟で中国生活14年〔第2章第3節〕
上海は国際宣伝戦の坩堝〔第2章第3節〕
汪兆銘狙撃現場を撮影〔第2章第3節〕
戦争取材で中国各地を転々〔第2章第4節〕
松岡外相と満鉄マン〔第3章第1節〕
盧溝橋事件の取材を志願〔第4章第2節〕
名門近衛家の悲劇〔第4章第4節〕
勉強家だったギンスバーグ〔第4章第4節〕
暗号戦争に敗れた日本〔第4章第4節〕
北京で写した不滅の名印画〔第4章第4節〕
軍馬輸送の専用車で天津赴任〔第4章第4節〕
新婚早々に赤紙、6年の軍隊生活〔第4章第4節〕
『麦と兵隊』さながらの従軍〔第4章第4節〕
宣伝上手だった中国軍〔第4章第4節〕
南京虫の襲撃で夜も寝られず〔第4章第4節〕
南京でボランティア日本語教師〔第4章第4節〕
汪政権要人の「愚園帖」〔第4章第4節〕
1930年代の上海の人々〔第4章第4節〕

- 崇明島に不時着した同盟機〔第4章第4節〕
小型無電機とともに前線へ〔第4章第4節〕
中支の経済状況を取材〔第4章第4節〕
記者クラブ視察団の揚子江下航記〔第4章第4節〕
海南島で海軍爆撃機に同乗〔第4章第4節〕
死も覚悟した「写真大観」取材〔第4章第4節〕
水牛道連れに従軍、最前線へ〔第4章第4節〕
包と蛋民の暮らし〔第4章第4節〕
忘れられない蒙古人の親切〔第4章第4節〕
連れ去られた上海ロイター社員〔第5章第1節〕
綿花生産地で買い付け状況視察〔第5章第3節〕
44年冬の深夜の北京駅〔第5章第3節〕
親日中国人に日本人警官が暴言〔第5章第3節〕
最後の従軍記事は洛陽占領〔第5章第3節〕
残念だった伊大型客船の自沈〔第5章第3節〕
南京支局社宅の怪談〔第5章第3節〕
快適だった2年間の上海勤務〔第5章第3節〕
上海で外電カバ、不安覚える〔第5章第3節〕
南支総局ビルに機銃掃射〔第5章第3節〕
広東支局草創のころ〔第5章第3節〕
汪兆銘主席と近衛公の一言〔第5章第3節〕
忘れられない総局の中国人〔第6章第2節〕
中華総社職員に敵のスパイ〔第6章第2節〕
9月には叢書『原子爆弾』発行〔第6章第4節〕
最後に帰国、社に席なし〔第6章第6節〕
漢口、引き揚げ日録〔第6章第6節〕

▽「マカッサル支社局の記録」

- 最も危険なアンボン支局〔第5章第3節〕
- セレベス山中で阿南大将と会見〔第6章第6節〕
- 人情に国境なし〔第6章第6節〕
- 同盟の灯、燃やし続ける〔第6章第6節〕
- 苦難のジャングル逃避行〔第6章第6節〕
- マハカム川河口で被弾、漂流〔第6章第6節〕
- 敗戦後、地獄に突き落とされる〔第6章第6節〕

▽「太平」

- ポツダム宣言受諾を海外向けに放送〔第6章第4節〕

▽「共同通信社友会会報」

- 半蔵門の反乱軍を撮影〔第4章第1節〕
- 同盟大阪支社が炎上〔第5章第2節〕
- ビルマ前線基地に碁盤と碁石〔第5章第3節〕
- 現地召集でビルマ戦線へ〔第5章第3節〕
- 敵の魚雷攻撃を同盟機から目撃〔第5章第3節〕
- 負傷の支局長が投下の第一報〔第6章第4節〕
- シベリア抑留の日本兵を見届け〔第6章第6節〕
- 〈座談会〉通信近代化の夜明け〔第7章第1節〕
- 〈座談会〉先手を取った同盟解散〔第8章第2節〕

▽「十五年のあゆみ」

- 経済通信の草創時代〔第1章第1節〕

- 日刊紙「太原新聞」発行〔第4章第4節〕

- 危険顧みず山中単独行〔第4章第4節〕

- 半生をジャーナリストとして〔第4章第4節〕

- 初の本土空襲で本社に駆け込む〔第5章第2節〕

- 保定でイナゴ退治に参加〔第5章第3節〕

- 書類焼却を手伝う〔第6章第5節〕

▽新聞通信調査会所蔵資料

- 古野伊之助社長訓示（9月17日）〔第8章第1節〕

- 同盟通信社第33回理事会速記録〔第8章第1節〕

- 同盟通信社第34回理事会速記録〔第8章第1節〕

- 同盟通信社第13回（臨時）社員総会速記録〔第8章第1節〕

- 古野伊之助社長訓示（10月15日）〔第8章第1節〕

▽その他

- 北京→濟南の航空便試乗〔第1章第1節〕

掲載写真・図版の出典

本書に掲載した写真や図版の出典は以下の通り。

▼新聞通信調査会所蔵(新聞通信調査会、同盟などの出版物を含む)

- ・ケネディ邸スケッチ(5頁) Ⅱ「新聞通信調査会報」42号より
- ・ジョン・ラッセル・ケネディ(5頁) Ⅱ「五風十雨」より
- ・ケネディ、岩永、古野、結東(10頁) Ⅱ「五風十雨」より
- ・宗方小太郎(43頁) Ⅱ『通信社史』より
- ・佐藤顕理ら3人(79頁) Ⅱ『通信社史』より
- ・聯合の新社屋Ⅱ(90頁) Ⅱ『通信社史』より
- ・光永星郎(120頁) Ⅱ『通信社史』より
- ・徳光衣城(126頁) Ⅱ「メディアア展望」第699号より
- ・東川嘉一(135頁) Ⅱ『通信社史』より
- ・赤紙(136頁)
- ・報道用カメラ、アングーとパルモス(155頁)
- ・極東オリンピック大会(158頁) Ⅱ「新聞写真年鑑」1933〜34年版より
- ・松本重治(167頁)
- ・国通本社ビル(204頁) Ⅱ『満州国現勢』(1939年刊)より
- ・満州映画の撮影風景(207頁) Ⅱ『満州国現勢』(1939年刊)より
- ・大屋久寿雄(309頁) Ⅱ「メディアア展望」第619号より
- ・萩野伊八(309頁) Ⅱ「メディアア展望」591号より
- ・上海・閩北地区の日本軍兵士(348頁) Ⅱ『新聞写真年鑑』1939年版より
- ・黒潮会晩さん会(357頁)

- ・同盟の経理部(392頁)
- ・同盟機前の山内機長、森航空部次長(401頁)
- ・焼失前の同盟大阪支社(417頁)
- ・炎上する同盟大阪支社(417頁)
- ・長谷川才次外信部長(422頁)
- ・同盟機前の小路カメラマン(426頁)
- ・日英司令官会見報じる(428頁) Ⅱ「同盟写真特報」1688号より
- ・従軍中の日映潮田カメラマン(433頁)
- ・同盟の社名入り鉛筆(437頁) Ⅱ「新聞通信調査会報」369号より
- ・昭南の娘たち(489頁) Ⅱ「新聞通信調査会報」426号より
- ・同盟マカッサル支社(496頁)
- ・写真を焼却処分(606頁)
- ・同盟本社電送室(675頁)

▼共同通信社提供

- ・樺山愛輔(5頁)
- ・同盟本社タイプ部(18頁)
- ・創立直後の同盟幹部(38頁)
- ・伊達源一郎(55頁)
- ・東京上空を飛行するツェッペリン伯号(105頁) Ⅱ日本電報通信社撮影
- ・ツェッペリン伯号の機内食を準備(105頁) Ⅱ日本電報通信社撮影
- ・力士と記念撮影するチャプリン(106頁) Ⅱ日本電報通信社撮影
- ・立てこもった力士ら(131頁) Ⅱ日本電報通信社撮影
- ・狙撃された浜口雄幸首相(154ページ)
- ・中田義次(156頁)

・待機する新聞、通信各社カメラマン(162^{ジベ}) || 日本電報通信社撮影

・魯迅(186^{ジベ})

・ベルリンに姿を現した馬占山(219^{ジベ}) || 日本電報通信社撮影

・二・二六事件の丹生誠忠中尉(242^{ジベ})

・岡田啓介首相と松尾伝蔵大佐(242^{ジベ})

・安藤輝三大尉(245^{ジベ})

・飛行館屋上のアドバルーン(247^{ジベ})

・盧溝橋(249^{ジベ})

・田中都吉(276^{ジベ})

・頼母木桂吉(285^{ジベ})

・栗林農夫(303^{ジベ})

・燃える静岡市内(304^{ジベ})

・同盟職員 of 銃剣術教練(307^{ジベ})

・御手洗辰雄(322^{ジベ})

・同盟職員 of 銃剣術試合(409^{ジベ})

・軍事教練を受ける同盟女子職員(412^{ジベ})

・被災した深川を視察する昭和天皇(414^{ジベ})

・焼失前の同盟別館(415^{ジベ})

・漢口作戦の浅井達三カメラマン(431^{ジベ})

・殉職した同盟カメラマンの現地慰霊祭(441^{ジベ})

・チャンドラ・ボース(465^{ジベ})

・プリンス・オブ・ウェールズとレパルス(473^{ジベ})

・阿波丸(486^{ジベ})

・焼け落ちた同盟別館を片付ける建設隊(545^{ジベ})

・建設中の同盟蓼科農場(548^{ジベ})

・蓼科農場建設に従事する栗林農夫(548^{ジベ})

・コレヒドールの地下要塞から投降する米兵(574^{ジベ})

・焦土と化した広島市街(598^{ジベ})

・長崎原爆被災の少年と母親(603^{ジベ}) || 西部軍報道班員山端庸介氏撮影

・焼け跡で玉音放送を聞く被災者(607^{ジベ})

・会見する鈴木貫太郎首相(616^{ジベ})

・ソ連からの引き揚げ第一船「雲仙丸」(623^{ジベ})

・同盟の解散式であいさつする古野社長(733^{ジベ})

・同盟通信解散前に幹部勢ぞろい(749^{ジベ})

▼日本航空協会

・帝国飛行協会の雑誌「飛行」に掲載された古野伊之助の搭乗記(17^{ジベ})

▼電通提供(出版物を含む)

・不破瑳磨太(114^{ジベ}) || 『電通社史』(1938年刊)より

・上田碩三(190^{ジベ})

▼国立国会図書館所蔵

・北京で日中女性が羽根突き(336^{ジベ})

▼米フシントン州 Wenatchee Valley Museum and Cultural Center

提供

・初の太平洋無着陸横断に成功した「ミス・ビードル号」(139^{ジベ})

▼信濃毎日新聞提供

- ・寺内寿一南方軍総司令官(429^{ページ}) || 1943年1月1日付紙面
- ・和服姿のバー・モー博士(429^{ページ}) || 1943年8月3日付紙面

▼書籍からの引用

- ・江尻進(367^{ページ}) || 『ベルリン特電』(1995年、共同通信社)より
- ・昭南新聞創刊号(530^{ページ}) || 横堀洋一編『昭南新聞 1942〜1945 日本占領下のシンガポール 重要紙面・縮刷版』(1993年、五月書房)より

参考文献

本書の編集に当たっては以下の文献を参照した。

【新聞・通信社等刊行物】

- 新聞聯合社『千里比隣』1928年
満州国通信社『国通十年史』1942年
日本新聞協会『地方別 日本新聞史』1956年
通信社史刊行会『通信社史』1958年
電通一〇〇年史編集委員会『電通一〇〇年史』2001年
新聞通信調査会『岐路に立つ通信社―その過去・現在・未来』2009年

【伝記・遺稿】

- 東川遺稿刊行会『東川遺稿』1932年
岩永裕吉君伝記編纂委員会『岩永裕吉君』1941年
新聞通信調査会『五風十雨―古野伊之助アルバム』1966年
新聞通信調査会『古野伊之助』1970年
同盟育成会『福岡誠一』1976年
長谷川才次刊行会『長谷川才次』1979年
佐々木健児追想録刊行会『佐々木健児』1982年
- ### 【単行本】
- 佐藤喜一郎『最後の記者馬鹿』(中央公論社)1961年
児島襄『太平洋戦争(上)(下)』(中公新書)(上)は1965年、(下)は66年
今井幸彦『通信社 情報化社会の神経』(中公新書)1973年

斉藤桂助著、山田清一郎編『最後の報道班員』(復刻版)1975年
松本重治『上海時代』(中央公論社)1977年

許雲樵・蔡史君編、田中宏・福永平和訳『日本軍占領下のシンガポール
華人虐殺事件の証明』(青木書店)1986年

北海道新聞労働組合『記者たちの戦争』(径書房)1990年

横堀洋一編『昭南新聞 1942〜1945 日本占領下のシンガ
ポール 重要紙面・縮刷版』(五月書房)1993年

有山輝雄・西山武典編『同盟通信社関係資料 全10巻(近代日本メディア
史資料集成)』(柏書房)1999年

里見脩『ニュース・エージェンシー 同盟通信社の興亡』(中公新書
2000年)

今西光男『新聞 資本と経営の昭和史 朝日新聞筆政緒方竹虎の苦惱』
(朝日選書)2007年

前坂俊之『太平洋戦争と新聞』(講談社学術文庫)2007年

石井幸之助『報道班員従軍記 若きカメラマンのマレー・千島戦記』(光
人社)2008年

里見脩『新聞統合 戦時期におけるメディアと国家』(勁草書房
2011年)

鳥居英晴『国策通信社「同盟」の興亡 通信記者と戦争』(花伝社
2014年)

大屋久寿雄著、鳥居英晴編集『戦争巡歴 同盟通信記者が見た日中戦
争、欧州戦争、太平洋戦争』(柘植書房新社)2016年

江澤誠監修『スマトラ新聞 全一卷』(ゆまに書房)2017年
小山俊樹『五・一五事件 海軍青年将校たちの「昭和維新」』(中公新書
2020年)

【辞典・事典】

- 朝日新聞社『現代人物事典』1977年
新潮社『新潮日本人名辞典』1991年
日外アソシエーツ『中国人名事典 古代から現代まで』1993年
講談社『日本人名大辞典』2001年
三省堂『コンサイス日本人名事典』2009年
日外アソシエーツ『ジャーナリスト人名事典 明治～戦前編』2014年
吉川弘文館『アジア・太平洋戦争辞典』2015年

【論文・雑誌記事】

- 前坂俊之「太平洋戦争下の新聞メディア」、里見脩「同盟通信社の『戦時報道体制』 通信社と国家」、いずれも日本マス・コミュニケーション学会「マス・コミュニケーション研究」66号所収、2005年1月
早瀬晋三「日本占領・勢力下の東南アジアで発行された新聞」、早稲田大学アジア太平洋研究センター編「アジア太平洋討究」27号所収、2016年10月

【ウェブサイト】

- 各新聞社ホームページ
新聞通信調査会デジタルアーカイブ

編集委員プロフィール(五十音順)

安達 功(あだち・いさお)……………1954年生まれ。78年時事通信入社。パリ特派員、社会部長などを経て編集局長。2015年から19年まで時事通信フォト代表取締役。

飯岡志郎(いのおか・しろう)……………1951年生まれ。75年共同通信入社。社会部、福岡支社編集部長、ニュースセンター整理部長、長野支局長、放送編集部長、2012年まで福岡支社長。

信太謙二(しだ・けんぞう)……………1948年生まれ。73年時事通信入社。外信部、社会部、北京支局、上海支局などで勤務。2004年から14年まで東洋大学教授。新聞通信調査会評議員。

沼田 清(ぬまた・きよし)……………1948年生まれ。70年共同通信入社。写真畑一筋で定年。2008年から報道写真史と災害写真史の調査研究に取り組んでいる。歴史地震研究会会員。

松本紀生(まつもと・のりお)……………1948年生まれ。72年共同通信入社。社会部、ラジオ・テレビ局報道部、メディア局編集部長、鹿児島支局長、2008年まで編集連絡部長。

宮脇英朗(みやわき・ひでお)……………1952年生まれ。76年共同通信入社。大阪社会部、外信部、テルアビブ、シンガポール、ロンドン支局、国際局次長、2012年までニューヨーク支局長。

米山司理(よねやま・もりまさ)……………1949年生まれ。73年共同通信入社。経済部、ロンドン支局などを経て常務理事。2017年から新聞通信調査会常務理事・事務局長。

あとがき

通信社ライブラリーの棚にひっそりと置かれた資料集が気になっていた。見た目はきちんとした装丁の3巻本の書籍だが、表紙をめくると、ざら紙にタイプした速記録のような体裁。原稿ごとにページは振られているが、目次はもちろん、通し番号もない。読んでみると国際通信、新聞聯合、満州国通信、同盟通信時代について元職員が当時の社内の雰囲気や仕事の苦労、幹部や同僚の思い出などを語っている。特に敗戦後、中国や南方などに展開していた総社、支社、支局勤務の職員が命からがら日本に引き揚げてきた苦労話などには胸を打たれた。

この資料はかつて計画されて頓挫した『続・通信社史』に掲載予定の原稿だった。1963年1月発行の新聞通信調査会報第1号に「新聞通信調査会は、さきにお知らせしたように、『古野伊之助伝』と『同盟通信社時代』（仮称）の編さんに着手し、毎週、編集委員会をひらき、座談会や個別面談などの方法で資料の収集に努めています」という記載がある。

『古野伊之助伝』は7年後の70年4月に『古野伊之助』（古野伊之助伝記編集委員会）として刊行されたが、『同盟通信社時代』（仮称）はどうなったのか。

63年3月発行の同会報第3号には「本年末に刊行予定の『続・通信社史』『古野伊之助伝』の編さんに役立つような資料、編集企画など、お知らせください。この続編は、いわば『外史』みたいなもので、これで『正史』に色どりを添えて補完するほか、『同盟同人銘々伝』のようなものも収録するつもりでいます」という記載がある。

ところが刊行計画は予定通りには進まなかったようだ。65年1月発行の同会報25号には「大阪から上京した塚本義隆さんは『続・通信社史』や『古野伊之助伝』編さんの進行状況をたずね、開店休業状態ときかされ『あすあると思う心のあだ桜、夜半に嵐の吹かぬものかわ』と、苦言を残して離京した」との記載がある。「福岡誠一編集長以下スタッフは、この親鸞上人の『九歳の詠』に感奮、『ことしこそは……』と張り切っている」と続くのだが、その後は鳴かず飛ばずで、『古野伊之助』は70年に刊行されたが、『続・通信社史』刊行計画は立ち消えになった。このような宙ぶらりんの状態では座談会でしみじみと語り、思いを込めて手記を綴った元同盟職員の気持ちも落ち着かないだろう。

新聞通信調査会は2018年、所蔵している同盟関係の資料を公開するアーカイブを開設、「同盟旬報」や「同盟ニュース」の公開を始めた。アーカイブは今後も充実させる予定だ。『続・通信社史』もこのまま埋もれさせず、半世紀余を経て刊行計画を再度立ち上げ、元同盟職員の証言を世に出そうということになったのが、19年の春。

編集委員会には時事通信社〇Bの信太謙三氏、安達功氏、共同通信社〇Bの飯岡志郎氏、松本紀生氏、沼田清氏、宮脇英朗氏、新聞通信調査会事務局次長の東郷吾朗氏と米山、事務局員で司書の岡野久美子氏が参加。信太、安達、飯岡、松本の各氏には対象資料の選定から表記基準の検討、編集、校正作業に参加していただいた。沼田氏には写真関係の原稿の編集や掲載のための写真選定をお願いした。そして宮脇氏が編集長として全体を統括した。東郷氏は主に人物紹介を担当した。岡野氏はすべての資料を管理した。事務局の平山真弓氏には膨大な資料のコピーなど資料整理を手伝ってもらった。

時事通信出版局の舟川修一、桑原奈穂子の両氏には膨大な原稿を手際良く編集していただき感謝の言葉もない。資料の閲覧で協力いただいた時事通信社、共同通信社の担当の方々にもお礼を申し上げたい。

2021年6月

公益財団法人新聞通信調査会常務理事・事務局長 米山司理

無防備都市宣言……388, 573
室戸台風……33
室蘭日報……394, 760
明治神宮競技大会……306
明治製版所……159
綿花通信……84
モールス符号……22, 183, 611, 691
黙殺……591, 612, 615, 616
文字電送機……674, 692, 695, 697
モボ……151, 755
桃谷順天館……118
モラトリアム案……129
モロタイ失陥……492, 762
もんぺ……412, 413

【や行】

野戦支局……193, 278, 344, 428, 479, 682,
756
柳橋……120, 755
やまと新聞……156, 756, 766, 778, 795
大和ホテル……148, 174, 219
郵船、日本郵船……37, 48, 202, 261, 353, 372,
373, 382, 664, 768, 769
ユニオン・コード……24, 25, 137
揚州新報……268
ヨークタウン……513
横浜事件……711, 764
横浜正金銀行、正金銀行……11, 157, 257, 266,
351, 355, 367, 373, 386, 639, 752
芳沢・カラハン交渉、会談……62, 316, 753
万朝報……93-96, 102, 156, 234, 754, 771,
779, 780

【ら行】

ライオン……116, 118
ライカ……155, 156, 163, 427
ライトハンド……85
洛陽の紙価……453, 761
ラヂオプレス……612
藍衣社……318, 759
リー族……462
リパティエ……494, 565, 639, 645, 653, 658,
762
柳条溝……80, 753

遼東新報社……218
リヨン大学……309, 793
臨時資金調整法……12, 752
臨城事件……47, 71, 747, 753
ループル……315, 624
レイテ戦……503, 762
レート(平尾賛平商店)……118
レキシントン……407, 760
レディーバード……333, 759
レパルス……430, 473, 474, 478, 761
連邦捜査局、FBI……382, 383
連絡操典……144
老河口作戦……553
廊坊事件……251, 757
ローネーオー……688
六中全会……184
ロサンゼルス・オリンピック……134
ロスタ……50, 63, 753
ロックフェラー……371, 382, 747
ロンドン大空襲……368, 369

【わ行】

ワールドシリーズ……22-24
和登商行……695, 764
王府井……343, 447, 554

報道戦士……379, 437, 438, 442, 748
豊台……259, 261-263, 343, 758
報知新聞……92, 117, 247, 323, 324, 754,
771, 775, 777, 781, 787
奉天事件……80
奉天新聞……80, 104
報道挺身隊(の歌)……430, 437, 761
報道報国……378, 495, 535, 594, 735, 741,
748
法幣……351, 355, 457, 636, 759
豊満ダム……205
宝来館……174
謀略放送……312
ポータブル……129, 354, 445, 657, 674, 682,
683, 685-687, 692, 693
北支農民事件……255
北斗会……111, 754
北伐……45, 170, 178, 753, 756
北部仏印進駐……477, 761
北満鉄道、北鉄……142-144
星製菓……119
細井組……116
細川日記……420
北海事件……258, 758
ポツダム宣言……164, 223, 235, 385, 386, 392,
532, 534, 541, 544, 552, 555, 590, 591,
593, 604, 608, 609, 612, 613, 616, 617,
620, 657, 696, 702-704, 720, 750, 762,
795
ホテル・アドロン……33
ホテル・モデルン……209
ホワイト・ロー……25
花旗銀行……138
香上銀行……138

【ま行】

マークロイター……27
毎夕……93, 156, 309, 659, 754, 781
マウスピース……550
マオリ、マオリ・コード……24, 25
マグネシウム……153, 155, 185, 189, 595
マジスティック……52
マッカーサー司令部……621, 716-718, 720, 721,
724, 729, 734, 745

マツダビル……275
松屋……123
窓乃梅……245
マニラ新聞……573, 575, 578
マリノニ輪転印刷機……159, 165
マルシャンスク収容所……231, 757
満映……207, 215, 756
満州映画協会……207, 756, 772, 797
満州航空……209
満州国皇帝……223, 757, 790
満州事変……40, 77, 80, 101, 106, 107, 112,
129, 130, 132, 133, 140, 150, 155, 162,
170, 181, 193, 194, 205, 214, 219, 220,
238, 249, 261, 288, 334, 404, 679, 681,
684, 685, 687, 692, 731, 753, 758, 791,
796
満州新聞……204, 207, 222, 788
満州電電……216, 224, 757
満州日日新聞……207, 218, 232, 263, 754
マンチェスター・ガーディアン……254, 291
満鉄、南満州鉄道……15, 37, 38, 53, 144, 170,
174, 200, 207, 213-215, 218, 222, 227-
229, 234, 235, 252, 258, 276, 424, 449,
552, 553, 689, 754, 769, 777, 786
満日……111, 174, 218, 232, 754
満蒙五鉄道……15, 752
満蒙通信社論……40, 202, 756
ミス・ビードル号……139, 140, 795
ミズーリ号……164, 166, 545, 546, 617
御園白粉……116
三井合名……131, 205
三井物産……12, 177, 372
美津濃運動具店……151
三菱MC20旅客機……401
三菱化成……228
都(新聞)……90, 98, 156, 244, 246, 287, 324,
355, 540, 754, 773
民政党……87, 115, 117-119, 129, 795
民政部……497-501, 650-652, 657, 659, 660,
762
『麦と兵隊』……343, 344, 447, 795
虫食い……24, 35, 395, 684, 691, 697
無線時事……691, 764
ムビオラ……284

ノモンハン事件……41, 193, 196, 197, 200,
201, 206, 211, 462, 756, 794

【は行】

バーチカル・チェック……24, 25, 35
バイアス湾上陸作戦……333, 464, 686, 759
白乾児……456, 761
排日運動……46
博品館……36
博報堂……115
破甲爆弾……218
バタ(社内連絡)……216, 233, 403, 609, 757
パターン死の行進……574, 763, 796
八路軍……230, 445, 553, 757
バックカード……118, 132, 582
バッグ便……145, 293, 300, 301, 398, 618,
755
白系ロシア人……182, 207, 208, 230, 694, 756
八紘一宇……208, 313, 759
バドリオ政権……454
パネー……333, 759
ハノイ進駐……318, 466, 759
ハバロフスク放送局……213
ハミルトンハウス……454
「腹切り」問答……285, 758, 794
ハルハ河……193, 197, 211, 212
バルバロッサ作戦……368, 760
ハルビンスコエウレミア……206
パルモス……155, 162, 163, 415
バレテ峠……577-579, 763
ピアストル……571, 572, 639, 642, 644, 763
PK……439, 467, 468, 761
東印度水産……500
東御車寄せ……110
東久邇内閣……420, 636, 637, 703, 704, 711,
783, 795, 796
東伏見宮……9
飛行記者クラブ……400
ビッカーズ社……16
日比谷会館……5, 7, 12, 156, 410, 752, 768
日比谷ホテル……539
ビミー……16
ビューック……100
ヒューゲッセン事件……253, 785

飛鷹……510
ビリビッド……387, 573, 760
飛竜……512, 671, 672
ファーイースト……8
ファーロイト……27
ファイナンシャルプロニュース……83
ファイナンス・アンド・コマース……86
フィリップス社……272
フォッカー……210, 400
武漢攻略作戦……430, 759
武漢三鎮……526, 762
ブキティマ……427, 428, 469, 473, 479, 488,
761
福岡第1飛行場……302
福岡日日(新聞)……134, 205, 329, 357, 371,
753, 789
蕪湖新報……268
伏見丸……443
婦人矯風会……308, 759
不戦条約……110
仏印処理……482, 604, 638, 642, 762
福建軍……45
福建事件……181, 756
ブラジル丸……512
フランス租界……168, 174, 176, 177, 179, 181,
182, 348-350, 455, 457, 758
プリンス・オブ・ウェールズ……407, 430, 458,
473, 474, 478, 759
ブルー・エクスプレス……71
プレス・ユニオン……181
プレスワイヤレス……34, 152, 615
ブロードウェー・マンション……386
プロマイド……155
分送制度……24, 27
兵補……649, 763
平和大博覧会……159
ベトミン……639, 641-643, 763, 795
ベトレル……384
ベラ新聞……486, 531
ヘラルド……48, 49
ベルン無線局、ベルン局……224
便衣隊……157, 756
ベントレー……25
豊州新報……398, 760

通州事件……203, 259, 265, 756
ツェペリン伯号……103-105, 127, 138, 162,
754
津軽選挙……140, 755
DNB……518, 540, 668, 669, 681, 762
敵性情報……378, 422-425, 541-543, 546, 615,
760
鉄道守備隊……194
デリンジャー現象……691, 764
天津軍……250, 251, 757
天津事変……681, 684, 764
伝単……484, 654
電通ビル……191, 260, 282, 283, 287, 288,
292, 295, 297, 303, 393, 408, 411
電聯合併……34, 124, 191, 215, 291, 292,
294, 299, 317
東亜同文書院……364, 753, 759, 776, 777, 783
東奥日報……139, 187, 188, 276, 608, 727,
755
東京日日……61, 76, 141, 159, 160, 165, 276,
291, 355, 357, 758, 767, 776, 780, 784
東京ローズ……390, 541, 698, 709, 760
統帥権……569
同文書院……54, 177, 753, 759
東方電機……578, 763, 770, 773, 774, 779,
784
同盟学寮(同盟育成会)……232, 751, 757
同盟機……163, 279, 289, 353, 354, 401-403,
428, 474, 479, 480, 504, 505, 545, 576
督軍……16, 752
独ソ不可侵条約……367
特別情報／特殊情報……378, 385, 422, 536, 537,
542, 760
特務機関……208, 213, 227, 249, 250, 252,
262, 265-267, 338, 339, 346, 363, 364,
562, 660, 694, 695, 773, 796
特警……496, 660, 762
特高……282, 299, 324, 329, 339, 524, 547,
597, 605, 624, 625, 764
鳥取大地震……396, 760
飛び石作戦……570, 763

【な行】

内経部……291, 292, 297, 398, 399, 424, 550

内政研究会……294
内地帰還……486, 650, 653
内報……98, 205, 754
永田クラブ……109, 241, 355
中野の学校(中野学校)……468, 694, 761
名古屋新聞……111, 115, 116, 150, 324, 754
ナショナル・ニュース・エージェンシー……2, 30, 37,
39, 40, 59, 70, 76, 130, 179, 200, 238,
239, 329, 331, 746, 748
七十四銀行……12, 752
南苑飛行場……250, 757
南京陥落……256, 347, 355
南京政府……169, 178, 251, 269, 756, 791
南拓……506, 762
南部仏印進駐……364, 426, 477, 759, 761
南方総局……379, 480, 481, 491, 545, 654,
769, 771, 785, 789
南方総社……465, 481, 488, 489, 559, 563,
575, 576, 604, 638, 641, 663, 671, 769,
773-775, 779, 781, 782, 784, 788
南方特別会計……392, 726
南方派遣(南遣)艦隊……651, 661, 662, 763
南洋新報……507, 508
南洋庁……506-508, 788
南洋毎日……506
南予時事新聞……396, 760
新潟大火……298, 758
西原借款……44, 753, 793
日映……49, 163, 164, 310, 426-429, 432,
528, 578-580, 654, 655, 753
日満直通電話線……208
日露協会……314, 759, 782
日本人移民排斥運動……2
日本印刷産業総合統制組合……308, 316, 783
日本コロムビア……270, 312, 758
日本新聞会……307, 322, 325, 330, 439, 709,
759, 767, 771
日本新聞連盟……322, 329, 371, 759, 767
日本ニュース映画社……270, 280, 307, 371, 425,
430, 431, 433, 526, 753, 787
日本野球奉公会……620
二六新報……156, 756
熱河戦(熱河作戦)……203, 683, 756
ノースチャイナ・デーリーニューズ……52, 54, 455

徐州作戦……277, 343, 440, 683, 758
ジョンゴス……499, 651, 657, 661
新愛知……111, 113, 115, 324, 371, 754, 775
新型爆弾……591, 595, 602, 617
真珠湾攻撃(爆撃)……163, 302, 379, 380, 382,
385, 408, 462, 478, 517, 520, 619
新体制運動……470, 761, 796
陣中西貢新聞……481, 482, 530-532, 567, 568,
642, 643, 645
新聞公社……330, 331, 771
新聞事業令……322, 324, 325, 330, 759
神兵隊事件……123, 755
津浦鉄道……71, 447, 753
綏遠事件……255, 758
瑞鶴……432, 516, 527
枢密院……110, 276, 420, 421, 704, 795
スケルトン……7, 8, 133, 371, 422, 752
ステファニ通信社……370, 760
スピグラ……155, 156
清算人……725-728, 739, 785
聖断……591, 617
赤軍……216, 368, 519, 665, 669, 671
『潜行三千里』……561, 794
全国新聞共同会社……323, 325
全国地方新聞連盟……115, 755
戦時調査室……524, 541, 542, 546, 550, 615,
715, 777, 782
戦犯容疑者逮捕指令……745, 764
前門……61, 171, 753
総督府記者クラブ……296
速記者……35, 144, 151, 193-195, 206, 208,
291, 296, 299, 301, 396, 397, 411, 465,
597, 692, 767, 784

【た行】

第1次上海事変(事件)……131, 155, 156, 180,
181, 185, 253, 755, 756, 793
大運河渡河作戦……279
大共和日報……43, 45
大空襲……164, 166, 295, 368, 369, 395, 397,
404, 413, 414, 507, 534, 540, 550, 557,
576, 615, 618, 669
太原新聞……343
大公報……43, 44, 46, 48, 66, 168, 169, 753,

775
退職手当……710, 728
大世界……253, 758
大鉄傘……142, 755
大東亜会議……545, 762
大同結盟……239, 275, 305, 378, 715, 741,
748
第2次上海事変……758, 796
第二通信社……737, 738
大日本印刷……316, 618
大日本麦酒……120, 755
大北電信……23, 169, 178, 179, 181, 350,
386, 752
大本営……257, 298, 302, 381, 384, 385, 394,
402, 406-408, 422, 426, 429, 434, 439,
458, 508, 511, 514, 516, 517, 525, 534,
537-539, 544, 547, 575, 579, 585, 591,
595, 596, 600, 612, 614, 615, 617, 619,
622, 651, 750, 796
太陽安打……436, 761
台湾銀行(問題)……110, 498, 500, 754
台湾拓殖会社……318
台湾日日新報……111, 357, 754
塘沽停戦協定……261, 758
探訪力……704, 764
地方新聞……91, 109, 115-117, 119, 122, 124,
126, 155, 325-329, 527, 529, 539, 612,
731, 755
チャイナ・プレス……52
中央新聞……20, 93, 156, 160, 618, 752
中央通訊社……269, 346, 364, 448, 639
中外商業新報……28, 76, 100, 103, 275, 331,
753, 780
中華民国維新政府……268
中華聯合通訊社……53, 180, 268, 753
中国特別会計……391, 392
中国民報……299, 755
中長鉄路公司……229, 231, 757
張鼓峰の日ソ衝突(張鼓峰事件)……196, 197, 685,
756
朝鮮銀行記者クラブ……296
千代田通信……88, 92, 754, 782, 784
鎮守府……32, 53, 689, 753
通化省……222, 757

軍票……226, 230, 342, 457, 474, 503, 554,
571, 572, 663, 757
警察予備隊……712, 764
KSトーキー……270, 526, 786
原子爆弾……564, 590, 591, 603, 605, 612,
617, 620, 750
堅集団……662
広安門事件……251, 261, 262, 685, 757
号外……32, 49, 81, 106, 110, 139, 148, 160,
292, 343, 378, 478
黄河発電計画……296
皇紀二千六百年記念式(奉祝式典)……283, 303, 527
航空部……400-404, 510, 620, 770, 778, 788
広告聯合社……77, 114, 129, 767, 785
広西作戦……476, 761
高知新聞……87, 103, 115, 129, 754, 789
康德新聞……222, 232, 757
降伏文書調印……545, 617, 772, 793
神戸新聞……116, 123, 137, 149, 234, 262,
755, 770, 772, 778
神戸丸……459, 602
神戸又新……128, 149, 755, 770
五鬼上法律事務所……288, 289, 758
国聞通訊……66, 753, 775
国民新聞……49, 54, 59, 92, 98, 113, 205,
239, 324, 752, 754, 766, 773, 774, 777,
779
御前会議……591, 750, 762
御大典……19, 57, 77, 87, 88, 97, 99-103,
112, 126, 127, 154, 155, 752
コレラ……360, 535, 640
コンテ・ヴェルデ号……455

【さ行】

済南事件……99, 677, 678, 680, 754, 795
坐漁荘……306, 759
桜田門事件……107, 130, 754
佐藤・ケネディ事務所……4
三国軍事同盟……705
三品取引所……138
サンフランシスコ放送……503, 504, 612, 613,
722
山陽新報……113, 115, 299, 755
CIC……586, 628, 763

西安事件……167, 168, 170, 180, 185, 258,
695, 756
時事新報……20, 21, 43, 76, 95, 104, 115,
120, 123, 140, 205, 276, 291, 406, 752,
755, 767, 768, 772, 778, 779, 786, 789
紫宸殿……97, 99, 102
市政会館……235, 236, 279, 378, 389, 393,
407-411, 416, 445, 539, 540, 546, 550,
605, 606, 618, 619, 697, 708, 757
輜重兵……340, 759
ジットライン……427, 468, 473, 761
シベリア抑留……235, 629
死亡広告……118, 122, 368
ジャーディン・マゼソン……455, 556, 761
社員総会……113, 700, 701, 709, 710, 721,
722, 726, 727, 729-731, 734, 739
ジャパン・ガゼット……82, 753
ジャパントイズ……5, 6, 8, 21, 324, 380,
580, 719, 743, 752, 780
ジャワ作戦……480, 569, 762
焼夷弾……297, 395, 397, 413, 415, 418, 498,
519, 550, 606, 615, 617
十九路軍……186, 756
重慶放送……223, 503, 757
十五銀行……12, 752
終戦の詔勅(詔書)……166, 223, 226, 228, 555,
564, 570, 608, 610, 630
週報(国際経済一)……14, 138, 243, 244, 290,
291, 372, 395, 414, 452
週報(写真一)……163, 337
週報(世界一)……545, 617, 618
春秋園……130, 131, 754
湘桂線……686, 764
紹興……61, 753
昭南新聞……529, 530, 532, 565, 566, 571
昭南新聞会……482, 487, 490, 529-532, 566,
641, 647, 762, 767-769, 786
情報局……163, 283, 291, 326, 330, 336, 390,
393, 419, 420, 537, 538, 551, 591, 592,
615, 697, 713, 716, 717, 719, 720, 729,
730, 758, 771, 777, 791, 796
情報局(戦争一, 米政府一)……390, 613, 615,
760, 793
松陽新報……300, 759

SS……666, 763
エニグマ……335
愛媛合同新聞……396, 760
MGMニュース映画……430
MP……745
LST……448, 485, 555, 656, 761
援蔣物資……318, 425
援蔣ルート……466, 476, 477, 761
汪兆銘工作……311, 312, 347, 759
鴨緑江水豊ダム……205, 296
大分新聞……151, 398, 756, 788
大阪倶楽部……20, 22, 752
大阪時事新報……116, 755, 767
大手記者会……294
大山事件……253, 758
小樽新聞……115, 129, 276, 755, 774
表南洋……506, 762

【か行】

海外無線放送……677, 678
海軍水兵殺傷事件……184, 756
海軍落下傘部隊……500, 762
海南新聞……396, 760
傀儡政権……333, 753, 758
華商……475, 476, 642
霞クラブ……366
金物通信……11
華北臨時政府……268, 758
紙の爆弾……385
樺太鉄道……623
川越・張群会談……168, 756
漢口攻略戦……344, 359, 526, 759
カンチャズ(乾岔子)島事件……206, 210, 757
関東軍……40, 41, 184, 200, 202, 205, 206,
208, 209, 211-213, 218-220, 222-226,
228-230, 233-235, 258, 260, 343, 424,
611-613, 629, 679, 682, 683, 685, 687,
692, 694, 695, 756-758, 764, 791, 794,
796, 797
関東軍特別(大)演習(関特演)……212, 213, 215
関東州……671, 757, 763
関東大震災(大地震)……3, 8, 12, 14, 18, 30,
32-34, 36, 49, 81, 160, 161, 165, 188,
244, 678, 747, 754

関東庁……218, 679, 757
雁ノ巣飛行場……302, 401, 487
キアンガン……582, 585, 586, 763
生糸通信……11, 12
企画院事件……291, 758
帰還船……494, 509, 653
冀察政権……249, 757
技術部……681, 691, 773, 779, 780, 788, 790
旗人……170, 756
冀東政権……258, 259, 758
冀東防共自治政府……265, 758
九・一八価格停止令……296, 758
九州新聞……397, 760
九州日日新聞……397, 760
九州日報……33, 115, 116, 118, 128, 133,
134, 149, 276, 753, 777, 783, 789
教育召集……448, 500, 745, 761
業種別通信……398
嚮導艦……512, 513, 762
共同租界……50, 54, 60, 178, 179, 181, 333,
348-350, 677, 756
京都新聞……113, 149, 755
京都日日新聞……116, 127, 129, 276, 755
京包線……682, 764
業務停止命令……706, 708, 713, 719, 743, 746
玉音放送……164, 166, 404, 448, 535, 554,
557, 602, 604, 607, 609, 610, 617, 635,
657
極東オリンピック……26, 35, 53, 157, 158, 178,
752
極東選手権大会……680, 752
挙国一致内閣……569, 763
居中調停……477, 761
錦州攻略(作戦)……692, 693, 764
金輸出解禁……129
クイブイシェフ……520, 521, 762
宮内省……32, 82, 87, 92, 111, 305, 542,
708, 796
熊本日日新聞……397, 760
クラークフィールド……431, 577, 761
グレート・ノーザン……23, 26, 27, 178, 179,
181, 752
黒潮会……355, 357, 440
軍長……249, 757

477, 479, 574, 576, 586, 763, 796
山田一郎……233, 789
山田清一郎……4, 8, 11, 297, 457, 747, 789
山田実……192, 789
山主敏子……412, 789
山根英夫……437, 439, 481, 643, 645, 646,
789
山本五十六……336, 355, 357, 430, 432, 515,
619
山本定治……299, 789
ユレネフ, コンスタンチン……142, 291
横井庄一……511, 512
横田実……15, 192, 196, 218, 248, 331, 405,
425, 462, 466, 477, 479, 633, 789
横地倫平……235, 267, 294, 667, 745
横山兼光……602, 789
横山英志……634, 789
横山隆一……467, 797
与謝野晶子……305
芳沢謙吉……172, 753, 797
吉田茂……51, 771, 791, 797
吉田松治……53, 60, 167, 168, 173, 179, 181,
193, 400, 479, 532, 559, 676, 690, 790
吉田義隆……413, 790
吉積正雄……326, 797
ヨッフエ, アドルフ……49, 797
米内光政……304, 355, 704, 797

【ら行】

ラウレル, ホセ……580, 582, 763, 797
ラッセル, パートランド……68, 797
ランプソン……253
李香蘭……207, 797
リップントロップ, ヨアヒム・フォン……519
リンドバーク, チャールズ……138, 400, 681, 797
林柏生……269, 348, 456
ルーズベルト, フランクリン……257, 503, 612,
712
蠟山芳郎……429, 465, 559, 560, 664, 790
魯迅……185, 186, 753, 797
ロハス, マニユエル……575, 580, 582, 797

【わ行】

若槻礼次郎……101, 421

鷺沢与四二……43, 66
渡辺純一……7, 79
渡辺孟次……236, 296, 355, 386, 457, 502,
790
渡辺はま子……358
和知鷹二……250, 585, 797

事柄 (五十音順)

【あ行】

愛国生命……6, 70, 71
相沢事件……107
赤紙……83, 135, 137, 754
赤トンボ……433, 761
あじあ号……144
愛宕山受信所……424
アバス……124, 182, 364, 540, 681, 755
歩み……27, 28, 31, 138, 152, 290, 296, 299,
301, 761
阿波丸……486, 490, 560, 638, 663, 762
暗号解読……137, 178, 279, 611, 612, 646,
694, 795
アンゴーカメラ……153, 155, 156, 756
イギリス (ロンドン) の戴冠式……101, 102
維新政府……53, 268, 333, 345, 753
一億総決戦 (起)……537, 622, 762
移動無線……693
伊予新報……396, 760
依蘭事件……205, 756
岩永通信……38, 39, 202, 769
インド兵……644
インパール作戦……208, 271, 274, 432, 439,
440, 479, 483, 527, 528, 757
内南洋……506, 509, 762
ウナ電……104, 754, 757
ウナバタ電……250, 757
梅機関……347, 792
運輸通信省……424, 761
A級戦犯……431, 694, 751, 785, 794-796
ABCD包囲……364, 759
エクステンション……7, 8, 79, 82, 135, 752

572, 646, 786
牧島貞一……164, 166, 514, 546, 786
牧野伸顕……39, 108, 544, 750, 796
真崎甚三郎……241
升井芳平……35, 135, 181, 200, 692, 695,
786
松井石根……113, 256, 796
松井翠声……467, 796
松井太久郎……40, 249, 250, 796
松岡洋右……182, 213, 252, 705, 796
松尾節子……147, 288, 786
松尾伝蔵……242, 243
マッカーサー, ダグラス……164, 166, 335, 431,
432, 502, 528, 545, 546, 573-575, 617,
702-704, 707, 763
松方三郎(義三郎)……103, 173, 180, 259, 269,
290, 334, 336, 337, 343, 347, 353, 354,
384, 386, 457, 462, 523, 633, 654, 695,
744, 786
松崎新一……270, 439, 440, 526, 786
松平九州雄……204, 206
松平慶民……542, 796
松平頼寿……276
松田悟……221, 787
松田常雄……224, 252, 353, 385
松永あさ子……9, 11, 18, 21
松永喜雄……280, 787
松野秀雄……602, 787
松宮覚次……144, 149, 151, 300, 572
松村秀逸……108, 251, 796
松本重治……41, 60, 133, 167, 180, 181, 248,
268, 303, 332, 333, 347, 368, 385, 407,
435, 476, 480, 524, 614, 633, 704, 787
松本清張……244
松本昇……308, 787
万喜久太郎……465, 787
三浦良知……89, 134, 151, 399
三木清……244, 573, 796
ミスタンゲット……317, 796
水野政直……61, 290, 485, 787
溝口五郎……205, 787
御手洗辰雄……322, 787
ミッチェル, マーガレット……613
光永真三……120

光永星郎……26, 120, 125, 161, 187, 190,
238, 787
美濃部達吉……594
宮城春生……447, 787
三宅敬……503, 587, 787
宮沢貞男……221, 544, 546, 676, 787
三輪啓……550, 788
武蔵山……106, 130, 140
ムソリーニ, ベニト……213, 370, 760
牟田口廉也……208, 432
陸奥ノ里……607
陸奥陽之助……614, 788
武藤章……582
宗方小太郎……42, 43, 788, 790
宗沢万寿夫……338, 788
村井茂……291, 605, 788
村上清弘……302, 788
村川武躬……302, 492, 495, 658, 788
村田為五郎……320, 389, 618, 788
毛沢東……203, 222, 259, 694
毛利八十太郎……29, 70, 79, 175, 788
望月七郎……296, 788
桃井幸吉……395, 788
森元治郎……129, 140, 357, 400, 401, 404,
425, 501, 682, 692, 788
森井忠之……203, 788
森繁久弥……233, 656
森田久……203, 276, 686, 788
森山朝男……137, 789

【や行】

安原善治……597, 599
安保長春……133, 371, 592, 750
八田厚志……44, 45
矢田部保吉……49, 70
柳町精……53, 268, 269
矢野まみか……290, 789
矢部貞治……537, 615, 796
山口巖……20, 84, 100, 112, 133, 148, 149,
151, 178, 296, 315, 394, 549, 789
山口孝……297, 789
山崎巖……420, 796
山崎東助……371
山下奉文……164, 213, 427, 428, 433, 468,

日野晴雄……510, 511, 554
ヒムラー, ハイน์リヒ……519
ヒューゲッセン, ヒュー・ナッチブル……253, 254, 758
平沢和重……312
平田秀子……61
平田泰吉……61-73, 747, 784
平沼騏一郎……421, 795
平野正一……464, 611, 784
平野義信……114, 784
平林彪雄……123
平林初之輔……88, 795
平柳常雄……456, 458, 784
平山庫四郎……485, 784
広田弘毅……153, 161, 284, 421, 758, 780, 790, 794, 795
フーバー, ドナルド……706, 709, 713, 743
溥儀 → 愛新覺羅溥儀
福井輝三……187, 784
福岡誠一……19, 22, 23, 42, 61, 78, 91, 133, 146, 167, 172, 177, 191, 235, 288, 446, 465, 481, 487, 488, 532, 536, 559, 572, 604, 638, 640, 645, 646, 661, 671, 702, 784
福島慎太郎……402, 580
福田一……92, 285, 294, 320, 335, 346, 465, 466, 478-480, 490, 563, 575, 640, 784
藤井信次郎……78, 91, 103, 114, 248, 280, 283, 308, 322, 465, 536, 559, 572, 676, 702, 784
藤川佐吉……134, 147, 149, 151, 235, 558, 784
藤川清次……608, 784
藤田秀雄……269, 785
藤田芳雄……339, 445, 785
藤本松子……18, 19, 146, 785
藤山愛一郎……47
藤吉直四郎……127
藤原てい……490
不動健治……158, 159, 161, 165, 283, 288, 336, 785, 787
船木重光……78, 178, 412, 509, 536, 702, 785
船越武十……202, 785

フリードマン, ウィリアム……335, 795
古野伊之助……2, 4, 6, 10, 12, 14-18, 21, 36, 38, 39, 42, 44, 61, 69, 76, 125, 128, 133, 146, 147, 149, 172, 191, 218, 238, 239, 261, 276, 277, 280, 281, 284, 288, 294, 297, 306, 323, 338, 340, 343, 366, 372, 378, 385, 389, 393, 411, 413, 425, 435, 487, 493, 507, 518, 521, 524, 526, 530, 547, 549, 550, 592, 602, 606, 615, 632, 651, 668, 674, 700, 706, 709, 713, 718, 725, 729, 731, 733, 742, 745, 746, 757, 785
古野改二……68
古野改造……61, 67, 785
不破欣一郎……114, 785
不破瑳磨太……20, 21, 70, 79, 114, 115, 118, 119, 121, 785
ヘディン, スベン……446, 795
ベルナドッテ, フォルケ……593
帆足升……107, 692
方振武……203, 795
ボース, スバス・チャンドラ……464, 465, 545, 663, 671, 672, 795
ホー・チ・ミン……638, 763
ホールパッチ……254
ポーレー夫人……683
ボーン, マイルズ……191, 769, 785
細木繁……265
堀田善衛……541, 796
堀内軍平……494, 497, 498, 659, 785
堀川武夫……284, 320, 785
堀口大学……524, 786
堀口瑞典……181, 668, 786
堀義貴……38, 48, 191, 287, 524, 786
本間文吉……487, 647, 786
本間雅晴……339, 796

【ま行】

前川春吉……397, 786
前田廉……339, 344, 359, 453, 635, 786
前田盛蔵……61, 786
前田雄二……318, 364, 424, 426, 465, 476, 480, 633, 638, 702, 786
牧内正男……182, 334, 339, 387, 485, 559,

【な行】

内藤豊次……123
 永井皓……428, 466, 478, 577
 永井柳太郎……285, 286
 中川正和……206, 212, 215, 781
 長沢千代造……138, 218, 781
 長島又男……90, 320, 335, 542, 781
 中島弥団次……98, 153, 794
 中田義次……104, 153-157, 161, 164, 165,
 282, 358, 782
 永野修身……586
 長林密蔵……20, 61, 78, 91, 103, 146, 156,
 308, 536, 572, 632, 664, 782
 中村敏……209, 213, 260, 595, 599, 601, 685,
 782
 中村俊一……397, 398, 782
 中村震太郎……80
 中村正……283, 782
 中村農夫……192, 364
 中村信……340, 361, 363, 405, 461, 782
 中屋健一……312, 572, 619
 長山藍子……260
 中山ちゑ……588, 782
 永由君人……305, 478, 480, 547, 782
 永由武秋……558, 782
 長与専斎……37, 769
 南雲幸平……645
 夏目漱石……37, 788, 792
 丹生誠忠……241-243, 794
 二階堂進……390
 西井武好……443, 553, 782
 西村清俊……213, 782
 西村二郎……281, 294, 335, 782
 新渡戸稻造……37, 38
 野口勇一……294, 432, 577
 野坂参三……745
 野間正二……164, 166, 414, 483, 782
 野間宏……541

【は行】

バー・モー……428-430, 483, 794
 パーシバル, アーサー……164, 428, 479, 663,
 797
 ハーディング, ウォレン……32

ハーンドン, ヒュー……139, 795
 パオダイ……639, 641, 794
 萩野伊八……19, 23, 63, 64, 92, 129, 191,
 308, 309, 782
 萩原忠三……371, 479, 509, 692, 783
 橋本欣五郎……333
 橋本群……251, 795
 橋本正邦……294, 783
 長谷川才次……133, 235, 236, 289, 313, 359,
 367, 389, 409, 410, 413, 416, 422-425,
 536, 538, 544, 590, 605, 615, 710, 715,
 744, 750, 783
 長谷川伸……109, 795
 長谷川峻……133, 149, 783
 馬占山……218-220
 秦巖夫……335, 345, 355, 440, 783
 畠山敏行……38, 287, 728, 744
 畑敬……464, 495, 661
 波多尚……453, 477, 478, 783
 波多博……42, 173-180, 783
 花田為次郎……151, 297, 434, 783
 馬場書生……138, 783
 浜口雄幸……77, 104, 129, 153, 154, 156,
 161, 791, 794, 795
 早川仁三……479, 485, 532, 783
 林銑十郎……335
 林豊八……301, 783
 林芙美子……61
 原奎一郎……286, 783
 原子林二郎……423
 原田, キャピエ(原田恒男)……335
 パングボーン, クライド……139, 400, 680, 795
 半谷高雄……331, 633, 783
 東川嘉一……6, 10, 11, 14, 18, 20, 26, 34,
 77, 82-87, 89, 125, 135, 151, 748, 784
 東久邇稔彦……420, 633, 636, 637, 703, 704,
 711, 783, 795, 796
 東信夫……221, 235, 784
 樋口憲吉……320, 345
 菱刈隆文……477, 479
 ヒトラー, アドルフ……142, 213, 258, 303, 367,
 368, 413, 503, 519, 520, 665, 668, 670,
 705, 709, 762
 火野葦平……344, 573, 795

田代皖一郎……251
多田貞三郎……506, 779
橘孝三郎……106
伊達源一郎……19, 55-59, 76, 128, 146, 177, 689, 779
田中理……488, 779
田中一雄……337, 779
田中義一……101, 110, 111, 113, 754
田中正太郎……91, 146, 320, 536, 702, 742, 779
田中都吉……28, 50, 276, 323, 327, 780
田中盛文……495, 656, 780
田中隆吉……255, 793
谷崎潤一郎……304
頼母木桂吉……117, 284, 285, 678, 780
玉錦……106, 141
田村源治……192, 248, 268, 602, 633, 690, 742, 780
段祺瑞……44, 753, 793
団琢磨……39, 131
知久義雄……304, 478, 479
千田真清……654, 780
チチェリン……49
秩父宮妃殿下……101
千葉亀雄……94, 95, 780
チャーチル, ウィンストン……257, 472, 473, 612, 616
チャプリン, チャールズ……106, 131, 150, 755, 793
張学良……169, 180, 196, 214, 219, 695, 756, 764, 794
張季鸞……43-48
張群……45, 168, 756
張作霖……66, 99, 104, 173, 219, 689, 792, 794
張志譚……44
塚原俊郎……262, 526, 619, 780
塚村敏夫……89, 92, 97, 149, 288, 306, 327, 394
塚本一生……301
塚本義隆……14, 20, 35, 89, 134, 135, 149, 173, 178-180, 223, 235, 372, 546, 629, 755, 780
辻政信……426, 458, 525, 695, 794

津田章……343, 780
津田静枝……47
津田正夫……371, 521, 780
土橋勇逸……563, 794
土屋元作……31, 35
角田匡……293, 489, 780
円谷文夫……409, 780
鶴見祐輔……37
鄭孝胥……48, 794
豊島房太郎……651
寺内寿一……259, 285, 466, 477, 480, 563, 604, 641, 691, 758, 794
寺西五郎……136, 150, 371, 423, 702, 781
出羽ヶ嶽……130
出羽海親方……142
田健治郎……110
田中玉……752
田英夫……386
天龍……107, 130, 131, 140, 754
土肥常温……13, 30, 51, 88, 781
土肥良造……408, 781
東京ローズ……390, 541, 698, 709, 760
東郷茂徳……143, 425, 590, 750, 764, 794
東条英機……211, 407, 421, 424, 431, 435, 463, 530, 534, 536, 695, 745, 762, 764, 791, 793, 794
東谷潤吉……646, 781
徳富蘇峰……752
戸国清太……295, 462, 781
得能益忠……396, 781
徳光衣城……31, 48, 56, 57, 87, 92-95, 101, 112, 126, 128, 677, 689, 781
殿木圭一……136, 149, 150, 248, 254, 255, 257, 279, 348, 350, 354, 364, 400, 481, 482, 567, 604, 633, 643, 645, 646, 661, 781
土肥原賢二……344, 694
富沢有為男……207, 794
友松敏夫……555, 781
豊田治助……134, 135, 151, 353, 372, 454, 556, 781
トルーマン, ハリー……590, 592, 612, 613, 616

鮫島志芽太……205, 777
三仙交二……418, 777
椎野豊……373, 524, 777
潮田三代治……431, 433, 440, 526, 769
塩津誠作……79
重光葵……366, 456, 793
幣原喜重郎……637, 707
篠原滋……346, 418, 465, 478, 481, 777
柴山正男……292, 777
志摩勝三……402
島田君子……19, 146, 777
下田歌子……317, 793
下村宏……276, 591, 777
ジャキノ……254, 255, 350
蔣介石……44, 45, 98, 168-170, 173, 177,
178, 180, 185, 203, 220, 253, 254, 256,
258, 261, 262, 269, 318, 347, 352, 364,
453, 475, 476, 512, 554, 555, 612, 616,
633, 636, 694, 695, 704, 756, 761, 791,
793, 794
小路春美……164, 166, 416, 425, 426, 429,
466, 478, 479, 483, 777
正力松太郎……276, 323, 709, 777
ショー, バーナード……150, 793
ジョーンズ, メーベル……6, 7
白尾千城……23, 173, 178-180, 288, 339, 346,
777
白仁進……297, 306, 405, 409, 410, 412, 702,
777
進藤陽吉郎……393, 777
秦徳純……249-252
スウィート, W. E. L……7, 79-83, 753, 778
菅沼不二男……456, 458
スカルノ……564, 570, 571
杉田栄三……450, 554, 778
杉田才一……11, 14, 778
鈴江言一……67, 69, 70
鈴木貫太郎……420, 421, 593, 616, 750, 777,
790, 793-795
鈴木幸次郎……54, 288, 447, 448, 553, 687,
688
鈴木俊久……7, 178, 179,
鈴木茂……129, 149, 692
スターリン, ヨシフ……258, 303, 520, 521, 591,

593, 612, 694, 792, 797
スチムソン, ヘンリー……592
ストーン, メルビル……2, 39, 778
スノー, エドガー……259
スプルアンス, レイモンド……510
住谷金吉……88, 306, 400, 404, 778
住谷晋一郎……14, 778
スモドレー, アグネス……259
関口寿一……205, 212, 221, 778
勢多左武郎……50, 78, 244, 778
瀬谷崎孝……597, 599, 778
曾仲鳴……311, 318, 319, 793
宋哲元……249, 261, 262, 265, 793
宋美齡……178
曹明志……16
孫殿英……456
孫美瑤……71
ソンヒル……66
孫文……45, 753, 791

【た行】

高石真五郎……276, 710, 721, 725, 778
高井信義……19, 56, 156
高岩吉……89, 135, 150
高雄辰馬……107, 248, 261, 305, 554, 778
高木益三郎……203, 778
高木八尺……167
高倉正夫……490, 532, 778
高田秀二……281, 477, 604, 646, 778
高野太郎……487, 779
高橋勇……20, 26, 34, 135, 149, 150, 178,
306, 779
高橋亀吉……275, 767
高橋是清……754
鷹嘴寿……23, 35, 135, 148, 288, 601, 681,
697, 779
高橋秀男……408, 779
高橋義樹……412, 510, 554, 779
高柳淳雄……697, 779
滝口義敏……136, 353, 385, 457, 690, 779
竹中三郎……192, 676, 779
武見太郎……544
田崎与喜衛……243, 290, 418, 422, 549, 589,
779

榎沢喜安……643, 645
黒沢英二……448, 556, 774
黒沢俊雄……290, 479, 577, 584, 588, 662,
774, 782
グロスター公……174, 175
ゲイン, マーク……303, 334, 335
結束武二郎……10, 13, 20, 34, 133, 157, 177,
178, 180, 181, 283, 288, 294, 408, 774
結束博治……509
ゲッベルス, ヨゼフ……519
ケネディ, ジョン・ラッセル……2, 4-12, 14, 18,
21, 39, 62, 70, 80, 81, 746, 747, 774
ケネディ, マルコム・ダンカン……80, 81, 774
ケネディ, ウルセル……7
源関正寿……606, 774
源田実……404
鯉江正木……427, 428, 479, 761
小泉辰雄……509, 774
小磯国昭……330, 420, 435, 536, 771, 793
小糸忠吾……371, 380, 390, 611, 774
洪孔煒……609, 611, 775
神坂鶴太……134, 149, 398, 772
孔祥熙……38, 169, 170
高宗武……254
胡漢民……98
五鬼上堅磐……288, 758, 766
小暮美千代……207, 792
牛腸五郎……282
胡適……252, 792
小寺巖……136, 150, 368, 371, 775
後藤新平……37, 49, 314, 707, 792, 797
後藤丙午……338, 339, 549
近衛篤磨……333, 334
近衛文磨……333-335, 347, 421, 425, 463,
470, 569, 704, 761
小林一三……468
小林修三……247, 282, 505, 775
小林隆資……346, 775
小林徳宝……35, 149, 208, 212, 215, 599,
601, 775
小松半次郎……11, 34, 35
小松利一……291, 296, 386
小村欣一……51, 70
小山武夫……335, 346, 419, 458, 462, 775

小山正美……483, 775
胡霖……43, 45-48, 66, 72, 775
近藤公一……89, 429, 491, 661
今日出海……573, 792

【さ行】

西園寺公望……162, 209, 241, 306, 589, 759,
763, 793, 796
斎藤桂助……262, 304, 312, 434, 468, 478,
479, 503, 508, 574, 578, 584, 588, 775
斎藤龍雄……600, 775
斎藤ツル……281, 282
斎藤正躬……193, 252, 261, 266, 337, 344,
668, 775
坂斎小一郎……164, 166
坂下健一……207, 209, 210, 211, 221, 775
坂田寛蔵……192, 405, 632, 775
坂田二郎……140, 333, 347, 520, 629, 633,
776
坂田東助……193, 195, 776
阪谷希一……143
ザカライアス, エリス……550-552, 793
崎谷三郎……216, 776
桜田ユキ……288, 289, 776
迫水久常……12, 241, 590, 703, 750, 793
佐々木健児……40, 42, 61, 91, 103, 114, 129,
174, 180, 200, 202, 208, 209, 221, 248,
259, 261, 267, 269, 308, 322, 337, 340,
450, 465, 536, 546, 676, 692, 702, 776
佐々木凜一……370, 668, 776
笹森三郎……295, 364, 776
佐藤一郎……410, 414, 776
佐藤喜一郎……355, 406, 409, 441, 628, 744
佐藤啓之……406, 525, 776
佐藤俊司……452, 776
佐藤長蔵……650, 656, 776
佐藤尚武……520, 629
佐藤文三郎……394, 776
佐藤顕理……4, 5, 78, 79, 88, 746, 776, 785
佐藤善雄……80, 104
里見甫……174, 200, 777
里村欣三……580, 793
座間勝平……42, 177, 777
ザミアチン……282

小川優……380, 572, 574, 771
奥村喜和男……285, 291
小椋留吉……282, 465, 771
小栗周三郎……499, 771
尾崎士郎……573, 792
尾崎秀実……174, 177, 771
小沢俊則……608, 771
鷺尾武治……606, 771
小田善一……107, 306, 310, 664, 668, 670,
771
小野敏夫……204, 258, 487, 772
小汀利得……275, 727
小原国芳……308, 792
折橋慶治……42, 284, 772

【か行】

カーン、デイヴィッド……335
皆藤幸蔵……371, 502, 572, 576, 638, 772
賀川豊彦……68, 792
郭松齡……689, 792
影佐禎昭……46, 312, 347, 792
神子島梧郎……26, 174, 175
風見章……31, 88
香椎浩平……247
梶川昭……411, 772
加瀬俊一……214, 591, 750
片岡誠一……655, 772
片山哲……405
加藤静絵……146, 772
加藤万寿男……23, 172, 381, 389, 524, 536,
614, 700, 742, 772
加藤松……257, 502, 505, 572, 578, 588, 772
樺山愛輔……5, 22, 39, 70, 380, 747, 772
神坂鶴太……134, 149, 398, 772
上村藤吉……4, 11, 36, 288, 332, 391, 478,
772
亀谷利一……61, 171, 179, 772
カラハン、レフ……49, 62, 63, 66, 316, 753,
792, 797
カリーニン、ミハイル……520
河相達夫……713, 716, 792
川勝伝……293
川上貞奴……35, 792
川上十郎……407, 772

川越茂……253, 756, 792
川崎正雄……167, 179, 185, 261, 269, 633,
772
川島信太郎……29, 138, 288, 289, 676, 679,
773
川島芳子……695
木内信胤……386
菊江栄一……189, 356, 440, 773
菊池寛……207
菊地久太郎……173, 180, 257, 676, 684, 773
菊地四郎……557, 773
菊地守……668, 670, 671
岸田繁……657, 773
木島重治……208, 773
北白川宮……342
北野憲造……662
北原白秋……305
喜多原星朗……188, 343, 440, 773
木戸幸一……421
木下東作……26
木下秀夫……371, 381, 423
木原喜一……694, 773
木村哲造……114, 773
木村嘉宏……338, 773
木村良一……399, 773
清河政雄……559, 773
ギンスバーグ、マーク(モー)……334
クーパー、ケント……742
久我豊雄……184, 258, 334, 359, 633, 773
串田万蔵……71, 792
葛生林之助……144, 296, 774
クズネツォフ、ニコライ……142, 143
葛野信太郎……650, 774
葛山照夫……343, 774
久野茂男……364, 371, 485, 559, 638
久原房之助……101, 111
久保田久男……145, 774
熊谷正男……138, 297, 774
久米正雄……97, 102, 792
クラーク河上……381
栗林忠道……461
栗林農夫……19, 156, 267, 294, 303, 305,
310, 441, 547-549, 774
来栖三郎……614

猪股芳雄……676, 689, 768
 伊庭英雄……463, 464, 768
 猪伏清……91, 134, 151, 320, 357, 493, 494, 497, 498, 656, 663, 768
 井本威夫……303, 334
 入江啓四郎……171, 269, 407, 768
 入江徳郎……212
 岩永省一……37, 769
 岩永信吉……110, 267, 353, 364, 464, 465, 467, 478, 479, 489, 565, 566, 571, 633, 742, 769
 岩永裕吉……10, 18, 19, 29, 36-38, 70, 76, 125, 127, 129, 133, 147, 149, 156, 161, 181, 191, 200, 202, 238, 258, 260, 276, 281, 284, 287, 294, 307, 333, 372, 746, 747, 756, 769, 785
 岩波茂雄……121, 252, 589, 791
 岩本清……38, 78, 134, 135, 150, 179-181, 269, 289, 353, 572, 588, 769
 上田碩三……38, 59, 189-191, 288, 294, 743, 769
 上野伊三郎……34, 135, 149, 152, 690, 769
 ウェンライト, ジョナサン……614
 宇垣一成……113
 宇佐美猪之松……572, 769
 潮田三代治……431, 433, 440, 526, 769
 牛島俊作……333, 345, 462, 491
 後宮淳……251
 歌橋淑郎……595, 599
 内田啓明……492, 501, 658, 769
 内田康哉……122, 791
 内村鑑三……37, 38, 64
 内山林之助……164, 166
 宇都宮房次郎……44
 内海裕士士……491, 769
 海路昌臣……142, 209, 769
 浦岡偉太郎……436, 456, 458, 459, 619, 769
 江木千之……98
 江尻進……366, 367, 517, 668, 670, 769
 榎本ふく……288, 289, 770
 遠藤柳作……143
 及川六三四……338, 340
 王克敏……252, 758, 791
 汪兆銘(汪精衛)……45, 46, 47, 180, 184, 256, 303, 311, 312, 318, 319, 347, 348, 456, 458, 462, 476, 758, 759, 791-793
 大賀知周……19, 31, 56, 89, 92, 100, 103, 127, 146
 大鋸時生……148, 149, 215, 607, 770
 大川幸之助……42, 91, 92, 127, 202, 260, 278, 288, 289, 296, 310, 332, 676, 689, 770
 大久保利貞……241
 大隈重信……2
 大倉喜八郎……8, 9
 大沢正作……404, 770
 大杉栄……244, 585
 大高義孝……603, 770
 大竹貞雄……371, 381, 612
 大竹博吉……49
 大西秀治……196, 211, 770
 大沼太……452, 770
 大ノ里……140, 141
 大庭柯公……21, 70
 大橋八郎……713, 719, 729
 大橋博……502, 770
 大平安孝……61, 91, 103, 156, 180, 240, 248, 285, 294, 308, 317, 322, 409, 504, 536, 634, 662, 750, 770
 大星石松……170, 269, 346, 633, 770
 大森吉五郎……19, 297, 418, 423, 477, 536, 770
 大屋久寿雄……307-309, 318, 319, 426, 439, 476, 477, 551, 664, 759, 770
 大宅壮一……467, 770
 岡崎亀市……305, 440, 497, 498, 512, 770
 岡田啓介……107, 109, 111, 241, 242, 420, 421, 793, 794
 緒方竹虎……276, 419, 771, 783
 岡田寿吉……602
 岡田政史……300, 771
 岡野忠一……293, 771
 岡村二一……91, 103, 148, 156, 214, 215, 244, 261, 267, 281, 295, 303, 305, 306, 308, 322, 338, 551, 705, 713, 771
 岡本一平……88, 791
 岡本一男……173, 179, 180
 岡本輝磨……132, 480, 638, 771
 小川隆康……413, 771

索引

人名(五十音順)

【あ行】

- 相沢三郎……754
相島勘次郎……21, 766
愛新覚羅溥儀……233, 757, 790
青野季吉……69, 88, 790
赤尾敏……103
アギナルド, エミリオ……575, 790
秋山静子……287, 766
秋山操……78, 135, 149, 150, 296, 559, 604, 646, 766
秋山如水……435, 436, 479, 501, 505, 661, 766
阿久津カウ……607, 766
朝井春子……288, 766
浅沼稻次郎……104, 790
浅野豊……91, 103, 125, 140, 195, 240, 296, 549, 607, 702, 766
芦川選太郎……415, 766
芦田均……542, 551, 790
麻生林策……302, 602
安達鶴太郎……367, 371
我妻繁夫……275, 480, 485, 766
アトリー, クレメント……590
阿南惟幾……485, 500, 591, 656, 790
阿部孫一……129, 193, 269, 676, 767
阿部行雄……657, 660, 767
天野辰夫……755
天野良和……92, 94, 234, 235
天羽英二……697
荒井勝三郎……630, 767
新井正義……419, 423, 702, 767
荒尾達雄……295, 303-305, 406, 479, 745, 767
荒尾弘……145, 297, 622, 767
荒垣秀雄……102
荒木貞夫……244
有田八郎……51, 542, 615, 790
有吉明……42, 790
粟屋関一……51, 79
安藤輝三……108, 241, 244, 245, 790
安藤利男……265, 767
飯田信夫……467, 791
イーデン, アンソニー……253
井口貞夫……390, 537, 542, 551, 615, 791
池上幹徳……136, 149, 150, 355, 668, 767
石井衛太……7, 8, 11, 115, 117, 118, 261
石川達三……96, 479, 663, 791
石川宏……354, 767
石坂洋次郎……573
石津英司……114, 117, 118, 767
石橋湛山……205
石部幸弑……7, 111, 176, 202, 260, 288, 289, 767
石光真人……322, 767
石山重雄……298, 767
石原莞爾……220, 227, 791
井関納……277, 768
伊勢田富久……149, 151
板垣征四郎……219, 277, 341, 431, 748, 791
板垣武男……20, 91, 114, 134, 136, 149, 221, 248, 292, 297, 308, 322, 399, 423, 465, 536, 550, 559, 572, 702, 768
市川正一……69, 88, 791
市川太郎……111, 425, 462
一力次郎……323, 395, 728
井出新六……295, 384, 768
伊藤勝司……4, 11, 78, 768
伊藤正徳……325, 691, 713, 727, 743, 751, 764, 768
稲葉重太郎……353, 768
稲本国雄……134, 149, 150, 371, 381, 382, 410, 416, 768
犬養健……46, 311, 318, 319, 334, 347, 791
犬養毅……134, 347, 791
犬養康彦……347
井上勇……308, 371, 389, 467, 478, 479, 531, 536, 550, 586, 615, 702, 768
井上準之助……39, 71, 131, 316, 317, 791
井上達……466, 477, 478
井上肇……299, 768

しょうげん つうしんしゃし
証言 通信社史

2021年6月10日 発行

編集 『証言 通信社史』 編集委員会

発行者 西沢 豊

発行所 公益財団法人新聞通信調査会

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-1

日本プレスセンタービル1階

電話 03-3593-1081 (代表)

URL: <https://www.chosakai.gr.jp/>

© Japan Press Research Institute 2021, Printed in Japan

編集協力：時事通信出版局／鐵五郎企画

装幀・本文デザイン：キトミズデザイン

印刷・製本：太平印刷社